

平成29年度  
男女共同参画に関する  
市民意識調査報告書

平成30年3月

桶川市

# 目 次

I 調査の概要	3
<属性>	4
II 調査結果	11
<質問及び回答>	
(1) 男女平等意識について	11
(2) 家庭生活について	18
(3) ワーク・ライフ・バランスについて	27
(4) 就労について	31
(5) 配偶者等からの暴力について	36
(6) 防災について	50
(7) 地域参加・社会参画について	54
(8) 桶川市の政策（男女共同参画推進施策）について	63
III 記述部分と意見、要望等	69
参考資料	
依頼文及び調査票	83

## I 調査の概要



## 調査の概要

### 1. 目的

男女共同参画に関する市民の意識や実態を調査することにより、課題を把握し、今後の男女共同参画計画の策定及び男女共同参画施策の推進における基礎資料として活用することを目的とする。

### 2. 調査の概要

- (1) 調査地域：桶川市全域
- (2) 調査対象：市内在住の満18歳以上の男女1,000人（平成29年9月1日現在）
- (3) 抽出方法：住民基本台帳に基づく無作為抽出
- (4) 調査方法：郵送配布、郵送回収
- (5) 調査期間：平成29年10月5日（木）～10月31日（火）

### 3. 調査内容

- (1) 男女平等意識について
- (2) 家庭生活について
- (3) ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）について
- (4) 就労について
- (5) 配偶者等からの暴力について
- (6) 防災について
- (7) 地域参加・社会参画について
- (8) 桶川市の政策（男女共同参画推進施策）について
- (9) 自由意見

### 4. 調査結果

- (1) 標本数：1,000（女性：500人 男性：500人）
- (2) 有効回収数：458（女性：270人 男性：186人 性別無回答：2人）回収数：458
- (3) 有効回収率：45.8%（女性59.0% 男性：40.6%）

### 5. 調査結果の留意点

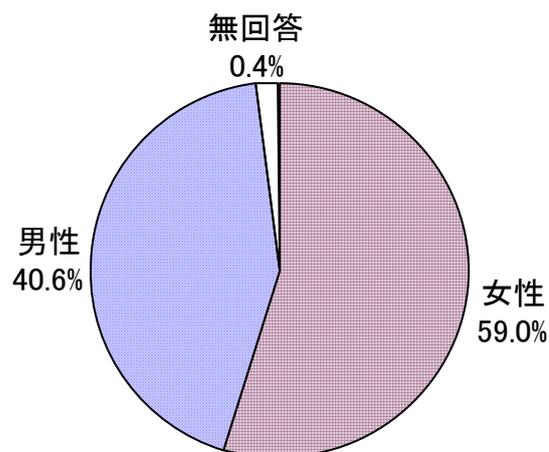
- (1) 図表中の「n」は、該当質問における有効回答者数総数を表す。
- (2) 構成比(%)は各々の回答数を該当する全体数（複数回答の場合はその合計）で除した値であり、合計値は100%にならない場合がある。
- (3) 構成比(%)は少数点第2位を四捨五入しているため、各構成比と合計値は一致しない場合がある。
- (4) グラフの「全体」には、女性及び男性のほか性別欄無記入者が含まれる。
- (5) グラフ・結論等の表記は、明確化を図り簡略化しているため、設問の表現とは一致しない場合がある。

I 調査の概要

<属性>

1 性別 (n=458)

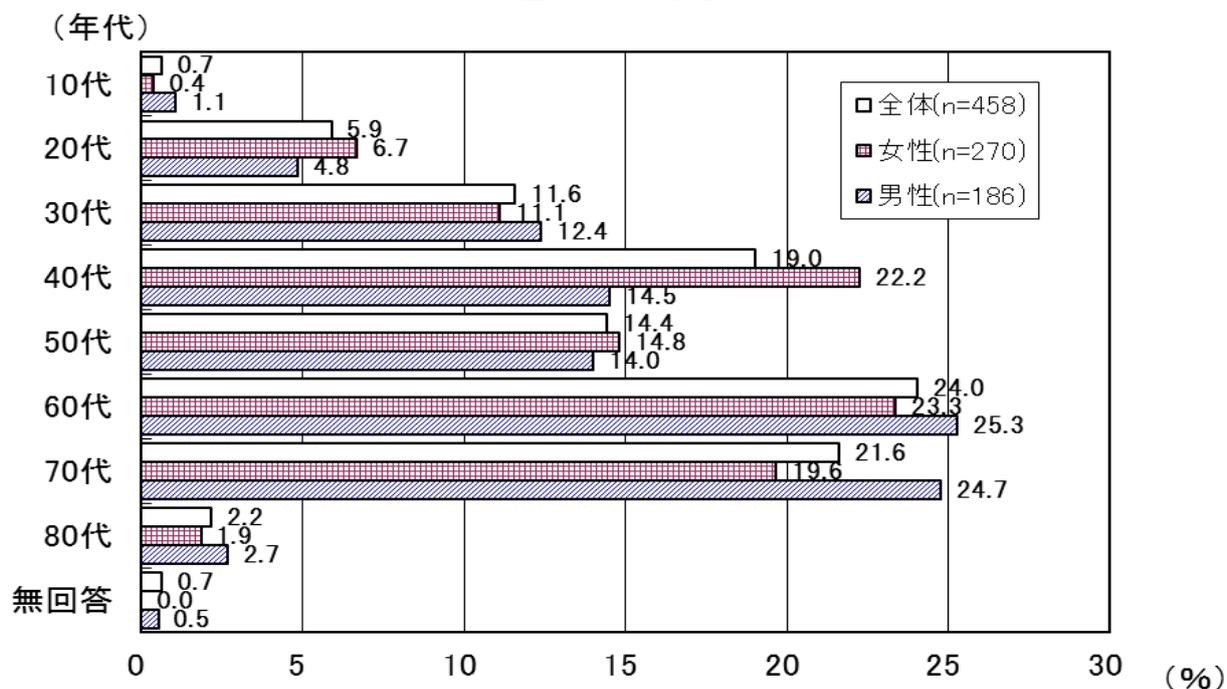
	基数	構成比
合計	458	100
女性	270	59.0
男性	186	40.6
無回答	2	0.4



2 年齢 (平成 29 年 9 月 1 日現在)

	合計	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
全体	458	3	27	53	87	66	110	99	10	3
(%)	100.0	0.7	5.9	11.6	19.0	14.4	24.0	21.6	2.2	0.6
女性	270	1	18	30	60	40	63	53	5	-
(%)	100.0	0.4	6.7	11.1	22.2	14.8	23.3	19.6	1.9	-
男性	186	2	9	23	27	26	47	46	5	1
(%)	100.0	1.1	4.8	12.4	14.5	14.0	25.3	24.7	2.7	0.5

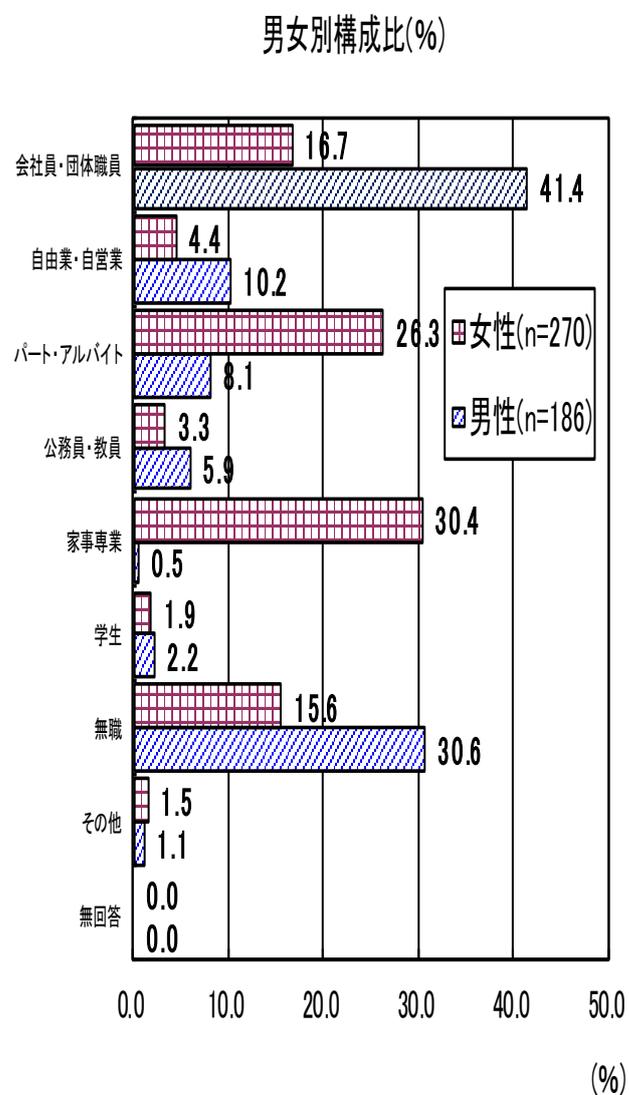
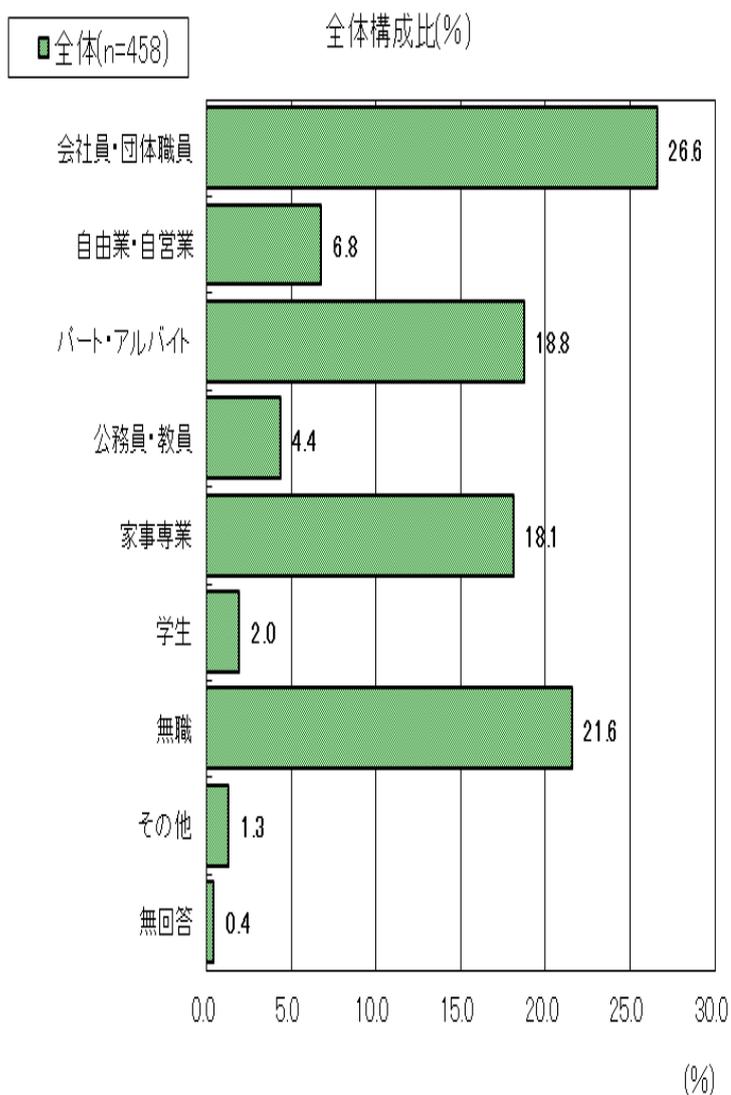
属性別の構成比



### 3. 職業

上段は基数、下段は構成比(%)

	合計	会社員・ 団体職員	自由業・ 自営業	パート・ア ルバイト	公務員・ 教員	家事専業	学生	無職	その他	無回答
全体	458	122	31	86	20	83	9	99	6	2
(%)	100.0	26.6	6.8	18.8	4.4	18.1	2.0	21.6	1.3	0.4
女性	270	45	12	71	9	82	5	42	4	0
(%)	100.0	16.7	4.4	26.3	3.3	30.4	1.9	15.6	1.5	0.0
男性	186	77	19	15	11	1	4	57	2	0
(%)	100.0	41.4	10.2	8.1	5.9	0.5	2.2	30.6	1.1	0.0



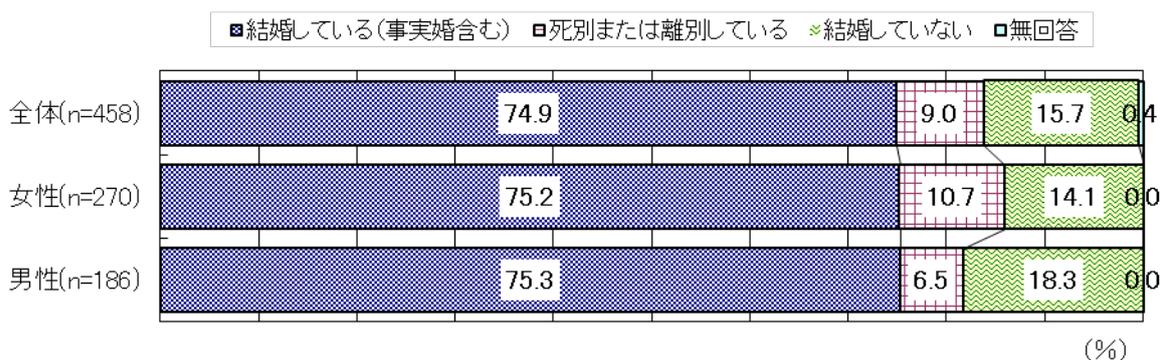
Ⅰ 調査の概要

4. 結婚の有無

表は基数、図は構成比(%)

	合計	結婚している(事実婚含む)	死別または離別している	結婚していない	無回答
全体	458	343	41	72	2
女性	270	203	29	38	0
男性	186	140	12	34	0

未既婚別比 (%)

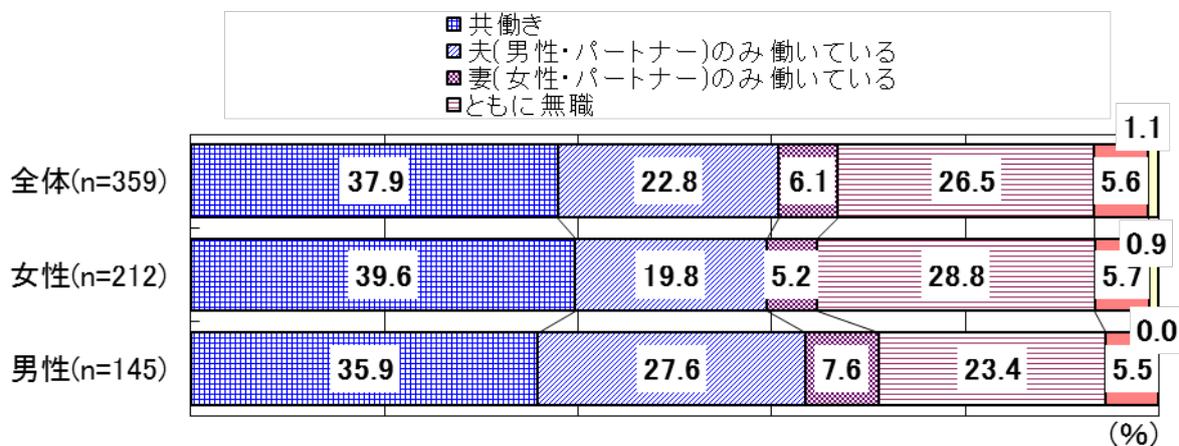


5. 勤労形態

表は基数、図は構成比(%)

	合計	共働き	夫(男性・パートナー)のみ働いている	妻(女性・パートナー)のみ働いている	ともに無職	その他	無回答
全体	359	136	82	22	95	20	4
女性	212	84	42	11	61	12	2
男性	145	52	40	11	34	8	0

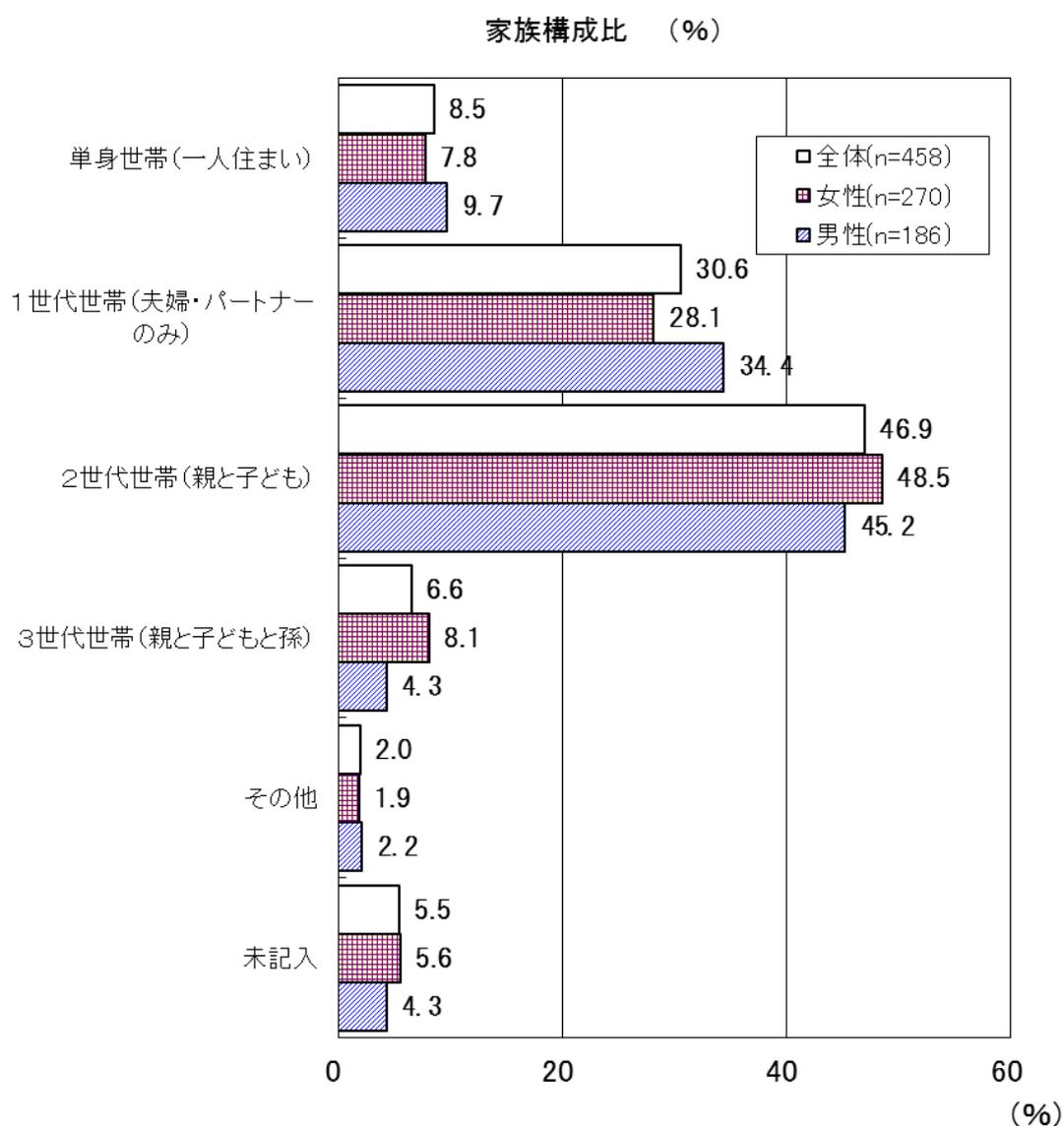
勤労形態比 (%)



## 6. 家族構成

上段は基数、下段は構成比(%)

	合計	単身世帯	1世代世帯	2世代世帯	3世代世帯	その他	無回答
全体	458	39	140	215	30	9	25
(%)	100.0	8.5	30.6	46.9	6.6	2.0	5.5
女性	270	21	76	131	22	5	15
(%)	100.0	7.8	28.1	48.5	8.1	1.9	5.6
男性	186	18	64	84	8	4	8
(%)	100.0	9.7	34.4	45.2	4.3	2.2	4.3





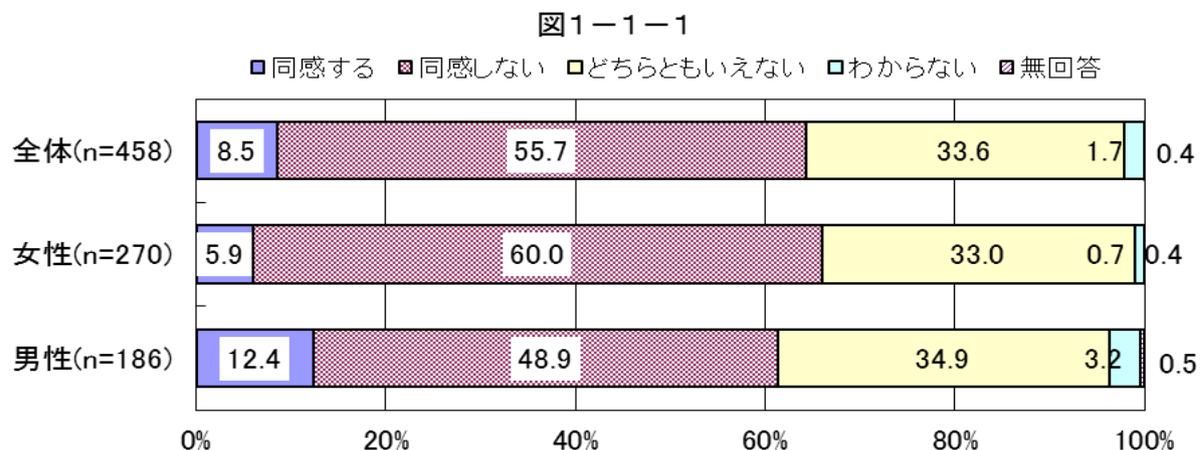
## II 調査結果



Ⅱ 調査結果

(1) 男女平等意識について

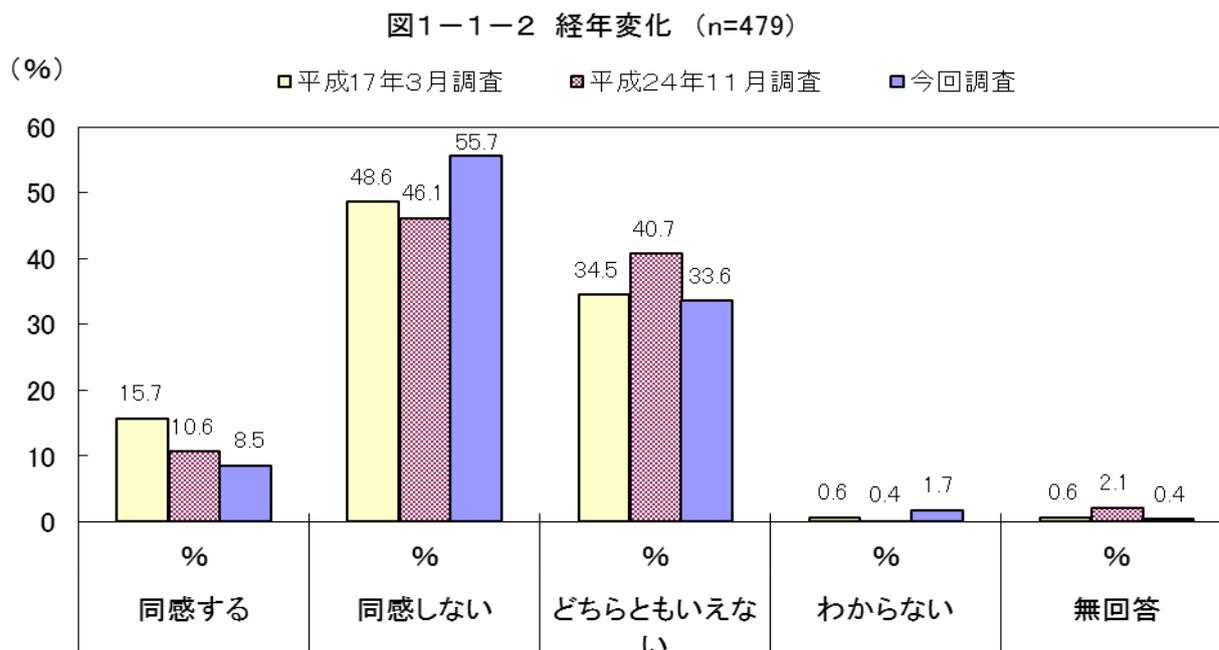
問1 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しますか。(○は1つ)



全体では、「同意しない」が55.7%となっており、「同意する」が8.5%で、約6倍となっている。また、「どちらともいえない」が33.6%となっている。

男女別でみると、男女とも「同意しない」が高くなっており、女性が60.0%、男性が48.9%となっている。また、「同意する」は女性が5.9%に対し、男性が12.4%で約2倍となっている。

(図1-1-1)



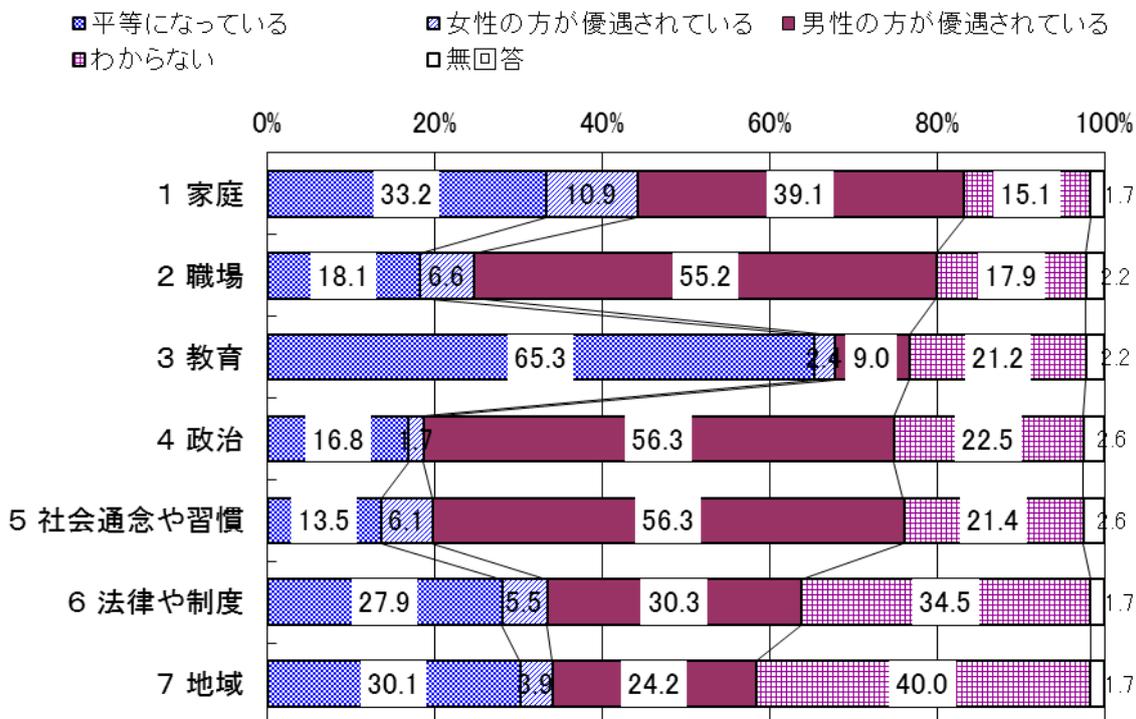
<経年変化>

平成17年調査から年々「同意する」は減少している。「同意しない」は今回の調査で最も高く、半数を超えている。(図1-1-2)

Ⅱ 調査結果

問2 次のような分野で、男女のあり方はどのようになっていると思いますか。  
(それぞれあてはまる番号に○)

図1-2-1 (全体n=458)



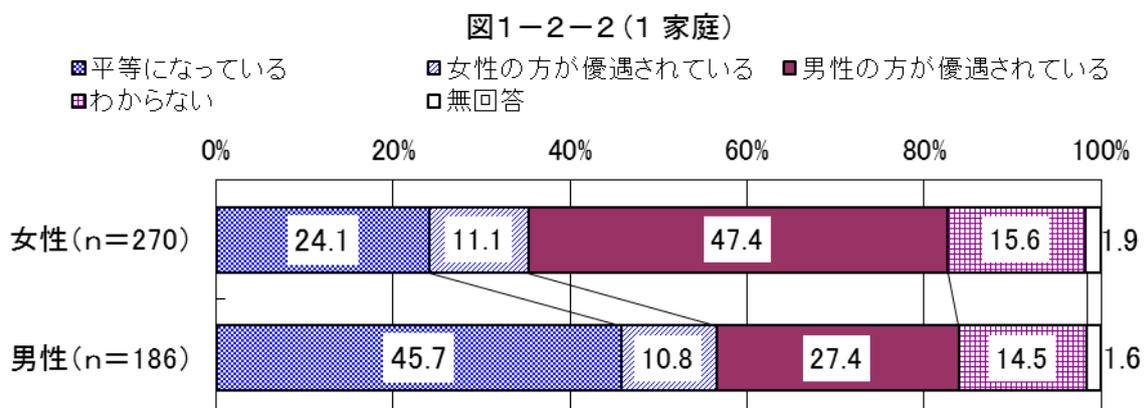
全体では、「平等になっている」の上位は、【教育】が65.3%、次いで【家庭】が33.2%となっている。

「女性の方が優遇されている」の上位は、【家庭】が10.9%、次いで【職場】が6.6%となっている。

「男性の方が優遇されている」の上位は、【政治】と【社会通念や習慣】が56.3%と同数になっている。(図1-2-1)

また、男女別にみると、全ての項目において「平等になっている」は男性が女性を上回っている。(図1-2-2～1-2-8)

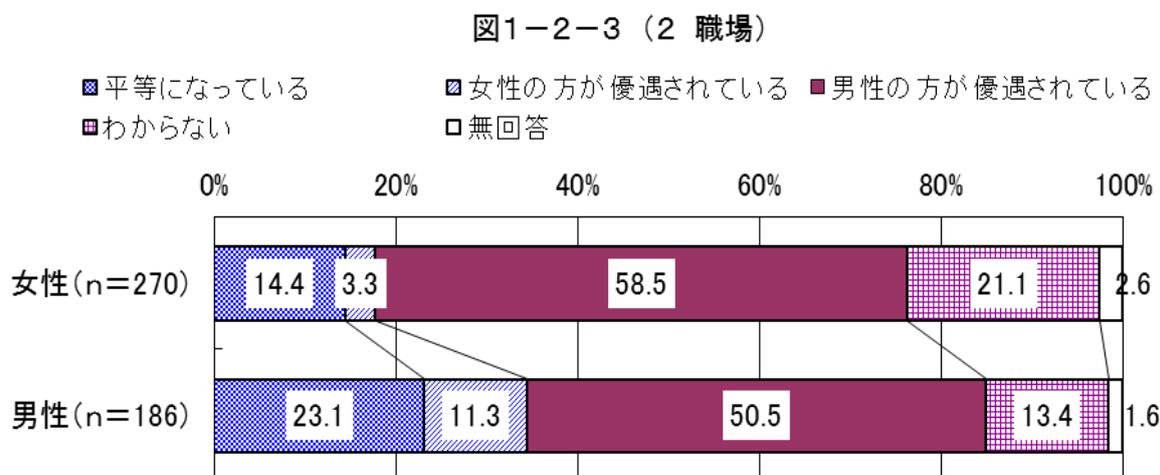
1 家庭



【家庭】

男女別にみると、女性は「男性の方が優遇されている」が47.4%と高くなっており、男性は「平等になっている」が45.7%と高くなっている。また、男女とも「女性が優遇されている」は女性が11.1%、男性が10.8%と低くなっている。(図 1-2-2)

2 職場



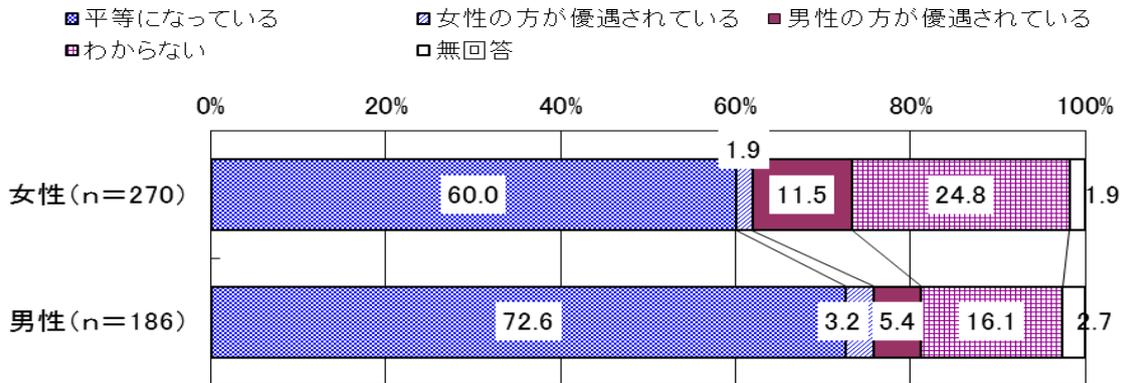
【職場】

男女別にみると、男女とも「男性の方が優遇されている」が高くなっており、女性が58.5%、男性が50.5%となっている。(図 1-2-3)

Ⅱ 調査結果

3 教育

図1-2-4 (3 教育)

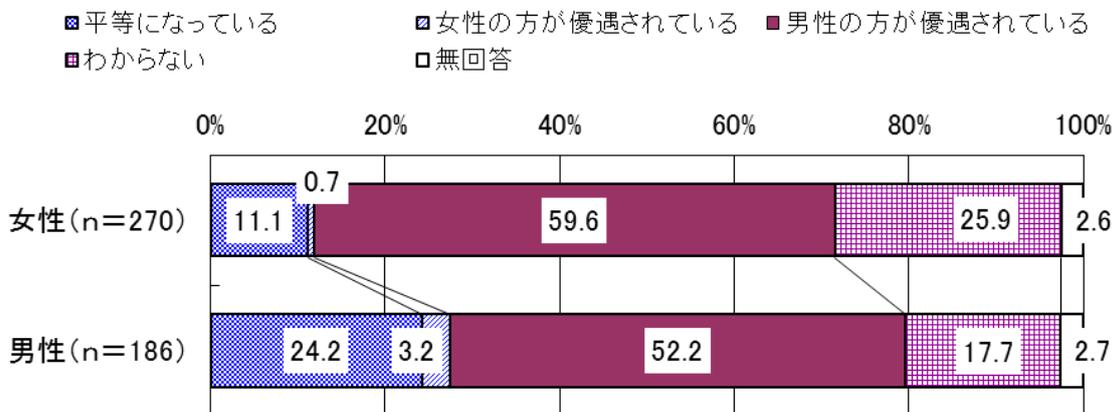


【教育】

男女別にみると、男女とも「平等になっている」が高くなっており、女性が60.0%、男性が72.6%となっている。この項目は「平等になっている」が男女とも最も高くなっている。(図1-2-4)

4 政治

図1-2-5 (4 政治)

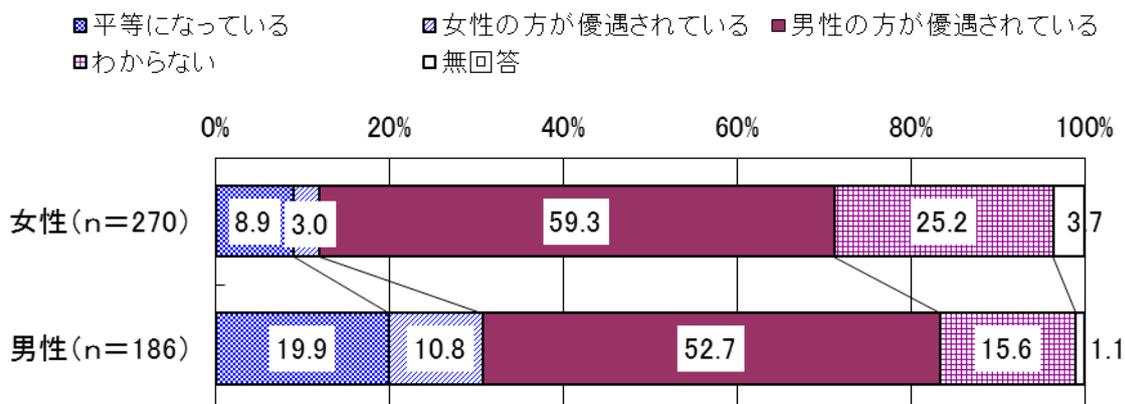


【政治】

男女別にみると、男女とも「男性の方が優遇されている」が高くなっており、女性が59.6%、男性が52.2%となっている。この項目は「女性のほうが優遇されている」が男女とも最も低くなっている。(図1-2-5)

5 社会通念や習慣

図1-2-6 (5 社会通念や習慣)

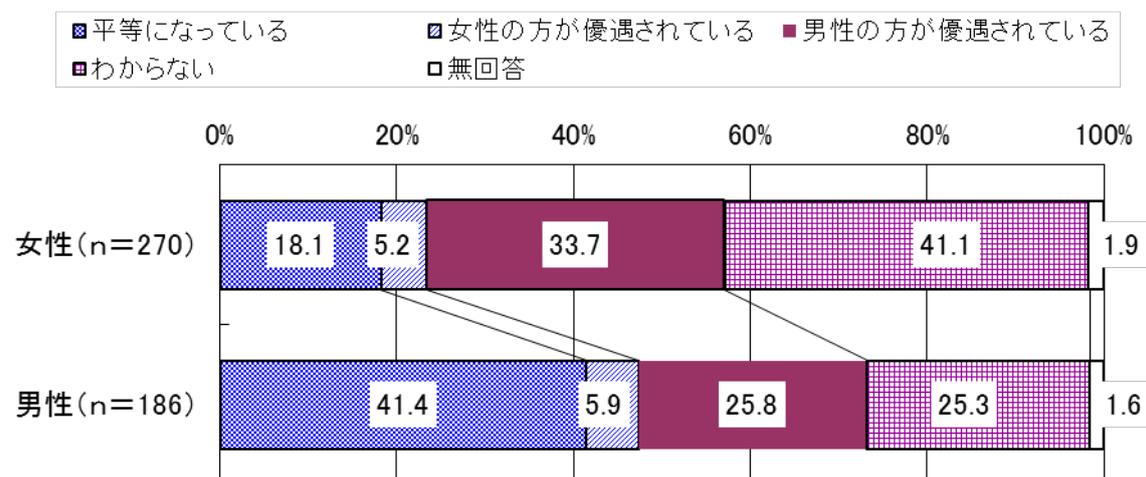


【社会通念や習慣】

男女別にみると、男女とも「男性の方が優遇されている」が高くなっており、女性が 59.3%、男性が 52.7%となっている。(図 1-2-6)

6 法律や制度

図1-2-7 (6 法律や制度)



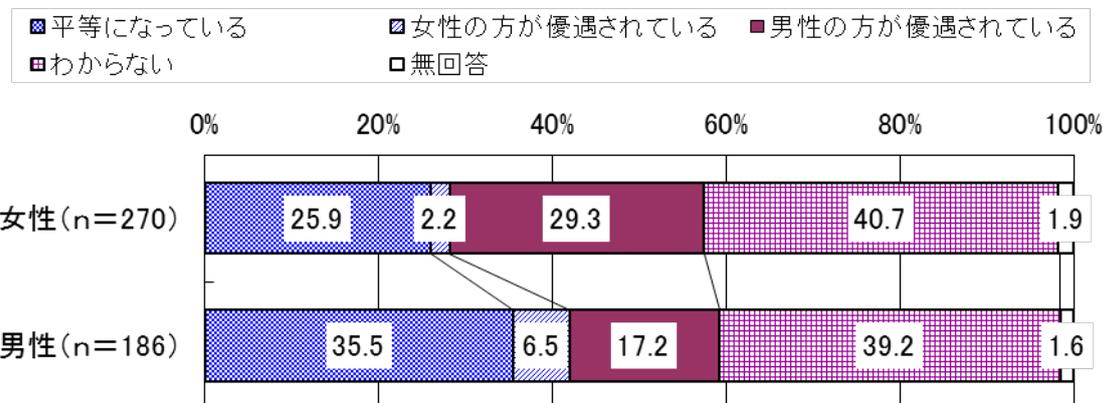
【法律や制度】

男女別にみると、女性は「わからない」が 41.1%、「男性の方が優遇されている」が 33.7%と高くなっており、男性は「平等になっている」が 41.4%と高くなっている。(図 1-2-7)

## Ⅱ 調査結果

### 7 地域

図1-2-8 (7 地域)

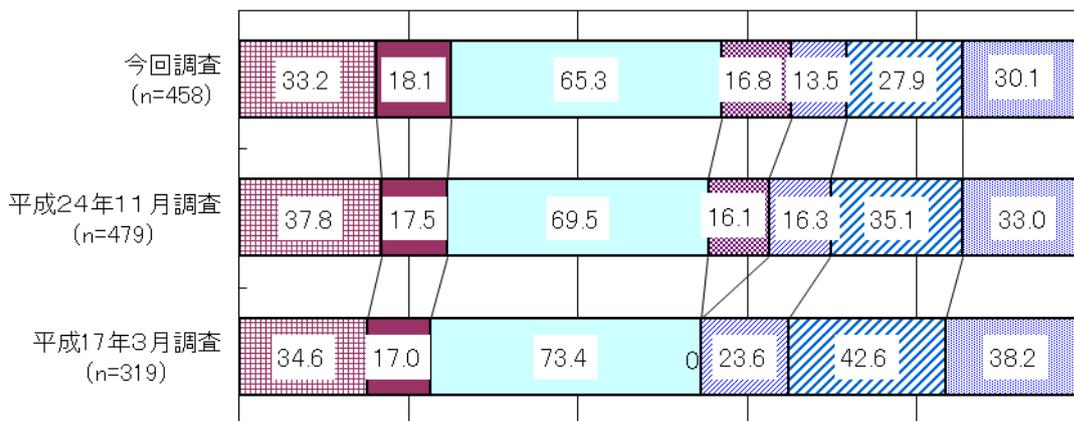


#### 【地域】

男女別にみると、男女とも「わからない」が高くなっており、女性は40.7%、男性が39.2%となっている。次に高いのは、女性は「男性のほうに優遇されている」が29.3%となっており、男性は「平等になっている」が35.5%となっている。(図1-2-8)

図1-2-9 経年変化(平等になっている)

■1 家庭 ■2 職場 □3 教育 ■4 政治 ■5 社会通念や習慣 ■6 法律や制度 ■7 地域



\* 「0」表記は調査時に選択肢が無い項目

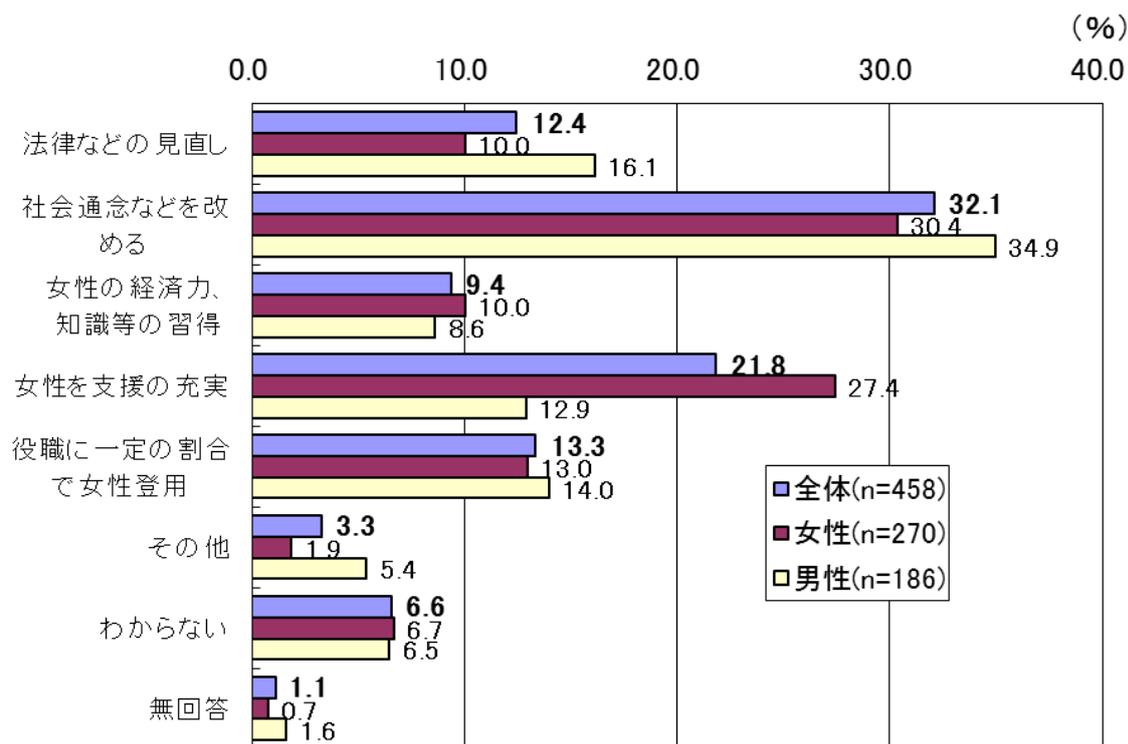
#### <経年変化>

平成17年調査から、「平等になっている」が最も高いのは【教育】だが、その割合は年々減少している。平成24年調査との比較では、【職場】【政治】は増加しており、他の項目は減少している。(図1-2-9)

問3 今後、社会のあらゆる分野で男女がより平等になるために、最も重要と思うことはなんですか。(〇は1つ)

1. 法律や制度上での見直しを行い、差別につながるものを改めること
2. 古くからの社会通念、習慣、しきたりを改めること
3. 女性自身の経済力、知識や技術の習得などの向上を図ること
4. 女性の就業、社会のあらゆる分野で活躍する女性を支援する施設やサービスの充実を図ること
5. 政府や企業、地域社会などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を取り入れること
6. その他 ( )
7. わからない

図1-3



全体では、「古くからの社会通念、習慣、しきたりを改めること」が32.1%と高くなっており、女性は30.4%、男性は34.9%となっている。

男女別でみると、女性は「女性の就業、社会のあらゆる分野で活躍する女性を支援する施設やサービスの充実を図ること」が27.4%と高くなっており、男性は「法律や制度上での見直しを行い、差別につながるものを改めること」が16.1%と高くなっている。(図1-3)

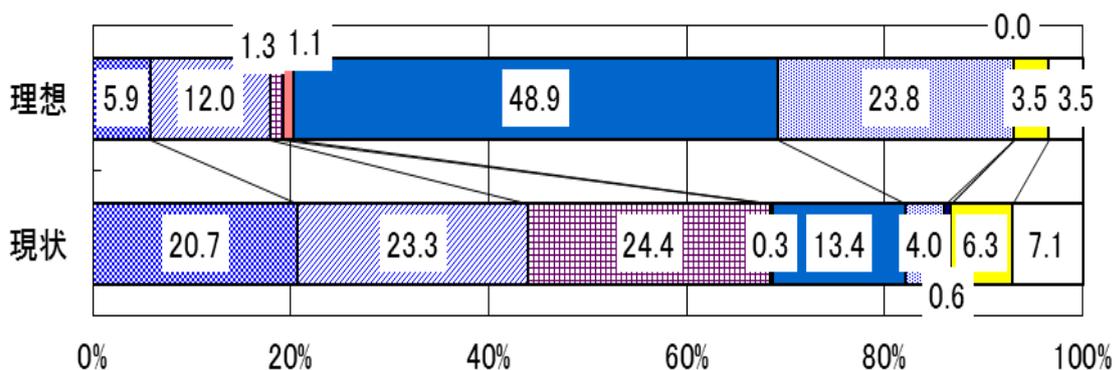
Ⅱ 調査結果

(2) 家庭生活について

問4 家庭における男女の役割分担について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際に結婚している方や、パートナーと同居している方の状況はどうですか。次の中から、あなたの考え方や状況に最も近いものを選んで、それぞれの  の中に番号をご記入ください。(番号は1つ)

図2-1-1 (全体n=458)

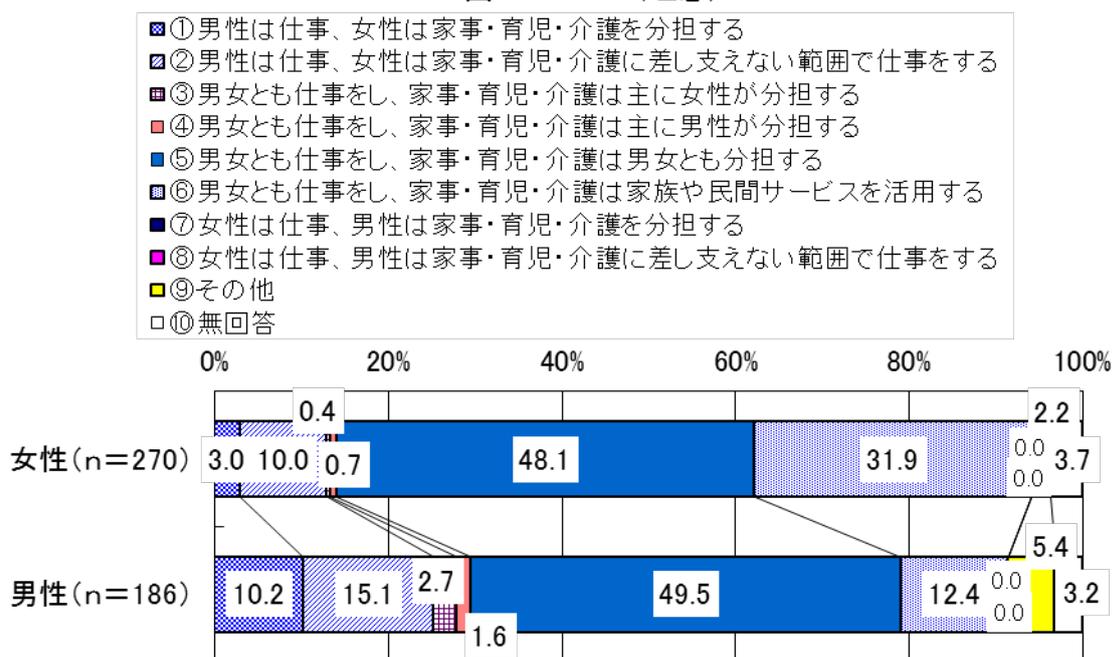
- ① 男性は仕事、女性は家事・育児・介護を分担する
- ② 男性は仕事、女性は家事・育児・介護に差し支えない範囲で仕事をする
- ③ 男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する
- ④ 男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に男性が分担する
- ⑤ 男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女とも分担する
- ⑥ 男女とも仕事をし、家事・育児・介護は家族や民間サービスを活用する
- ⑦ 女性は仕事、男性は家事・育児・介護を分担する
- ⑧ 女性は仕事、男性は家事・育児・介護に差し支えない範囲で仕事をする
- ⑨ その他
- ⑩ 無回答



全体では、【理想】は「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女とも分担する」が48.9%、次いで「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は家族や民間サービスを活用する」が23.8%と高くなっている。

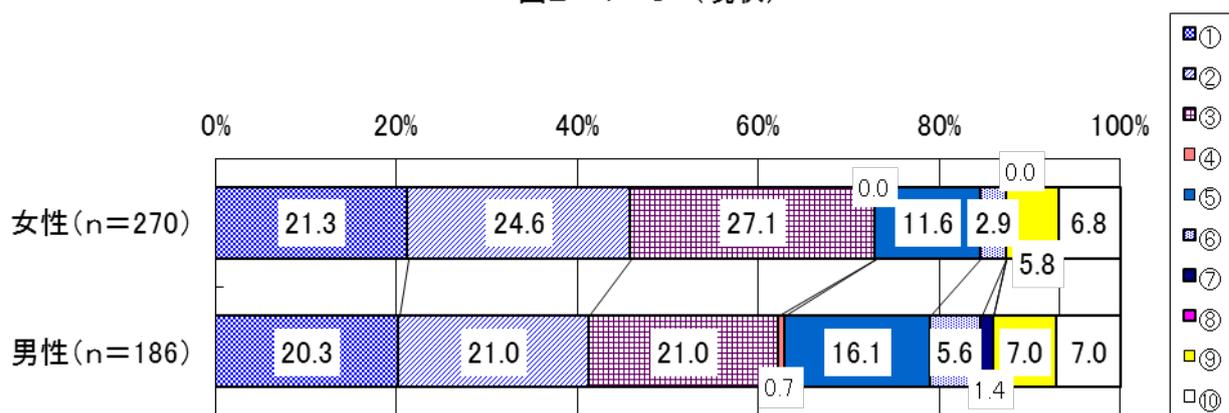
【現状】は「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」が24.4%、次いで「男性は仕事、女性は家事・育児・介護に差し支えない範囲で仕事をする」が23.3%と高くなっている。(図2-1-1)

図2-1-2 (理想)



男女別にみると、【理想】は男女とも「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女とも分担する」が高く、女性が48.1%、男性が49.5%となっている。また、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は家族や民間サービスを活用する」は女性が31.9%に対し、男性が12.4%で女性が約2倍となっている (図2-1-2)

図2-1-3 (現状)



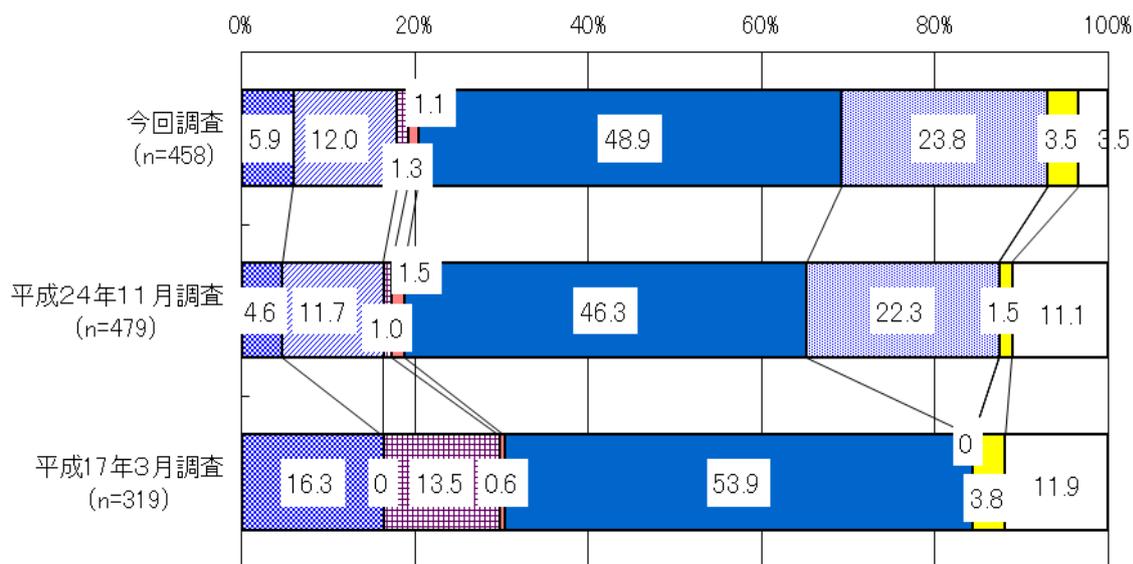
\* 「0」表記は選択されていない項目

男女別にみると、【現状】は女性では、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」が27.1%と高く、男性では、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護に差し支えない範囲で仕事をする」が21.0%と同数で高くなっている。また、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女とも分担する」は、女性が11.6%、男性が16.1%で男性の方が高くなっている。(図2-1-3)

## II 調査結果

### 図2-1-4 経年変化(理想)

- ①男性は仕事、女性は家事・育児・介護を分担する
- ②男性は仕事、女性は家事・育児・介護に差し支えない範囲で仕事をする
- ③男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する
- ④男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に男性が分担する
- ⑤男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女とも分担する
- ⑥男女とも仕事をし、家事・育児・介護は家族や民間サービスを活用する
- ⑦女性は仕事、男性は家事・育児・介護を分担する
- ⑧女性は仕事、男性は家事・育児・介護に差し支えない範囲で仕事をする
- ⑨その他
- ⑩無回答

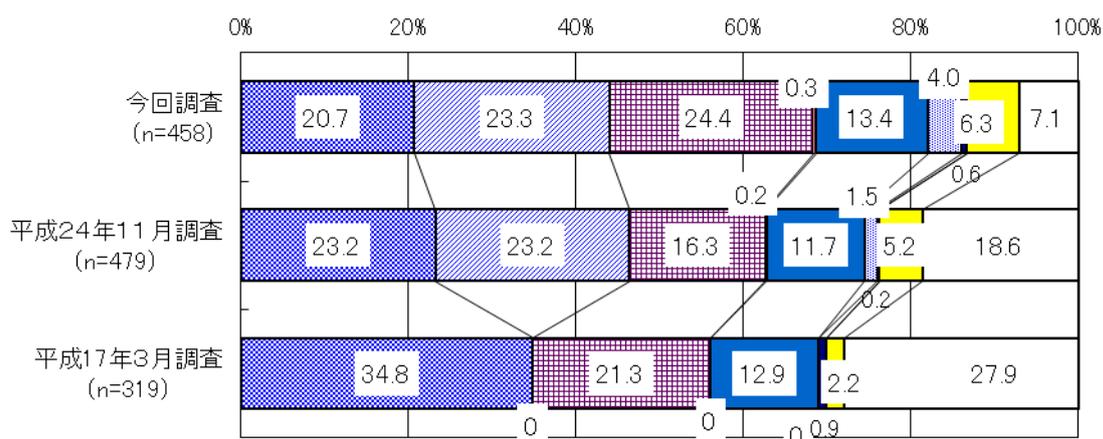


#### <経年変化>

家庭生活の理想を比較してみると、平成17年調査から継続して、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女とも分担する」が一番高く、半数に近い。「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は民間サービスを活用する」は平成24年度と同様で2番目に高く、増加している。平成17年調査では3番目に高かった「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」は、平成24年調査及び今回の調査では1.0%、1.3%と減少している。(図2-1-4)

図2-1-5 経年変化(現状)

- ①男性は仕事、女性は家事・育児・介護を分担する
- ②男性は仕事、女性は家事・育児・介護に差し支えない範囲で仕事をする
- ③男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する
- ④男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に男性が分担する
- ⑤男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女とも分担する
- ⑥男女とも仕事をし、家事・育児・介護は家族や民間サービスを活用する
- ⑦女性は仕事、男性は家事・育児・介護を分担する
- ⑧女性は仕事、男性は家事・育児・介護に差し支えない範囲で仕事をする
- ⑨その他
- ⑩無回答



\* 「0」表記は調査時に選択肢が無い項目

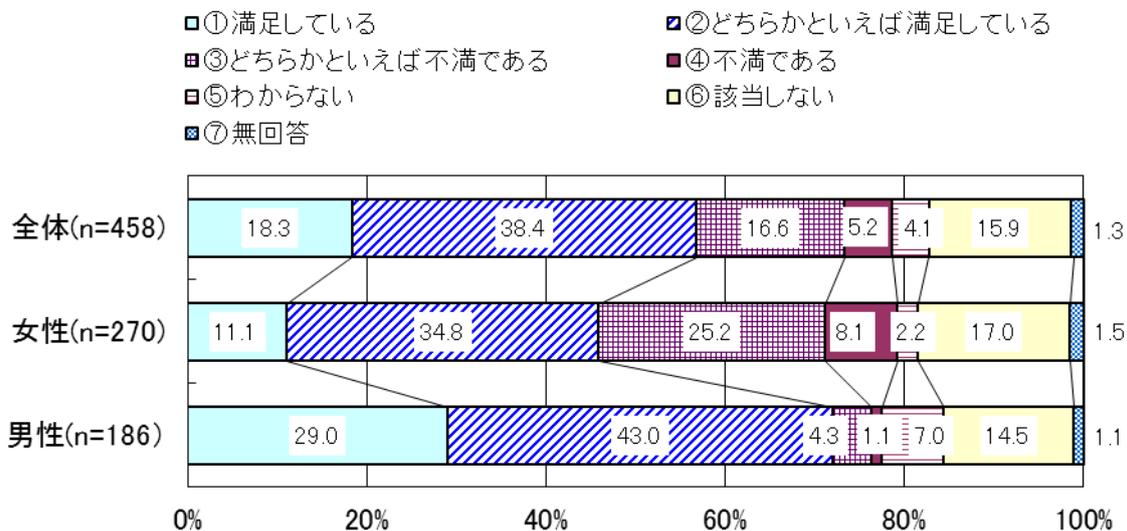
<経年変化>

家庭生活の現状を比較してみると、平成17年調査と平成24年調査では、「男性は仕事、女性は家事・育児・介護を分担する」が一番高かったが、今回の調査では「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する」が一番高くなっている。「男性は仕事、女性は家事・育児・介護を分担する」の項目は、年々減少している。また、「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女とも分担する」や「男女とも仕事をし、家事・育児・介護は民間サービスを活用する」は、今回の調査が最も高くなっている。(図2-1-5)

## Ⅱ 調査結果

問5 あなたの家庭での男女の役割分担について、あなたは満足していますか。  
(○は1つ)

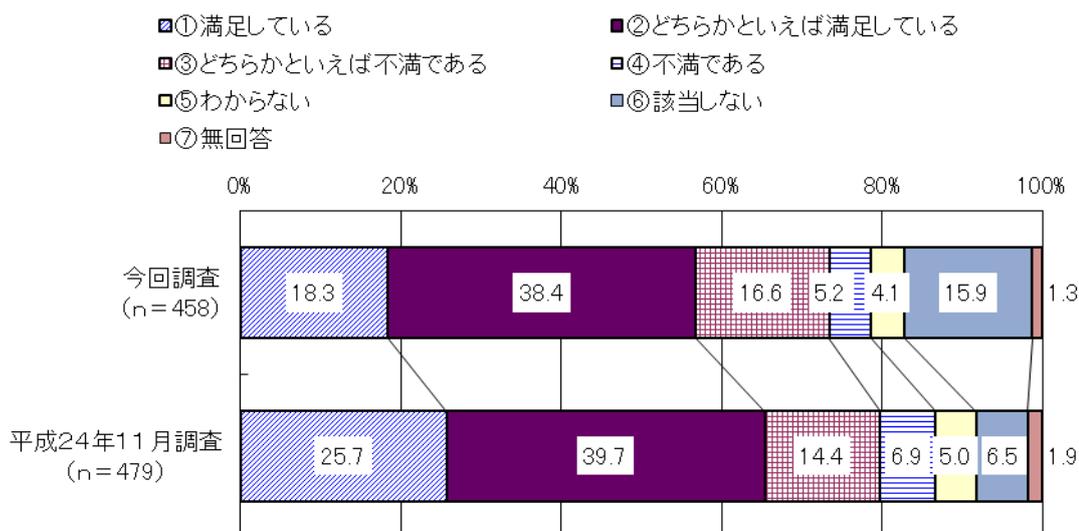
図2-2-1



全体では、「どちらかといえば満足している」が38.4%、次いで「満足している」が18.3%と高くなっている。

男女別にみると、「満足している」と「どちらかといえば満足である」の合計は、男性は72%で半数を超えているのに対し、女性は45.9%と低く半数以下である。また、「不満である」の男性は1.1%に対し、女性は8.1%と約7倍となっている。(図2-2-1)

図2-2-2 経年変化



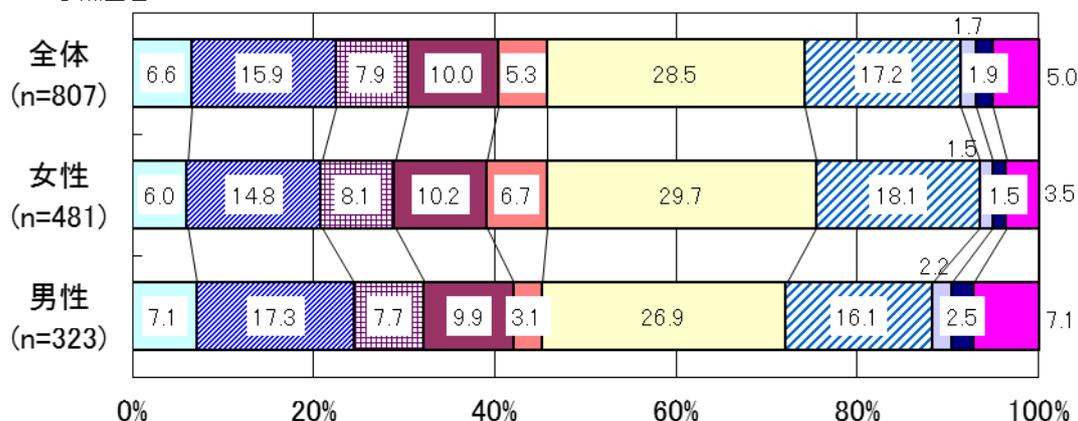
### <経年変化>

平成24年調査との比較では、「満足している」「どちらかといえば満足である」の合計は、65.4から56.7%に減少している。(図2-2-2)

問6 今後、男女が家事・育児・介護をともに分担していくためには何が必要だと思いますか。(〇は2つ)

図2-3-1

- ①学校における男女平等の意識を育てる教育
- ②男だから、女だからこうあるべきだという固定的な考えを改めるための啓発活動
- ▨③育児・介護休業制度の一層の普及
- ④男性の働き方の見直しや、男性は仕事、女性は家事・育児・介護が仕事という意識を改めること
- ⑤女性の働き方の見直しや、女性は家事・育児・介護が仕事、男性は仕事という意識を改めること
- ⑥企業における男女とも仕事と家庭生活を両立できるための職場環境の整備
- ▨⑦保育所や学童保育の整備、介護施設や介護サービス等の充実
- ⑧その他( )
- ⑨わからない
- ⑩無回答

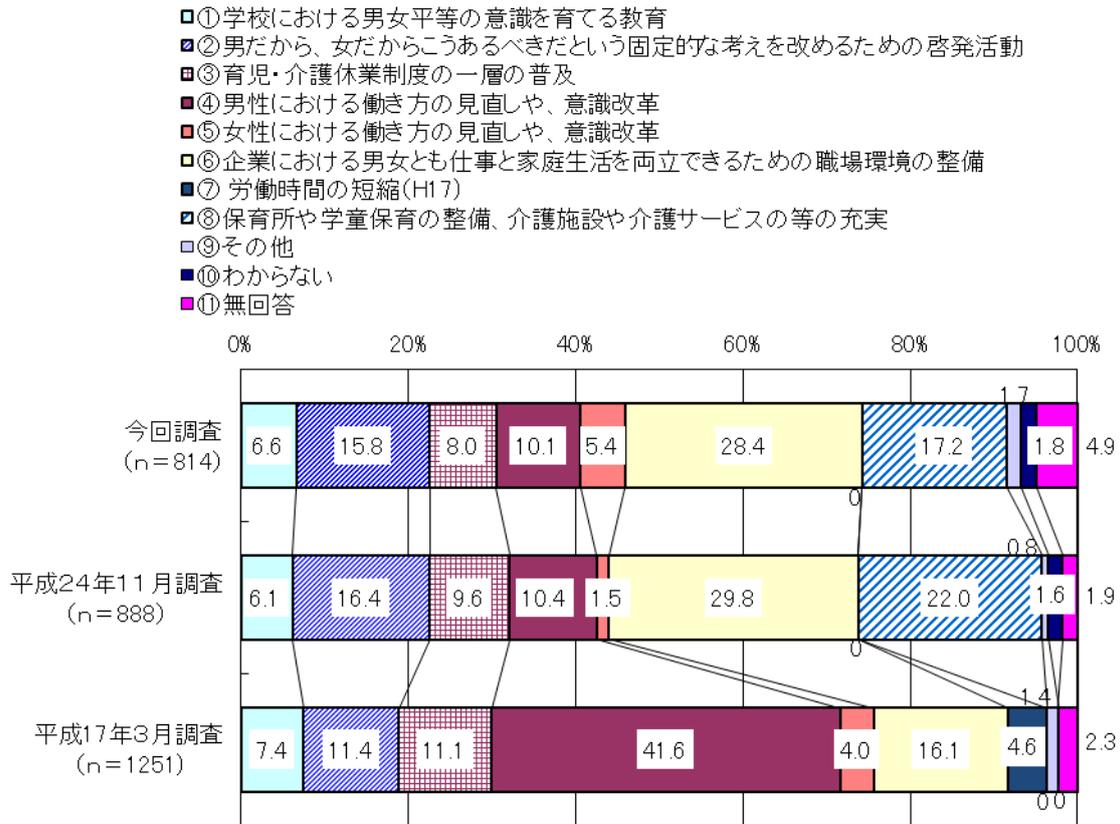


全体では、「企業における男女とも仕事と家庭生活を両立できるための職場環境の整備」が28.5%、次いで「保育所や学童保育の整備、介護施設や介護サービス等の充実」が17.2%と高くなっている。

男女別にみると、女性の上位は、「企業における男女とも仕事と家庭生活を両立できるための職場環境の整備」が29.7%、次いで「保育所や学童保育の整備、介護施設や介護サービス等の充実」が18.1%となっており、男性の上位は、「企業における男女とも仕事と家庭生活を両立できるための職場環境の整備」が26.9%、次いで「男だから、女だからこうあるべきだという固定的な考えを改めるための啓発活動」が17.3%と高くなっている。(図2-3-1)

## Ⅱ 調査結果

図2-3-2 経年変化



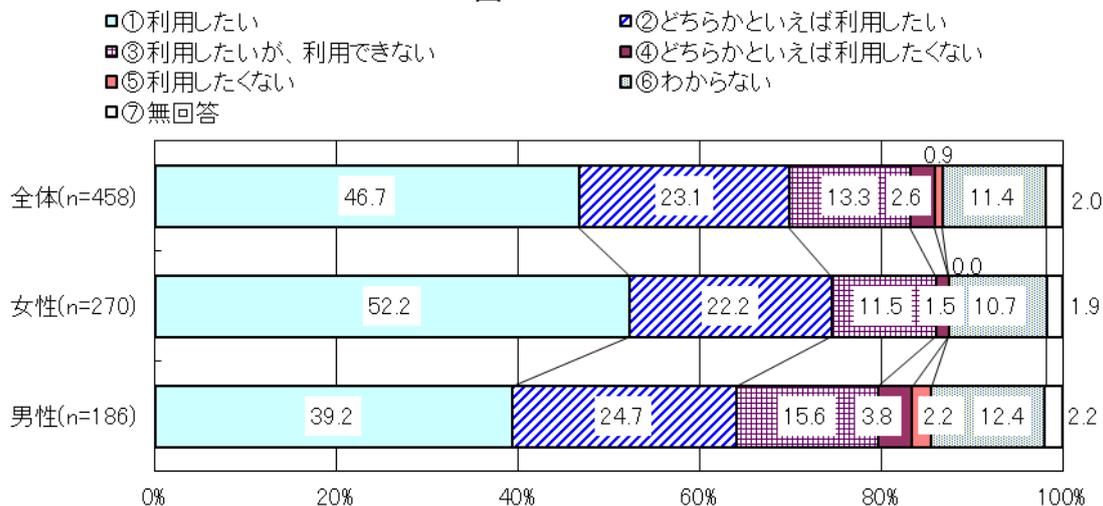
\* 「0」表記は調査時に選択肢が無い項目

### <経年変化>

平成17年調査と比較すると、「男性における働き方の見直しや、意識改革」は年々減少しているが、「企業における男女とも仕事と家庭生活を両立できるための職場環境の整備」は増加している。(図2-3-2)

**問7 育児や介護を行うために、法律に基づき男女とも育児休業や介護休業を取得できる制度があります。**  
**あなたは、その必要性が生じたとき「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。(〇は1つ)**

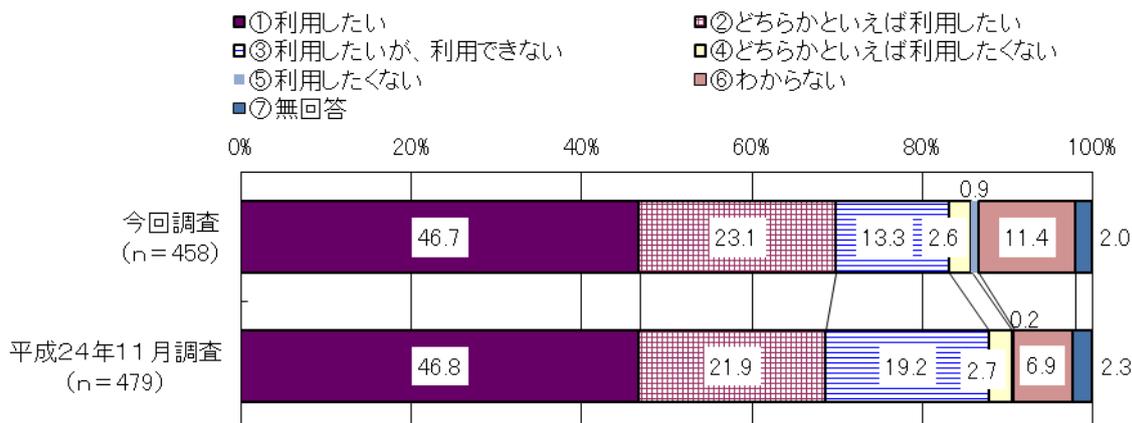
図2-4-1



全体では、「利用したい」が46.7%、次いで「どちらかといえば利用したい」が23.1%と高くなっており、合計で69.8%と利用を希望する人は多い。

男女別にみると、「利用したい」は女性が52.2%、男性が39.2%で、女性の方が高くなっている。一方で、「利用したいが、利用できない」は女性が11.5%、男性が15.6%で、男性の方が高くなっている。(図2-4-1)

図2-4-2 経年変化



<経年変化>

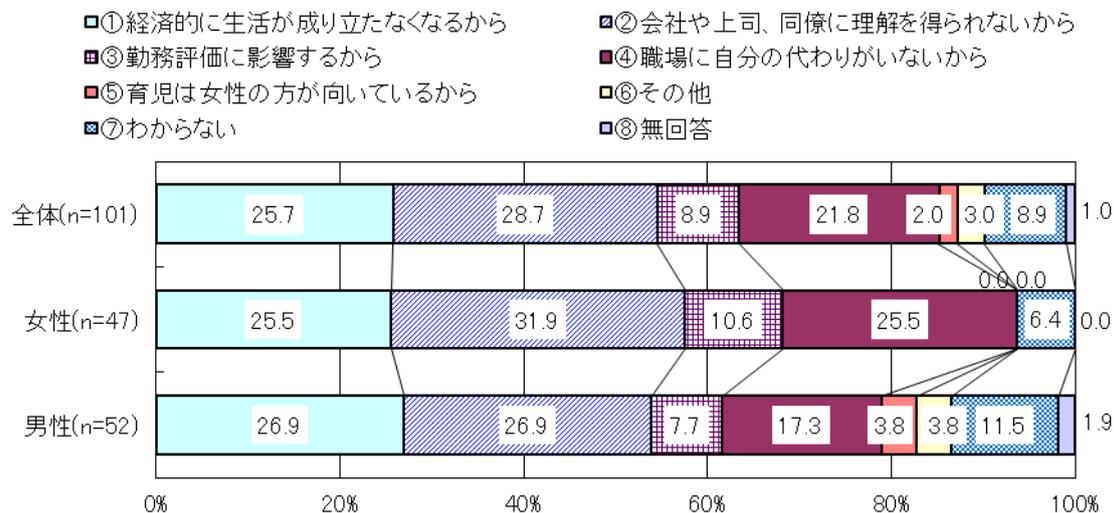
平成24年調査との比較では、「利用したい」と「どちらかといえば利用したい」の合計は増加しているが、一方で、「利用したいが利用できない」は減少している。(図2-4-2)

## II 調査結果

【問7で「3. 利用したいが、利用できない」「4. どちらかといえば利用したくない」「5. 利用したくない」とお答えの方にかがいます。】

問 8 育児休業制度や介護休業制度を利用できない、または利用しない理由は何ですか。(〇は1つ)

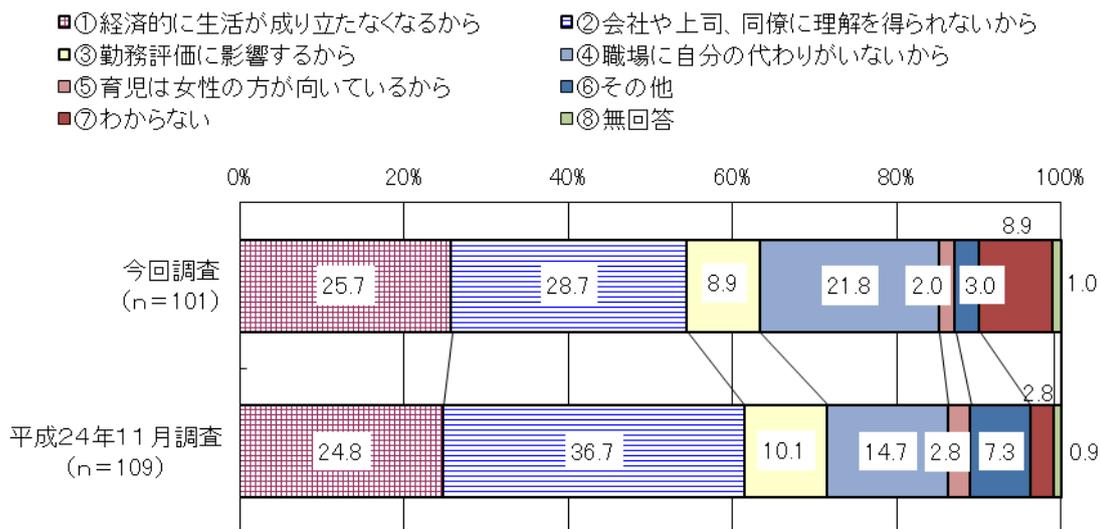
図2-5-1



全体では、「会社や上司、同僚に理解を得られないから」が28.7%と高くなっている。

男女別にみると、女性は「会社や上司、同僚に理解を得られないから」が31.9%と高くなっており、男性は「経済的に生活が成り立たなくなるから」と「会社や上司、同僚に理解を得られないから」が26.9%と同数で高くなっている。(図2-5-1)

図2-5-2 経年変化



### <経年変化>

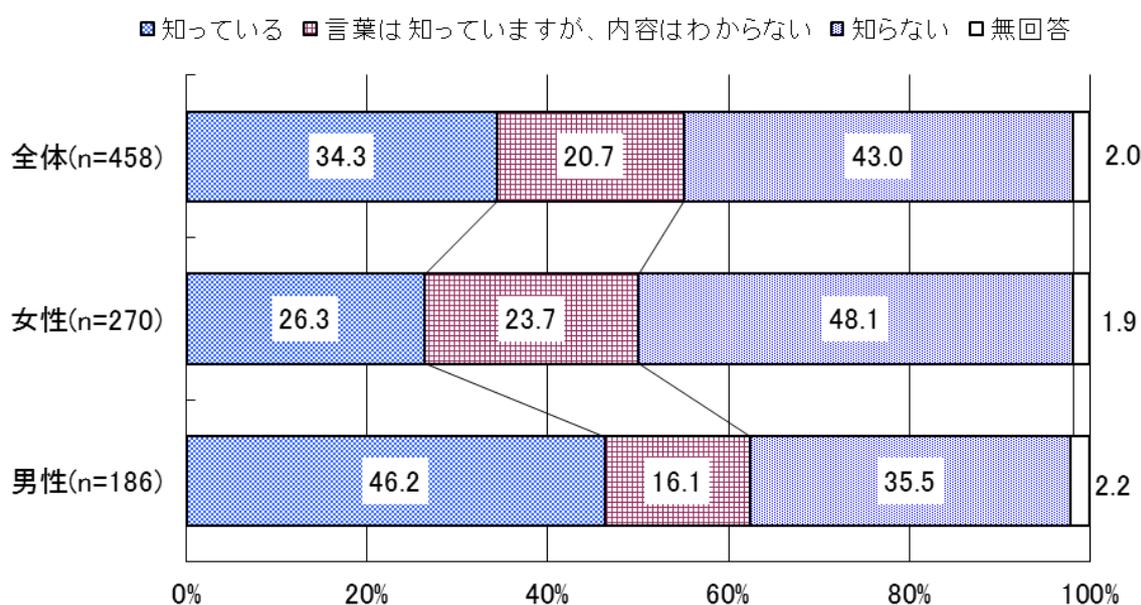
平成24年調査との比較では、「会社や上司、同僚に理解を得られないから」と「勤務評価に影響するから」は減少しているが、「経済的に生活が成り立たなくなるから」と「職場に自分の代わりがないから」は増加している。(図2-5-2)

(3) ワーク・ライフ・バランスについて

問9 あなたは、ワーク・ライフ・バランスという言葉を見聞きしたことはありますか。  
(○は1つ)

(※)ワーク・ライフ・バランス・・・仕事と生活の調和。仕事をしながらも家事・育児、趣味、地域生活等を充実させること。

図3-1-1



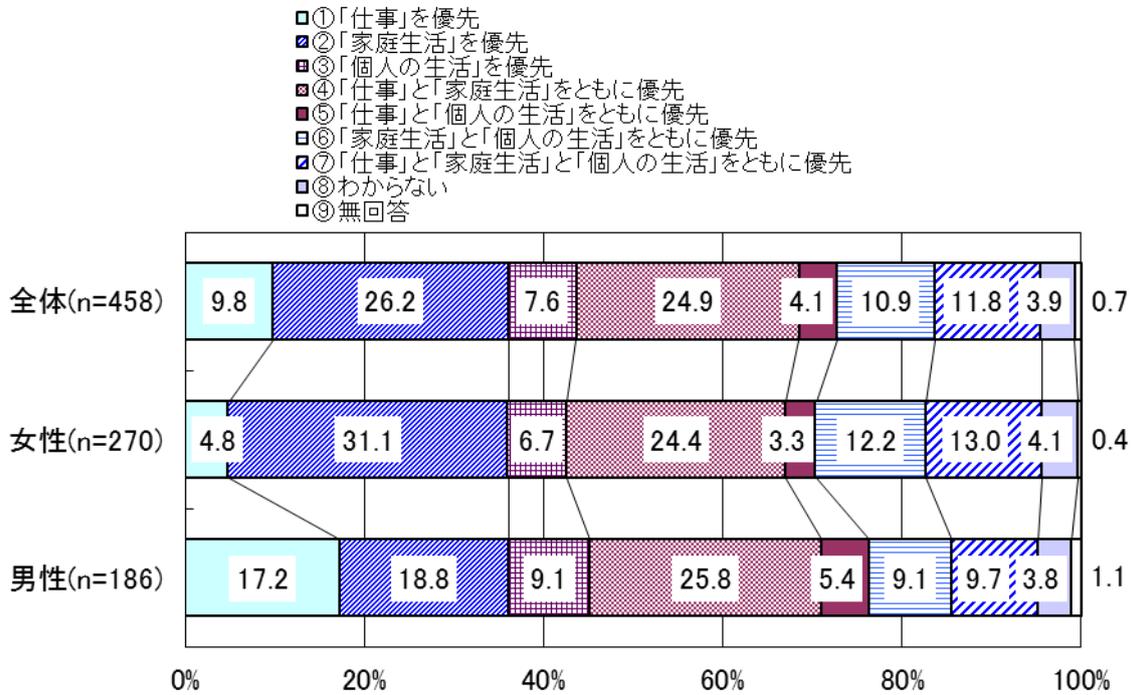
全体では、「知らない」が43.0%と高くなっている。

男女別にみると、女性は「知らない」が48.1%と高くなっており、男性は「知っている」が46.2%と高くなっている。(図3-1-1)

Ⅱ 調査結果

問10 あなたの生活の中で、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味等）の何を1番に優先にしますか。（〇は1つ）

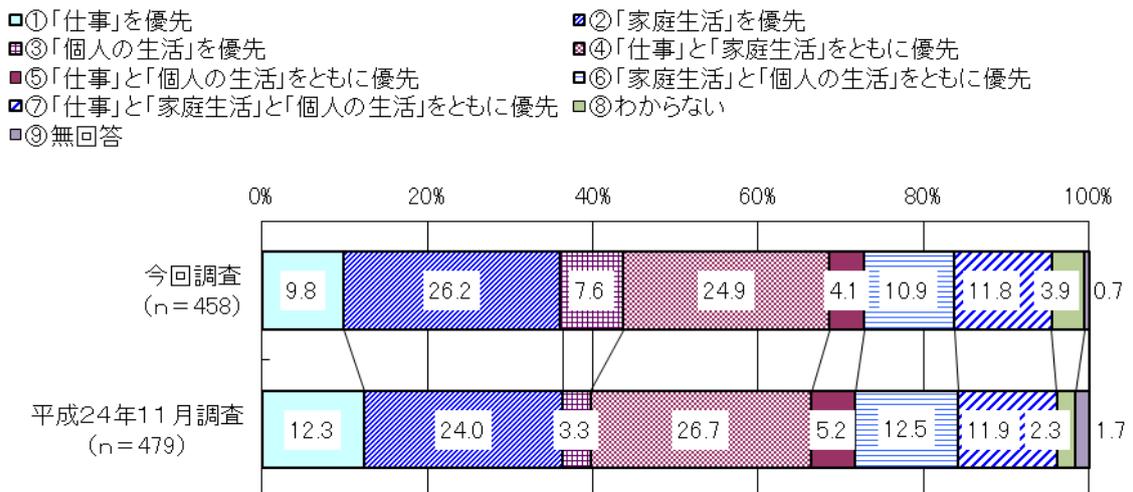
図3-2-1



全体では、「家庭生活」を優先が26.2%、次いで「仕事」と「家庭生活」をともに優先が24.9%と高くなっている。

男女別にみると、女性は「家庭生活」を優先が31.1%と高くなっており、男性は、「仕事」と「家庭生活」をともに優先が25.8%と高くなっている。また、「仕事」を優先は、女性が4.8%に対し、男性が17.2%と約3倍となっている（図3-2-1）

図3-2-2 経年変化



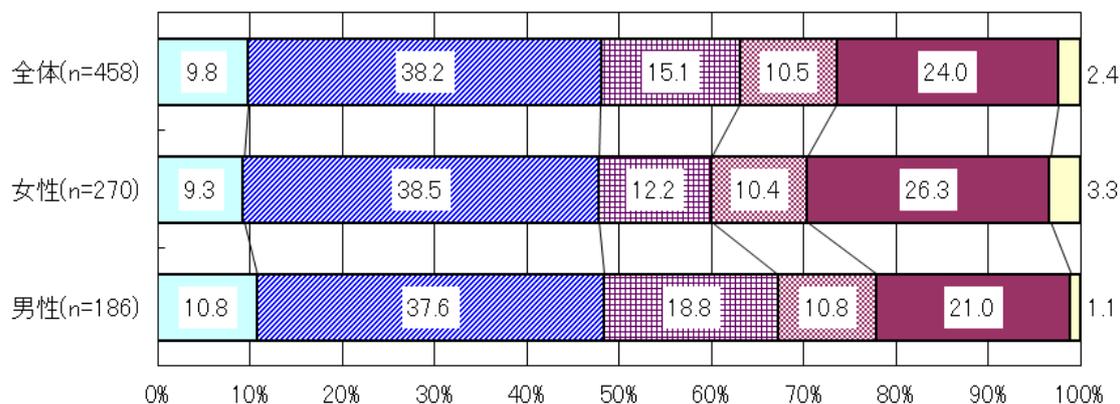
<経年変化>

平成24年調査と比較して、「仕事」を優先と「仕事」と「家庭生活」をともに優先が減少しており、「家庭生活」を優先が増加している。（図3-2-2）

問 11 あなたのワーク・ライフ・バランスはどの程度実現されていますか。(〇は1つ)

図3-3-1

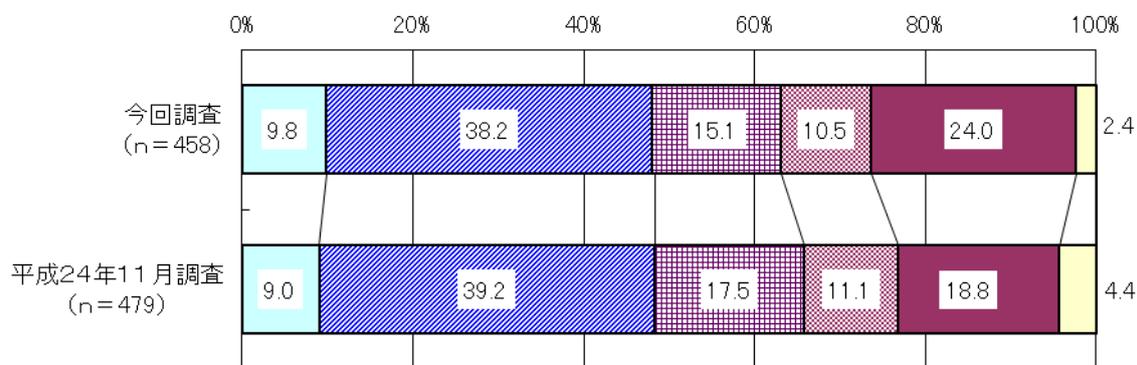
- ①十分に仕事と生活の調和がとれている
- ②どちらかといえば仕事と生活の調和がとれている
- ③どちらかといえば仕事と生活の調和がとれていない
- ④仕事と生活の調和はとれていない
- ⑤わからない
- ⑥無回答



全体では、「どちらかといえば仕事と生活の調和がとれている」が38.2%と高くなっている。男女別にみると、「どちらかといえば仕事と生活の調和がとれている」は女性が38.5%、男性が37.6%と高くなっている。一方で、「どちらかといえば仕事と生活の調和がとれていない」は、女性が12.2%、男性が18.8%と男性の方が高くなっている。(図3-3-1)

図3-3-2 経年変化

- ①十分に仕事と生活の調和がとれている
- ②どちらかといえば仕事と生活の調和がとれている
- ③どちらかといえば仕事と生活の調和がとれていない
- ④仕事と生活の調和はとれていない
- ⑤わからない
- ⑥無回答



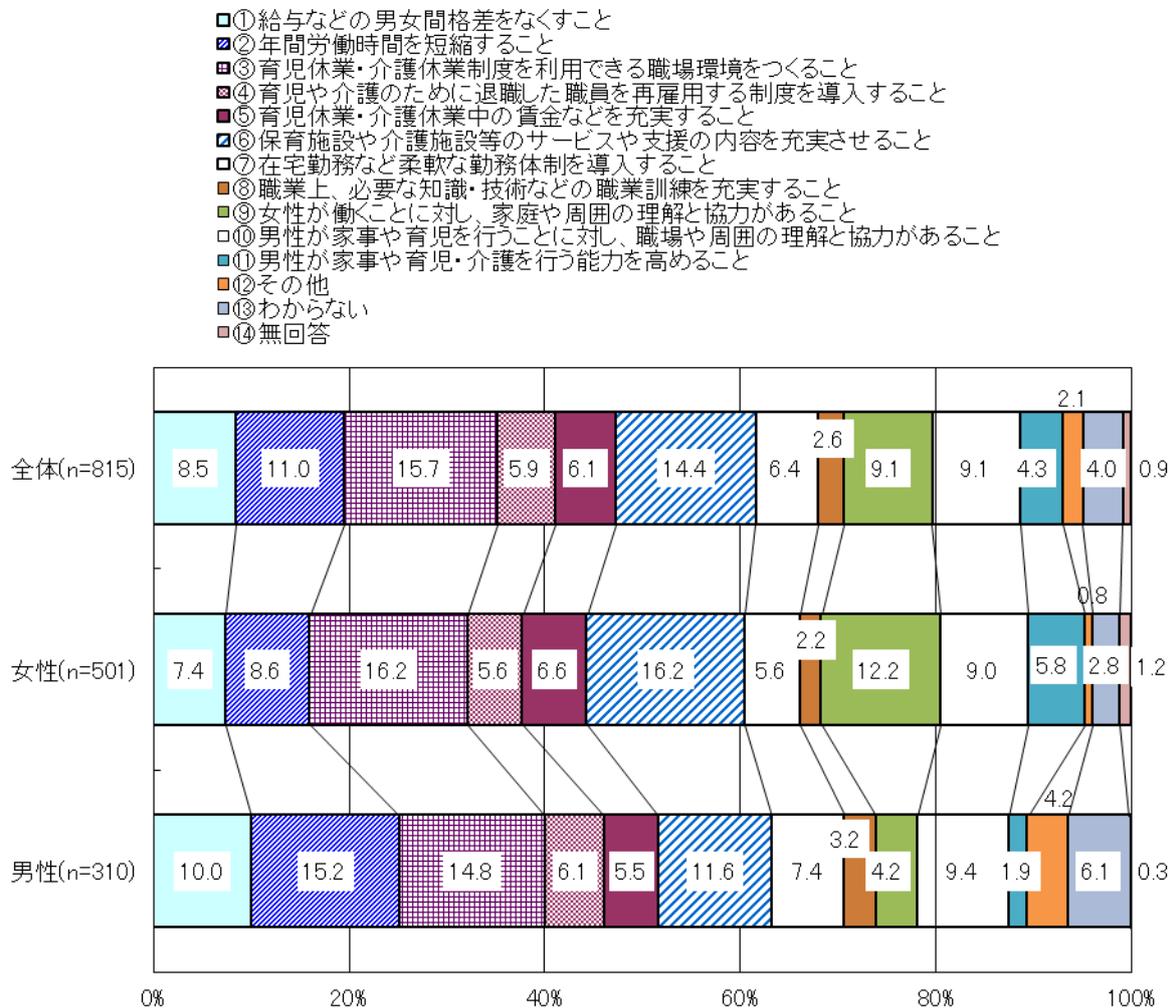
<経年変化>

平成24年調査と比較して、「わからない」と「十分に仕事と生活の調和がとれている」は増加しているが、その他の項目は減少している。(図3-3-2)

Ⅱ 調査結果

問 12 今後、ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)

図3-4



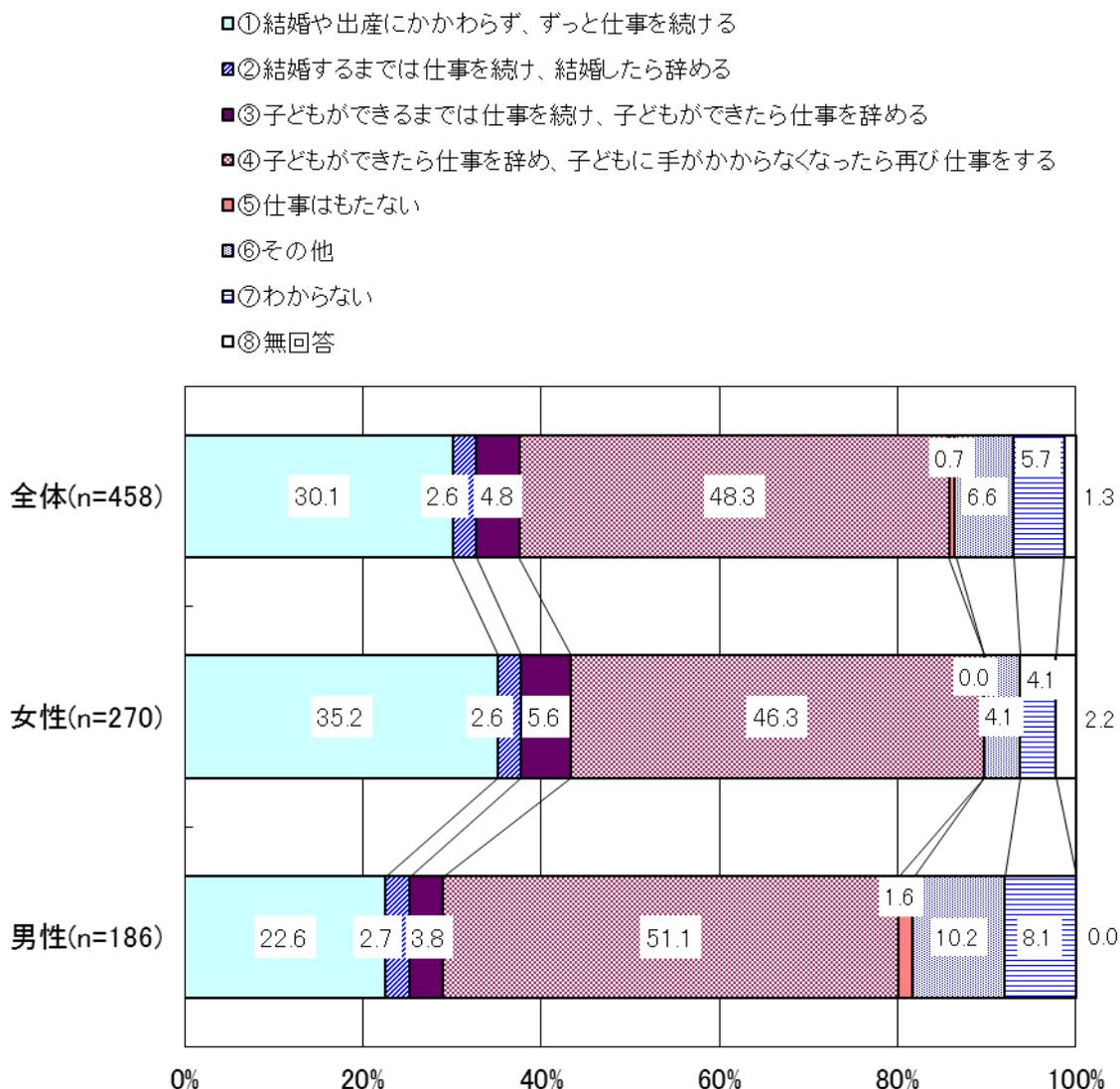
全体では、「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が 15.7%、次いで「保育施設や介護施設等のサービスや支援の内容を充実させること」が 14.4%と高くなっている。

男女別にみると、女性は「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」と「保育施設や介護施設等のサービスや支援の内容を充実させること」が 16.2%と高くなっており、男性は、「年間労働時間を短縮すること」が 15.2%、次いで「育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること」が 14.8%と高くなっている。(図 3-4)

(4) 就労について

問13 あなたは、女性の働き方について、望ましいと思うのはどれですか。(〇は1つ)

図4-1-1



全体では、「子どもができたなら仕事を辞め、子どもに手がかからなくなったら再び仕事をする」が48.3%、次いで「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける」が30.1%と高くなっている。

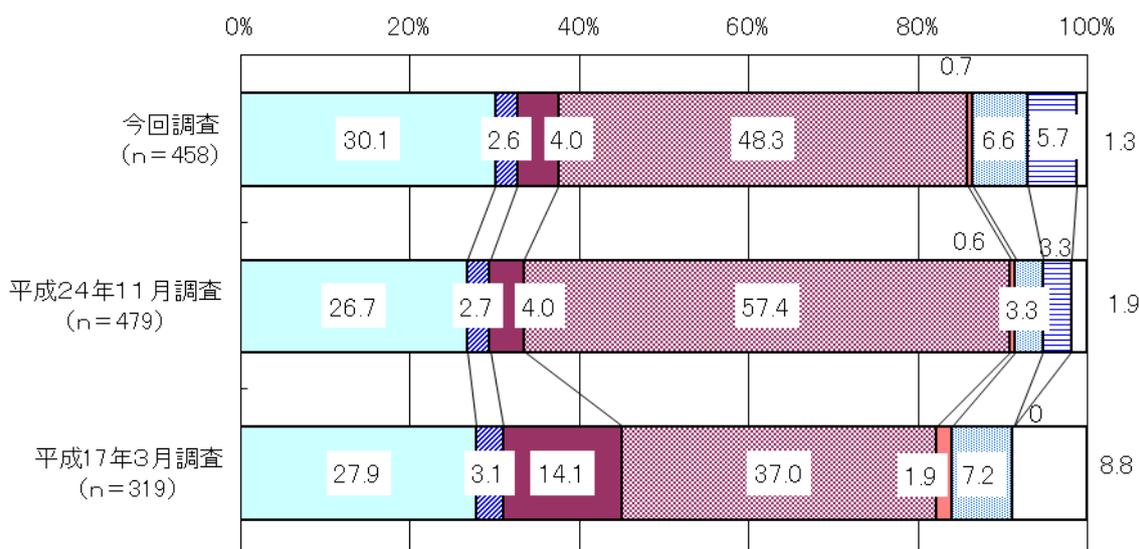
男女別にみると、「子どもができたなら仕事を辞め、子どもに手がかからなくなったら再び仕事をする」は、女性が46.3%、男性が51.1%で男性の方が高くなっている。一方で「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける」は女性が35.2%、男性が22.6%で女性の方が高くなっている。

(図4-1-1)

Ⅱ 調査結果

図4-1-2 経年変化

- ① 結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける
- ② 結婚するまでは仕事を続け、結婚したら辞める
- ③ 子どもができるまでは仕事を続け、子どもができたなら仕事を辞める
- ④ 子どもができたなら仕事を辞め、子どもに手がかからなくなったら再び仕事をする
- ⑤ 仕事はもたない
- ⑥ その他
- ⑦ わからない
- ⑧ 無回答

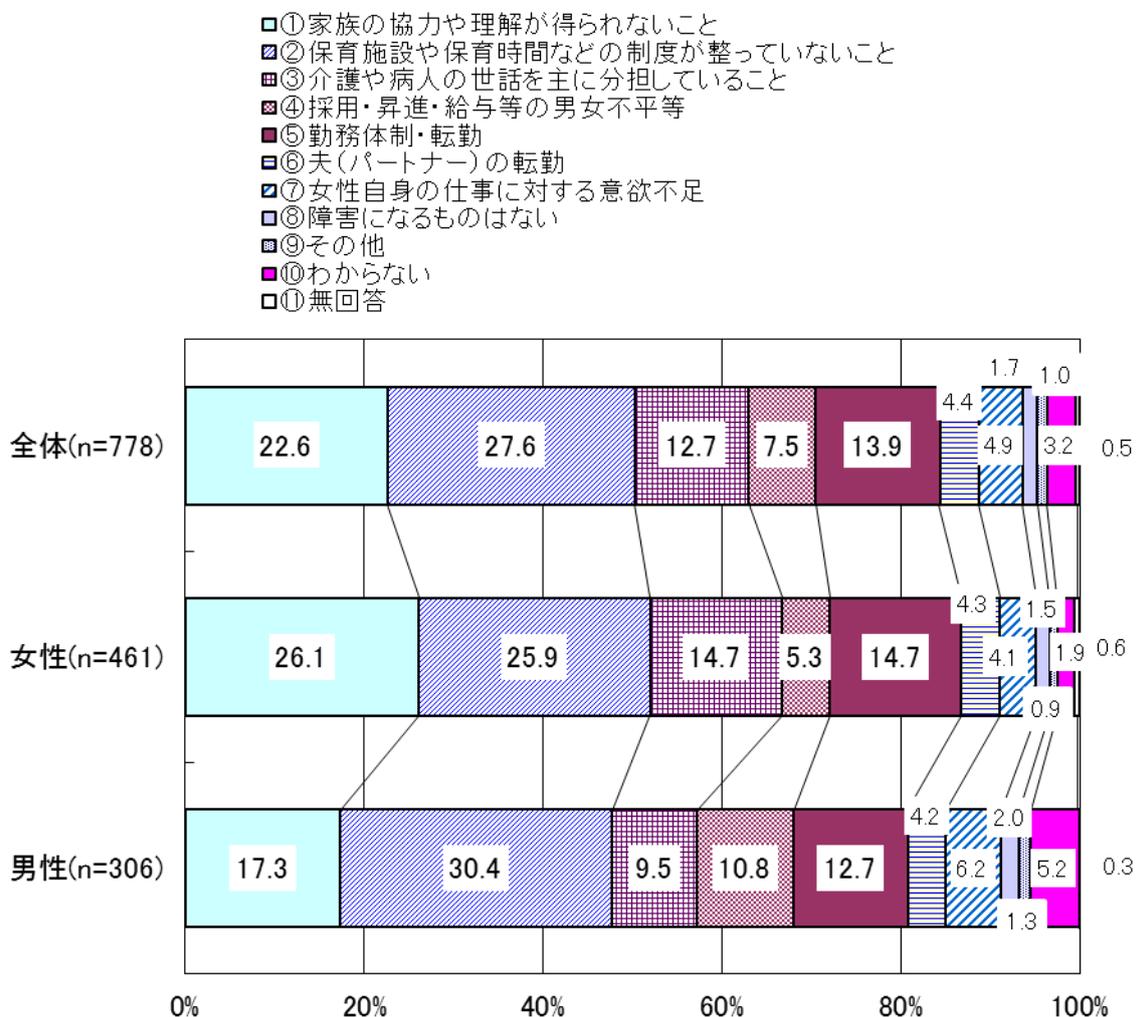


<経年変化>

平成17年調査から継続して「子どもができたなら仕事を辞め、子どもに手がかからなくなったら再び仕事をする」、次いで「結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける」の順で高くなっている。一方で、「子どもができるまでは仕事を続け、子どもができたなら仕事を辞める」は平成17年調査と比較して、今回も約10%減少している。(図4-1-2)

問 14 女性が仕事をもち続ける上で、障害になるものは何だと思えますか。  
 (〇は2つまで)

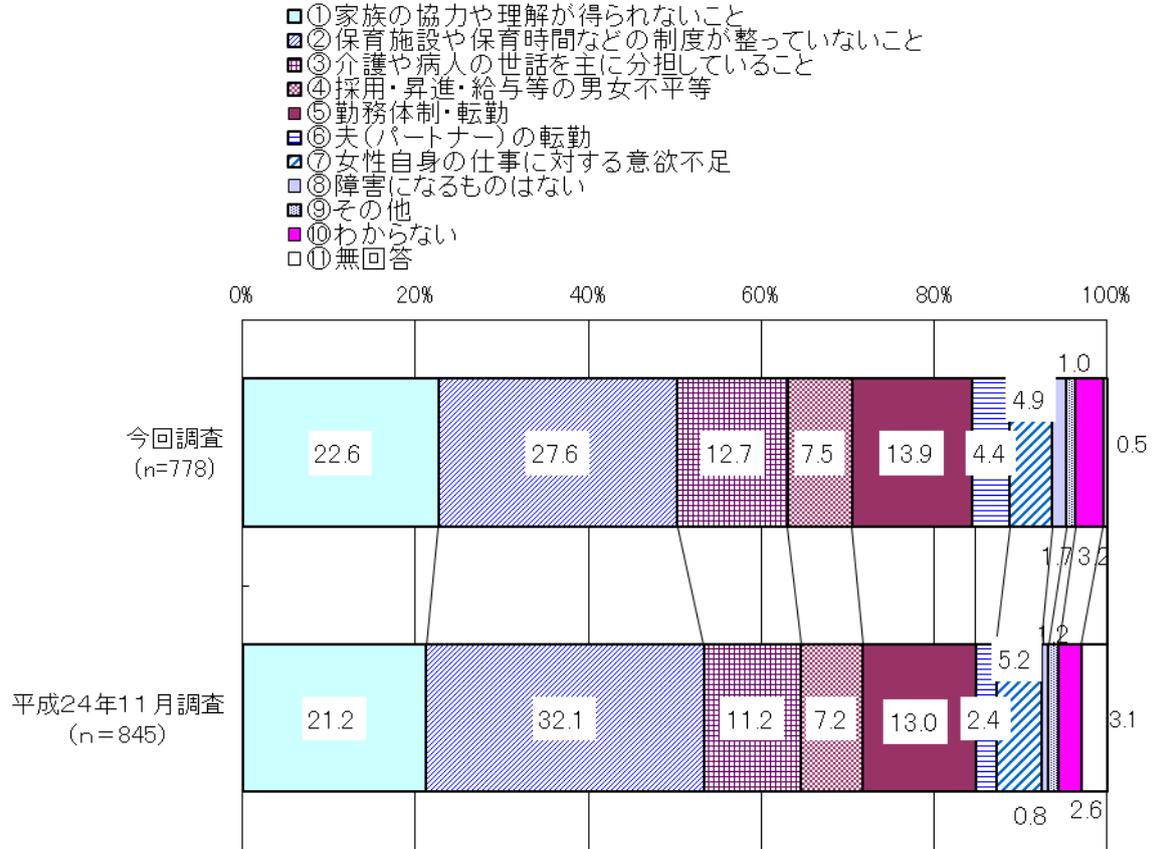
図4-2-1



全体では、「保育施設や保育時間などの制度が整っていないこと」が27.6%と高くなっている。  
 男女別にみると、女性は「家族の協力や理解が得られないこと」が26.1%と高くなっており、  
 男性は「保育施設や保育時間などの制度が整っていないこと」が30.4%と高くなっている。また、  
 「介護や病人の世話を主に分担していること」や「勤務体制・転勤」も男女ともに比較的高くな  
 っている。(図4-2-1)

Ⅱ 調査結果

図4-2-2 経年変化



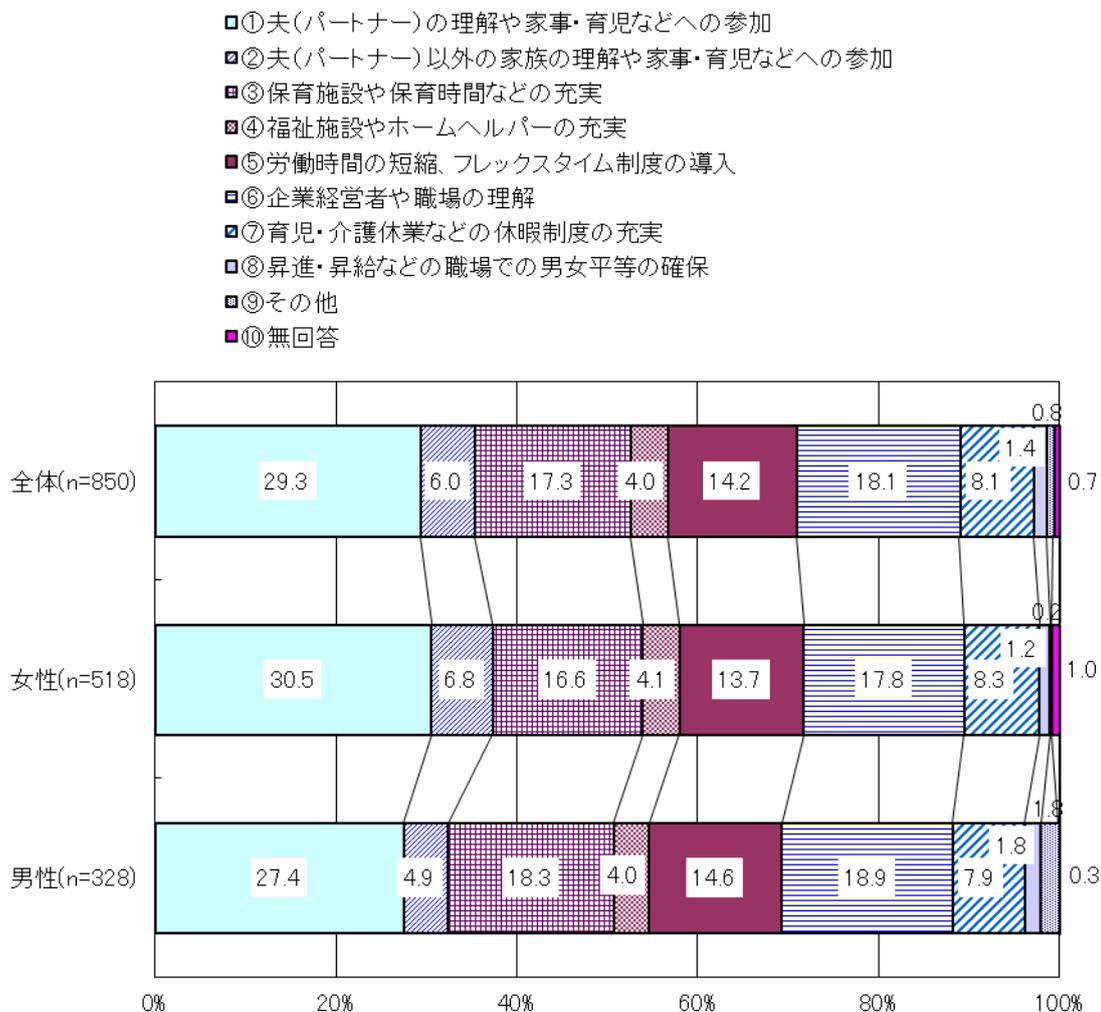
<経年変化>

平成24年調査と比較して、「保育施設や保育時間などの制度が整っていないこと」と「女性自身の仕事に対する意欲不足」は減少しているが、他の項目は増加している。(図 4-2-2)

新規調査

問 15 あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は2つまで)

図4-3

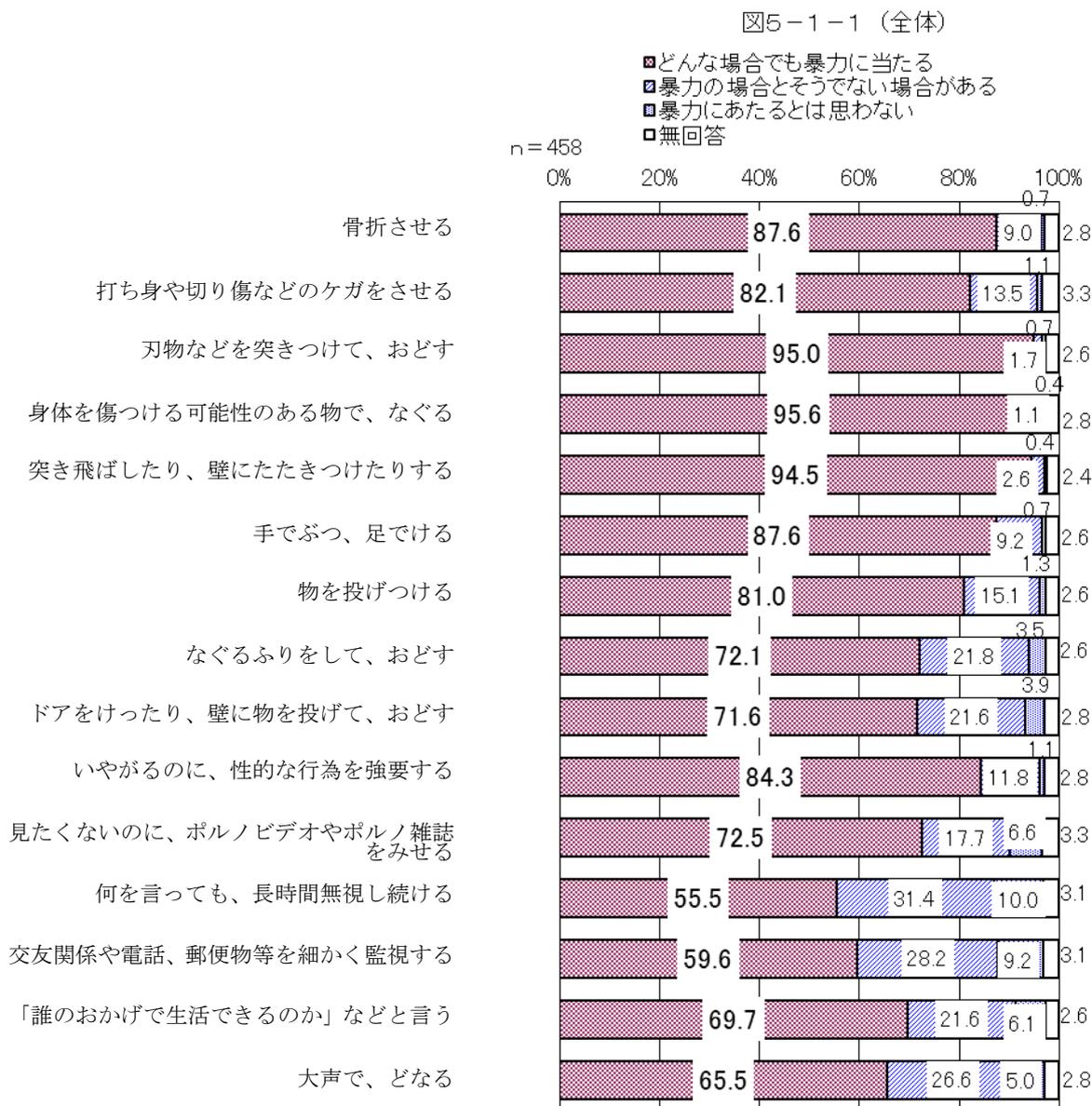


全体では、「夫(パートナー)の理解や家事・育児などへの参加」が29.3%と高くなっている。男女別にみると、「夫(パートナー)の理解や家事・育児などへの参加」は、女性が30.5%、男性が27.4%で、女性の方が高くなっている。また、「企業経営者や職場の理解」は、女性が17.8%、男性が18.9%で、男性の方が高くなっている。(図4-3)

## II 調査結果

### (5) 配偶者等からの暴力について

問 16 次のようなことが配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人同士の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（それぞれあてはまる番号に○）



全体では、「どんな場合でも暴力にあたる」として9割を超えているのは、【身体を傷つける可能性のある物で、なぐる】が95.6%、次いで【刃物などを突きつけて、おどす】が95.0%、【突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする】が94.5%である。8割を超えているのは、【骨折させる】と【手でぶつ、足でける】が87.6%、次いで【いやがるのに、性的な行為を強要する】が84.3%、【打ち身や切り傷などのケガをさせる】が82.1%、【物を投げつける】が81.0%である。

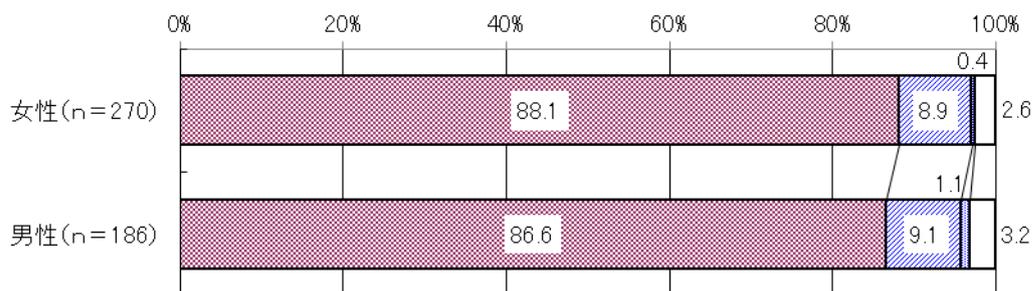
一方で、【何を言っても、長時間無視し続ける】の10.0%と、【交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する】の9.2%については、約1割が「暴力にあたるとは思わない」と回答している。

(図 5-1-1)

図5-1-2 (性別)

■ どんな場合でも暴力に当たる  
■ 暴力の場合とそうでない場合がある  
■ 暴力にあたるとは思わない  
□ 無回答

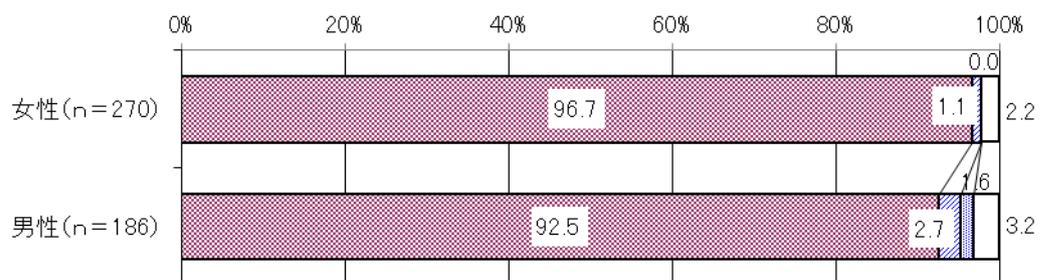
① 骨折させる



② 打ち身や切り傷などのケガをさせる



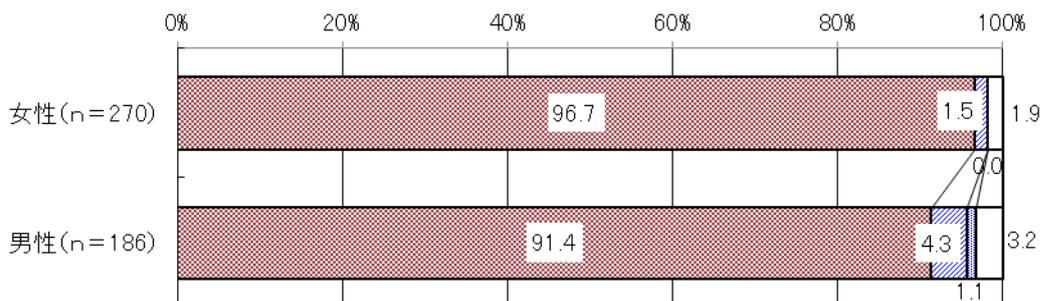
③ 刃物などを突きつけて、おどす



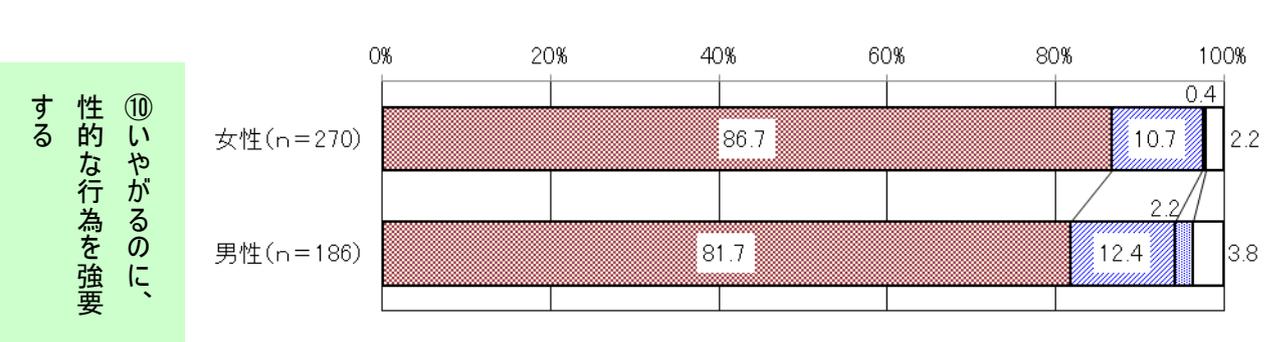
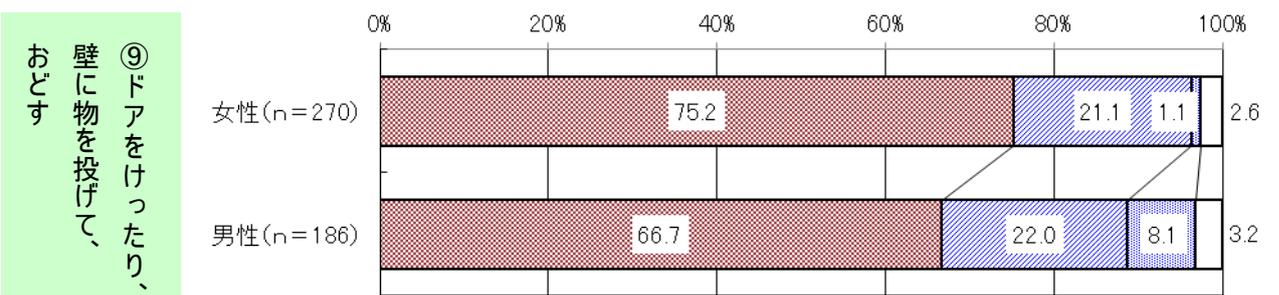
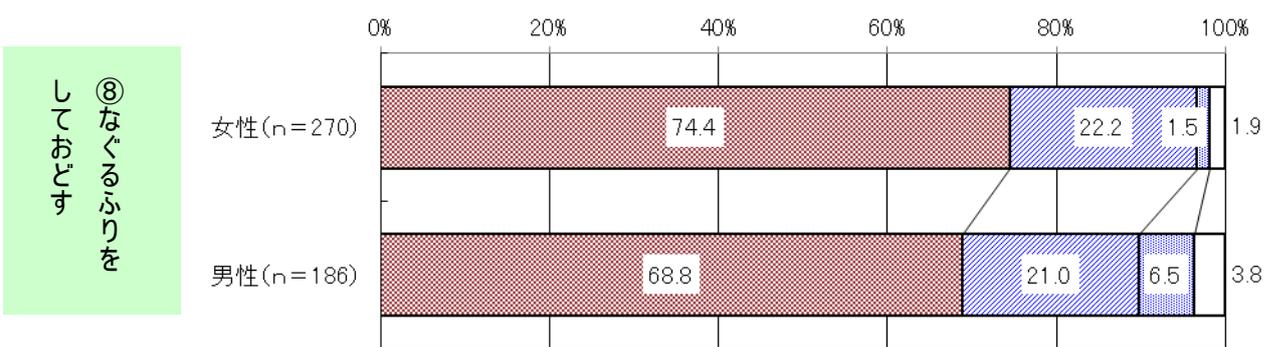
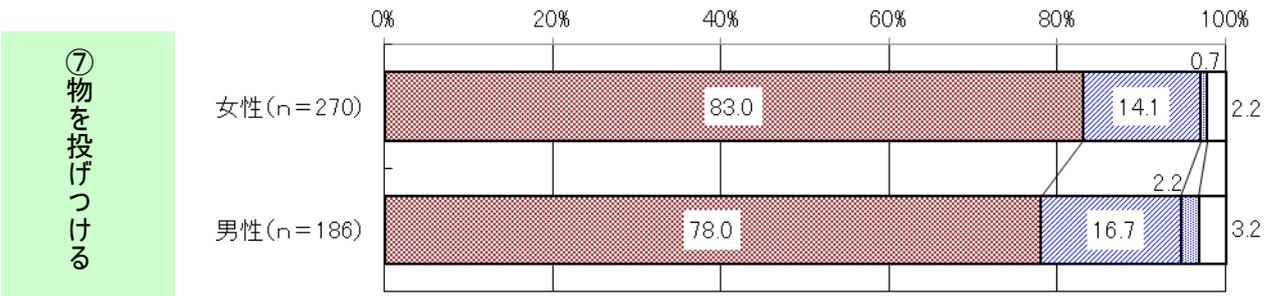
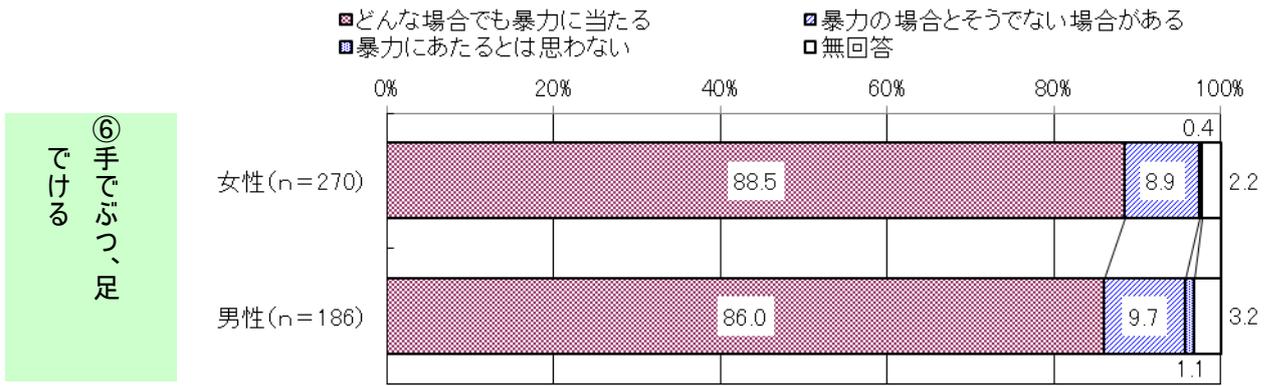
④ 身体を傷つける可能性のある物で、なぐる



⑤ 突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする



II 調査結果



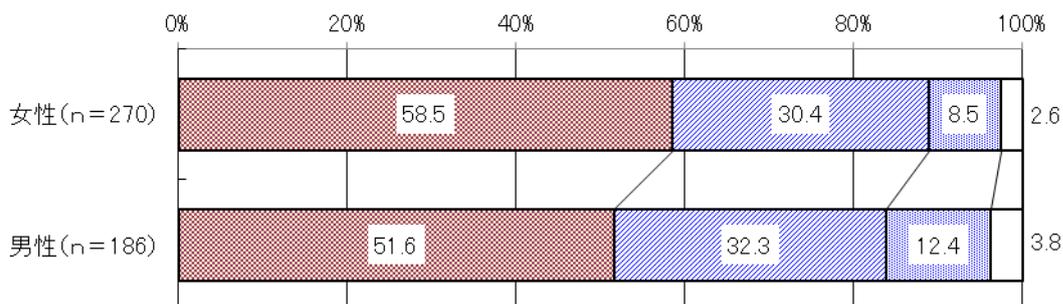
## Ⅱ 調査結果

- どんな場合でも暴力に当たる
- 暴力の場合とそうでない場合がある
- 暴力にあたるとは思わない
- 無回答

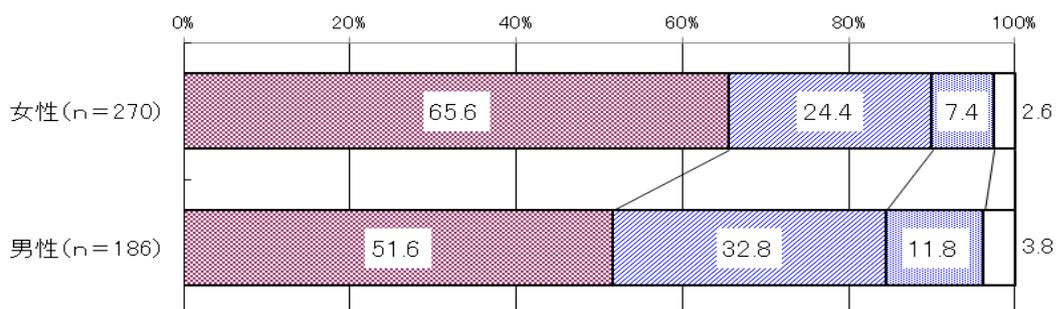
⑪ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌をみせる



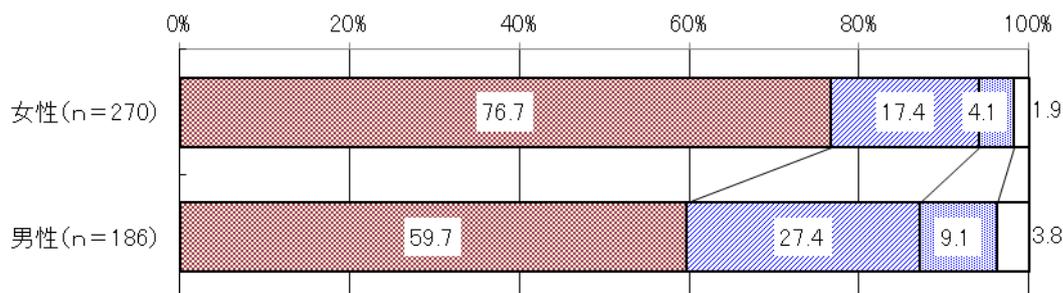
⑫ 何を言っても、長時間無視し続ける



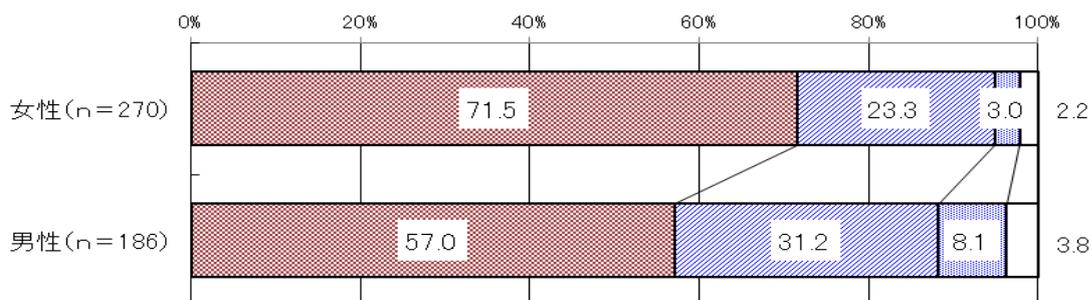
⑬ 交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する



⑭ 「誰のおかげで生活できるのか」などと言う



⑮ 大声で、どなる

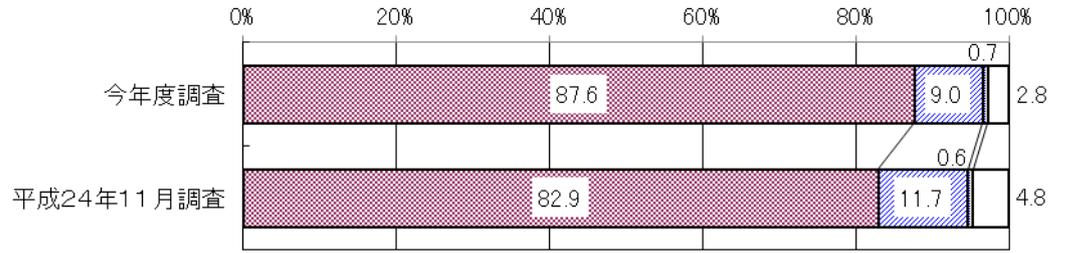


II 調査結果

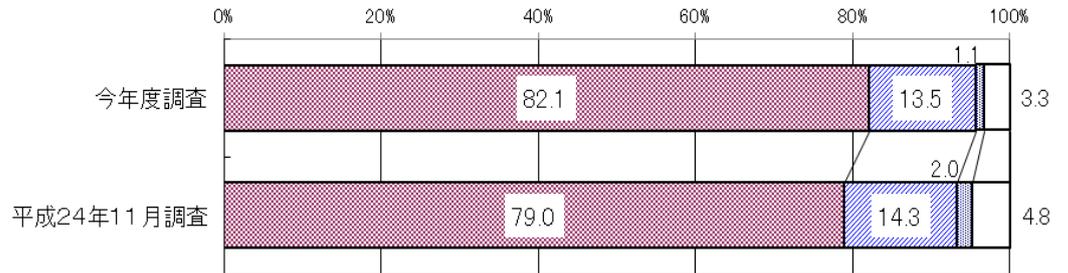
図5-1-3 経年変化

① どのような場合でも暴力に当たる  
 ② 暴力の場合とそうでない場合がある  
 ③ 暴力にあたるとは思わない  
 ④ 無回答

① 骨折させる



② 打ち身や切り傷などのケガをさせる



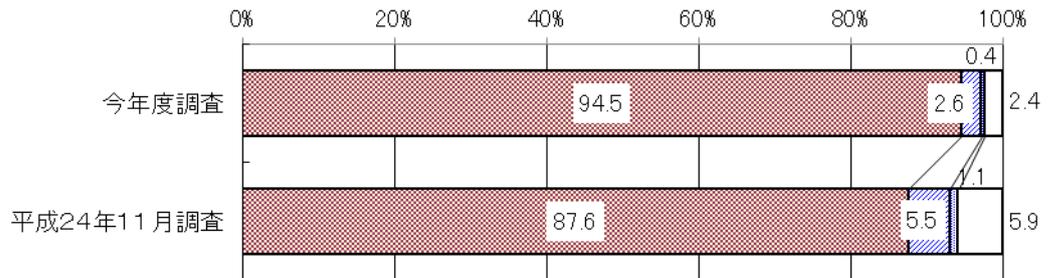
③ 刃物などを突きつけて、おどす



④ 身体を傷つける可能性のある物で、なぐる

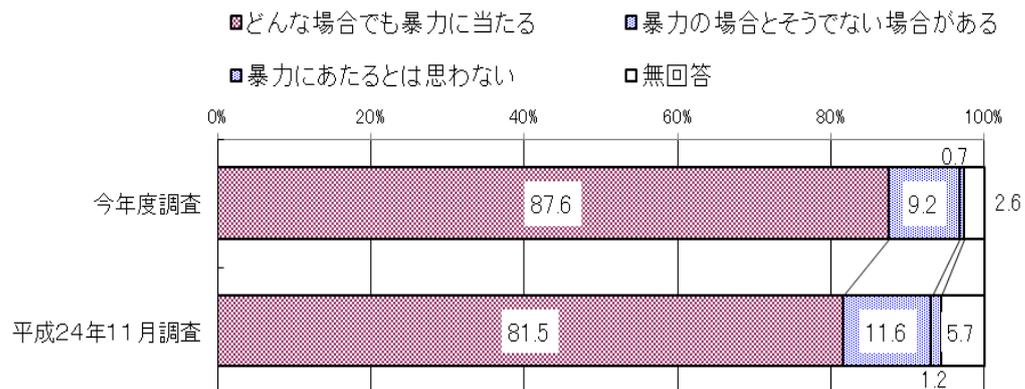


⑤ 突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする



## Ⅱ 調査結果

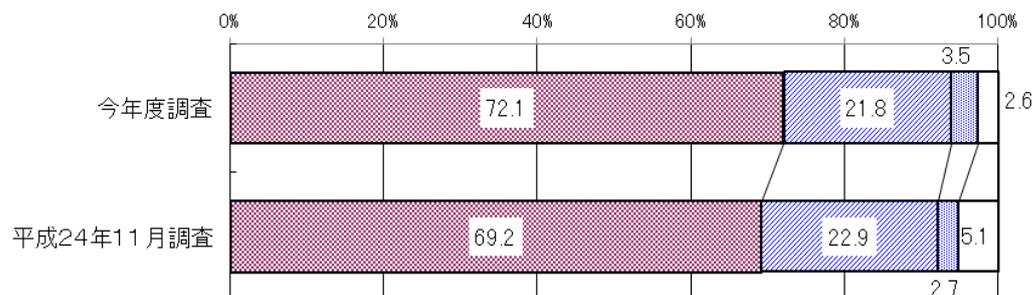
⑥ 手でぶつ、足  
でける



⑦ 物を投げつける



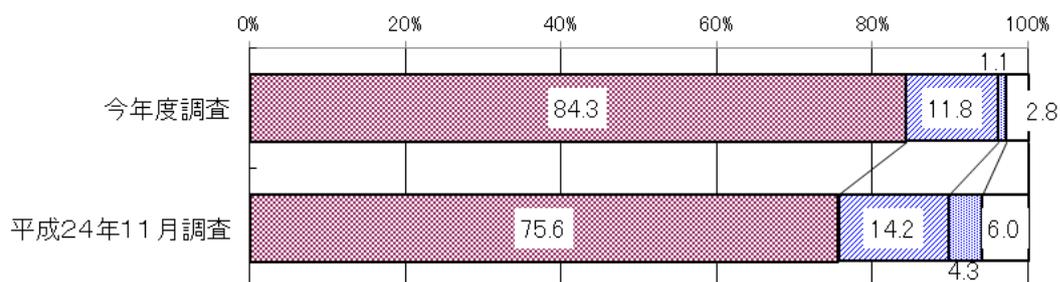
⑧ なぐるふりを  
しておどす



⑨ ドアをけったり、  
壁に物を投げて、  
おどす



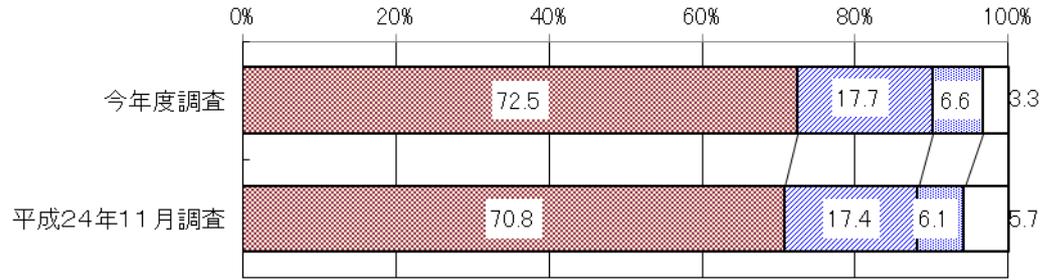
⑩ いやがるのに、  
性的な行為を強要  
する



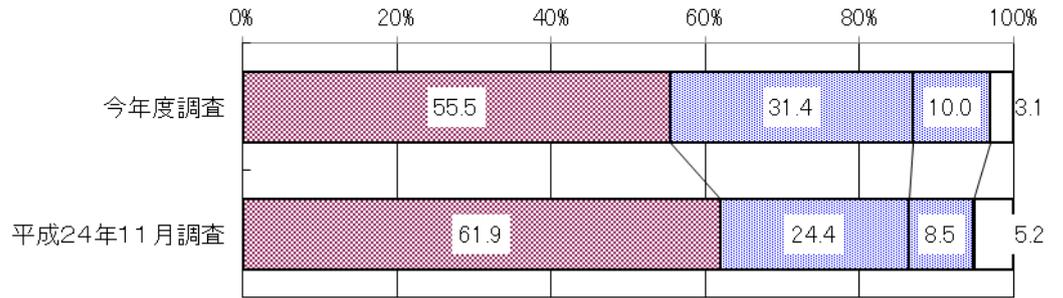
## II 調査結果

⑪ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌をみせる

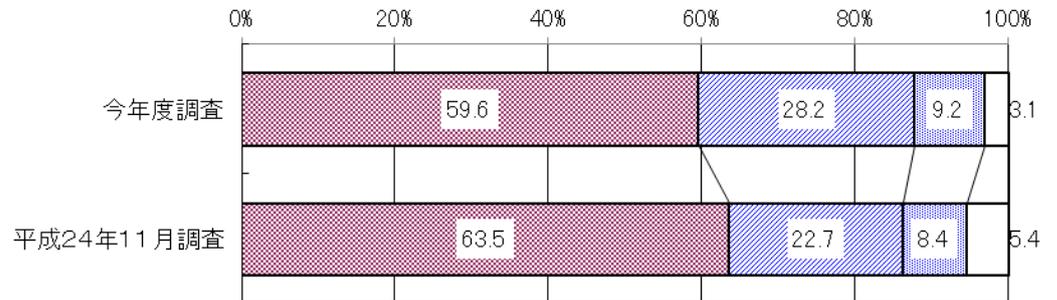
■ どんな場合でも暴力に当たる  
■ 暴力にあたるとは思わない  
■ 暴力の場合とそうでない場合がある  
□ 無回答



⑫ 何を言っても、長時間無視し続ける



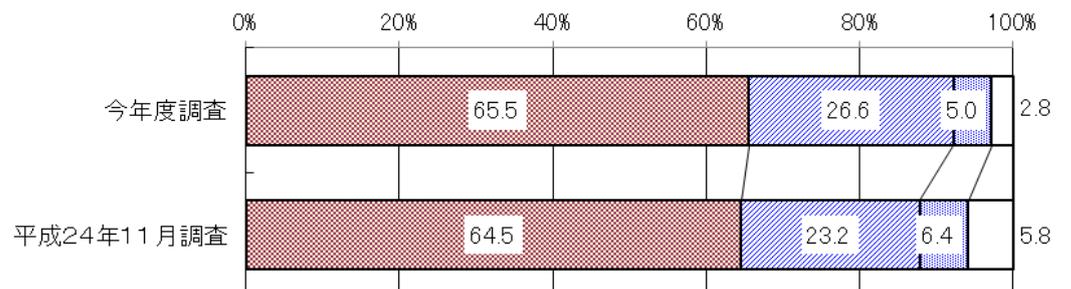
⑬ 交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する



⑭ 「誰のおかげで生活できるのか」などと言う

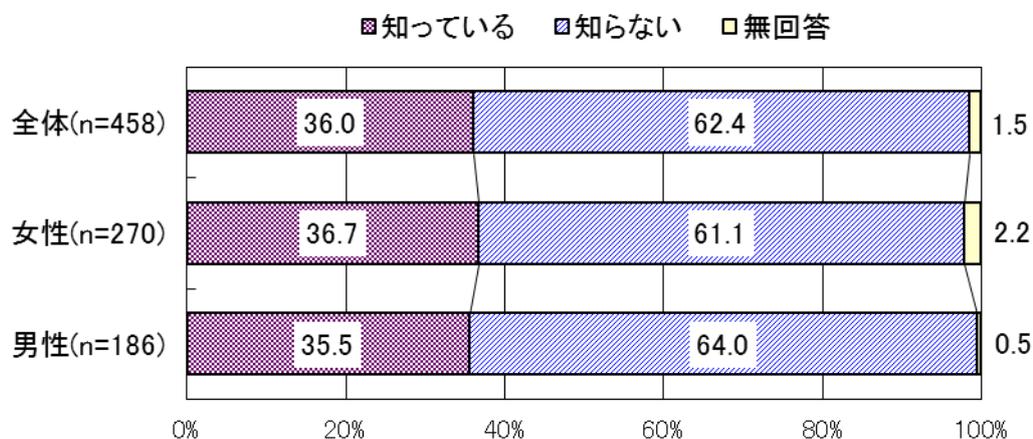


⑮ 大声で、どなる



問17 あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。  
(〇は1つ)

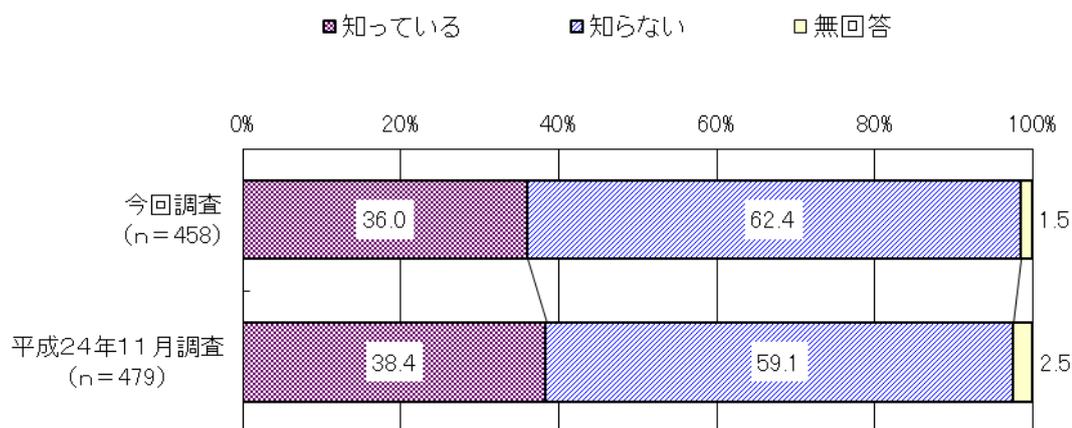
図5-2-1



全体では、「知らない」が62.4%となっており、「知っている」の36.0%を上回っている。

男女別にみると、「知っている」は女性が36.7%、男性が35.5%で、女性が男性を上回っている。(図5-2-1)

図5-2-2 経年変化

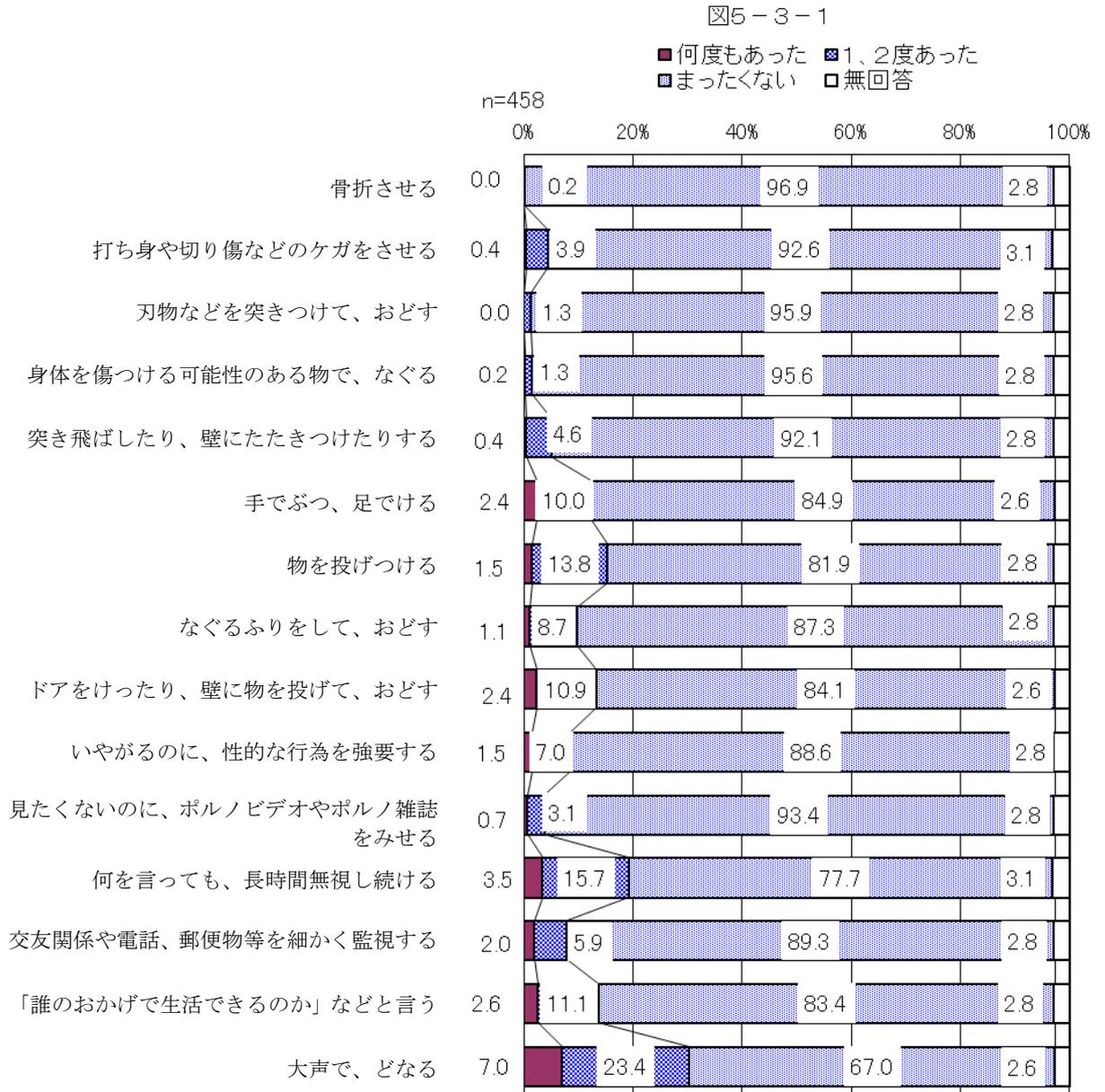


<経年変化>

平成24年調査との比較では、「知っている」が減少しており、「知らない」が増加している。

Ⅱ 調査結果

問 18 あなたは、これまでに配偶者や恋人など親密な関係にある方から、次のようなことをされたことがありますか。(それぞれあてはまる番号に○)



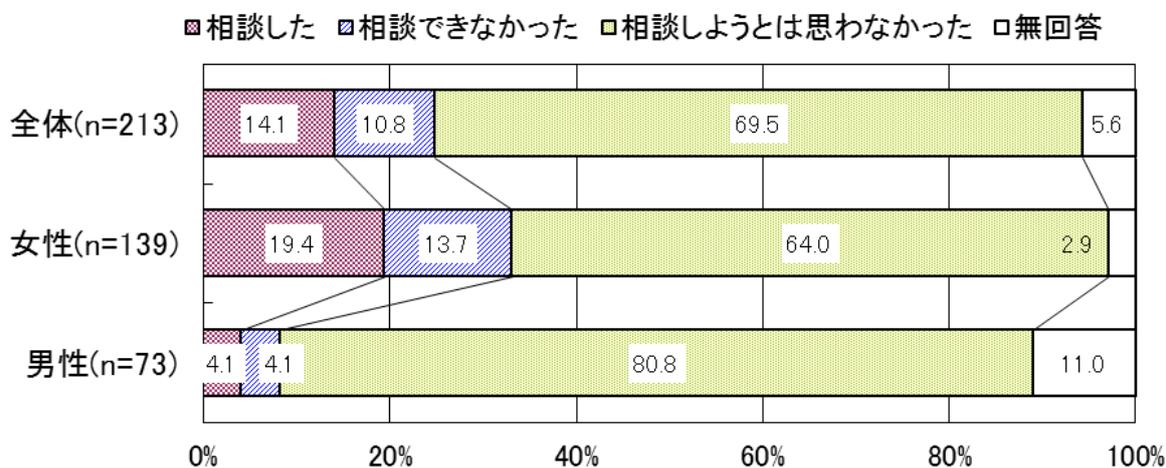
全体では、「何度もあった」の上位は、【大声で、どなる】が 7.0%、次いで【何を言っても、長時間無視し続ける】が 3.5%、【「誰のおかげで生活できるのか」などと言う】が 2.6%、【手でぶつ、足でける】と【ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす】が 2.4%となっている。

「1、2度あった」の上位は、【大声で、どなる】が 23.4%、次いで【何を言っても、長時間無視し続ける】が 15.7%、【物を投げつける】が 13.8%、【「誰のおかげで生活できるのか」などと言う】が 11.1%、【ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす】が 10.9%、【手でぶつ、足でける】が 10.0%となっている。

「まったくない」は、【大声で、どなる】以外の項目が 7 割以上となっている。(図 5-3-1)

【問 18 で「何度もあった」、「1、2度あった」とお答えの方にかがいます】  
 問 19 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。  
 (○は1つ)

図5-4-1

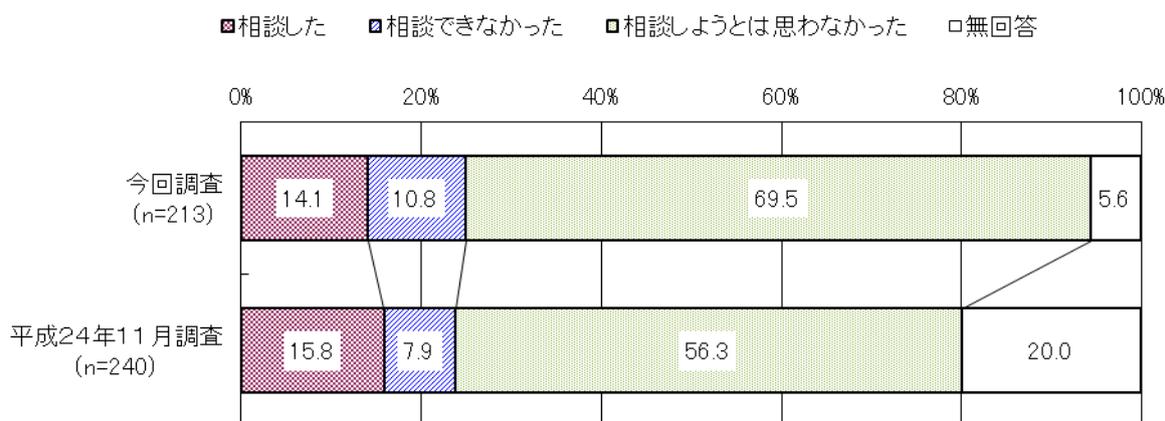


全体では、「相談しようとは思わなかった」が69.5%で約7割と高く、「相談した」は14.1%となっている。

男女別にみると、「相談した」は女性が19.4%、男性が4.1%で女性が男性を上回っている。

(図5-4-1)

図5-4-2 経年変化



<経年変化>

平成24年調査との比較では、「相談した」は減少しており、「相談できなかった」と「相談しようとは思わなかった」は増加している。

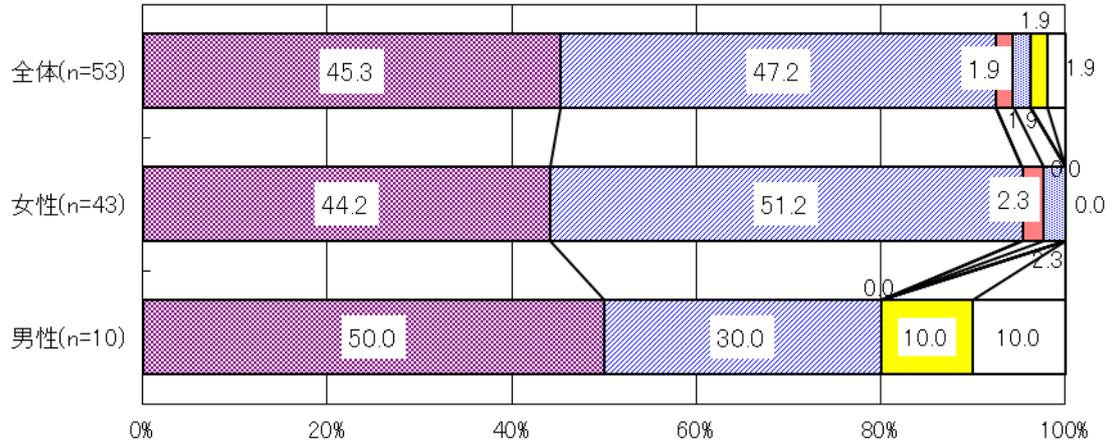
Ⅱ 調査結果

【問 19 で「1. 相談した」とお答えの方にかがいます】

問 20 あなたが、相談した人（場所）を教えてください。（あてはまる番号すべてに○）

図5-5-1

- ① 家族・親せき
- ② 友人・知人
- ③ 警察
- ④ 人権擁護委員
- ⑤ 役所の相談窓口・電話相談など
- ⑥ 配偶者暴力相談支援センター・婦人相談センター
- ⑦ その他公的機関
- ⑧ 弁護士
- ⑨ 医師
- ⑩ 民間の相談機関
- ⑪ その他
- ⑫ 無回答



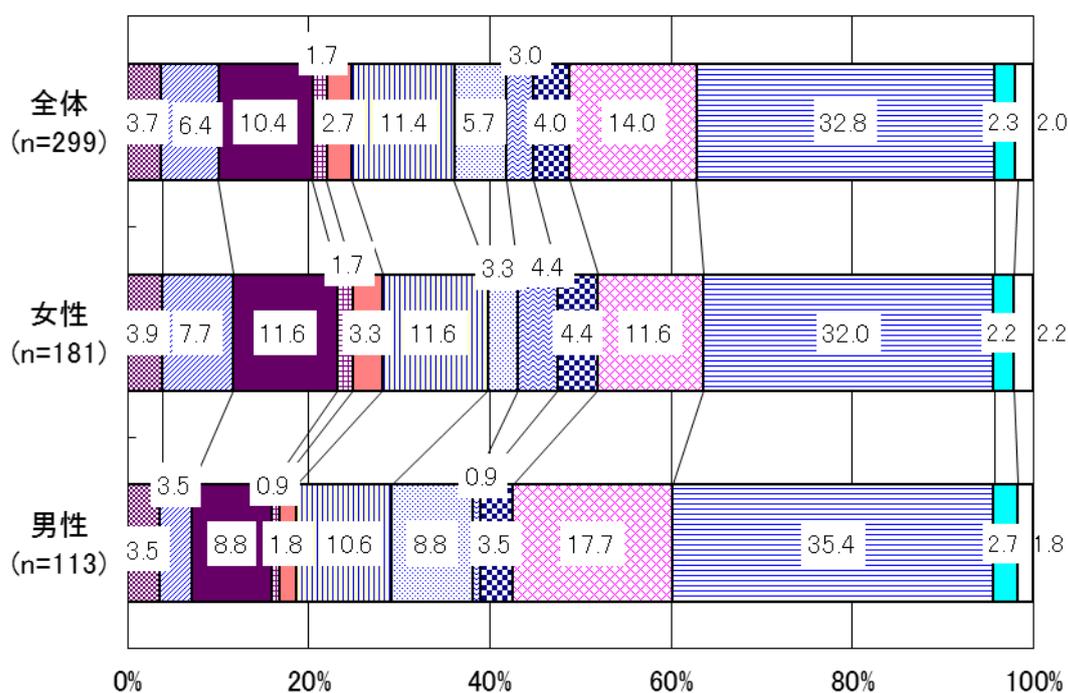
全体では、「友人・知人」が47.2%、次いで「家族・親せき」が45.3%と高なっている。

男女別にみると、女性は「友人・知人」、「家族・親せき」の順で高くなっており、男性は、「家族・親せき」、「友人・知人」の順で高くなっている。（図 5-5-1）

【問 19 で「2. 相談できなかった」「3. 相談しようとは思わなかった」方にうかがいます】  
 問 21 あなたが、誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（あてはまる番号すべてに○）

図5-6-1

- ①誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから
- ②恥ずかしくて誰にも言えなかったから
- ③相談しても無駄だと思ったから
- ④相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
- ⑤相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから
- ⑥自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから
- ⑦世間体が悪いから
- ⑧自分以外の周囲の人を巻き込みたくないから
- ⑨思い出したくないから
- ⑩自分に悪いところがあると思ったから
- ⑪相談するほどのことではないと思ったから
- ⑫その他
- ⑬無回答

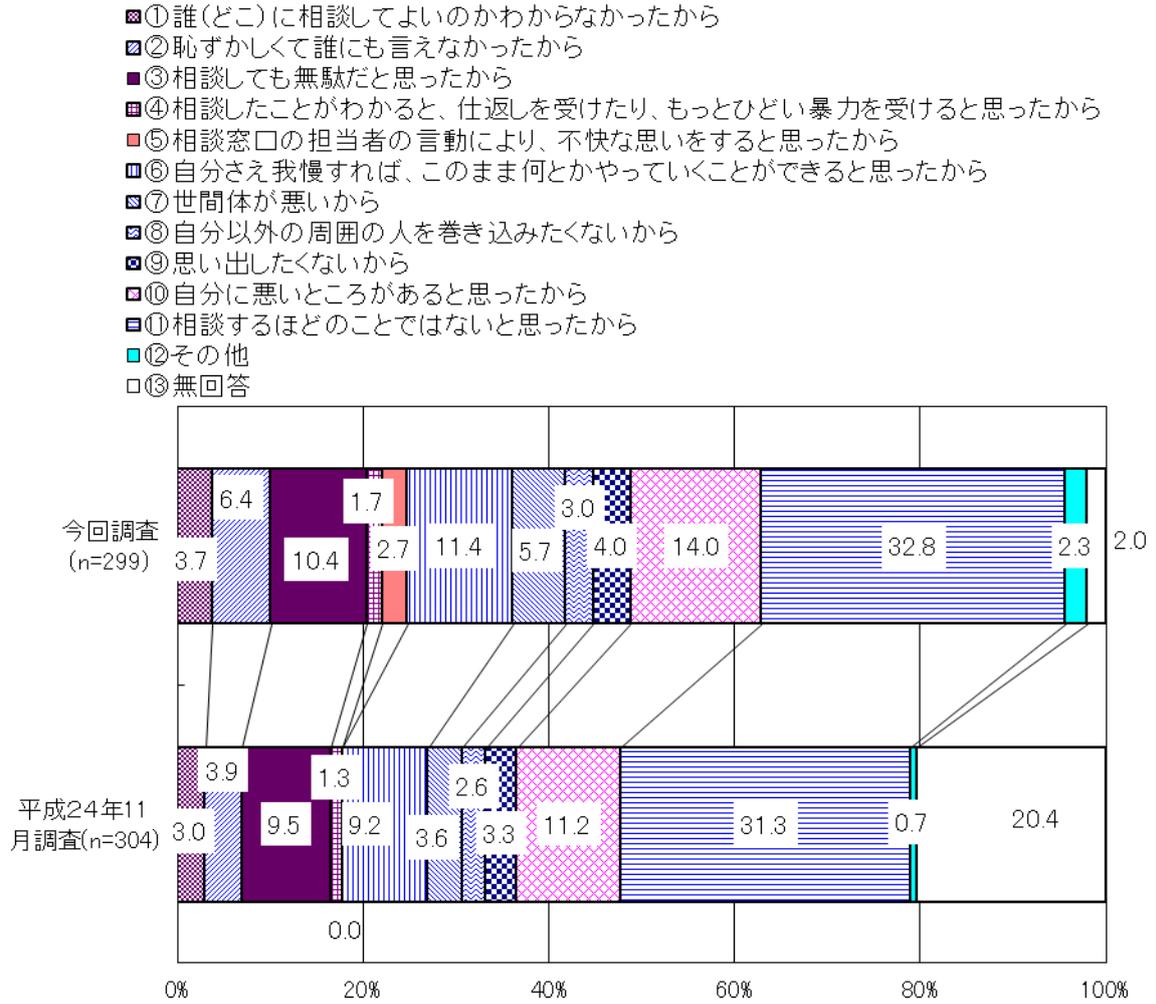


全体では、「相談するほどのことではないと思ったから」が 32.8%と高くなっている。

男女別でみると、女性は「相談するほどのことではないと思ったから」が 32.0%、次いで「相談しても無駄だと思ったから」と「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」と「自分に悪いところがあると思ったから」が 11.6%で高くなっている。男性は「相談するほどのことではないと思ったから」が 35.4%、次いで「自分に悪いところがあると思ったから」が 17.7%、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」が 10.6%となっている。（図 5-6-1）

## Ⅱ 調査結果

### 図5-6-2 経年変化



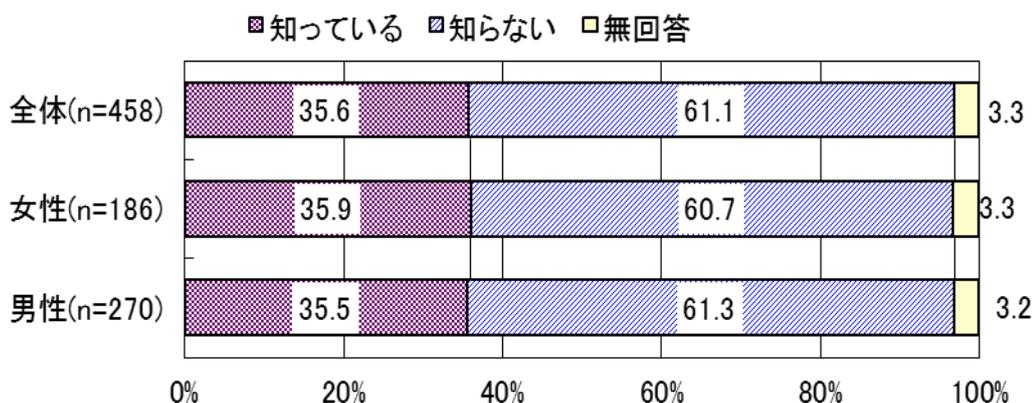
#### <経年変化>

平成24年調査と比較して、「無回答」が減少しており、すべての項目が増加している。(図5-6-2)

新規調査

問 22 「デートDV」とは、恋人間でさまざまな暴力により相手を思いどおりにすることです。あなたは、デートDVについて知っていますか。(〇は1つ)

図5-7

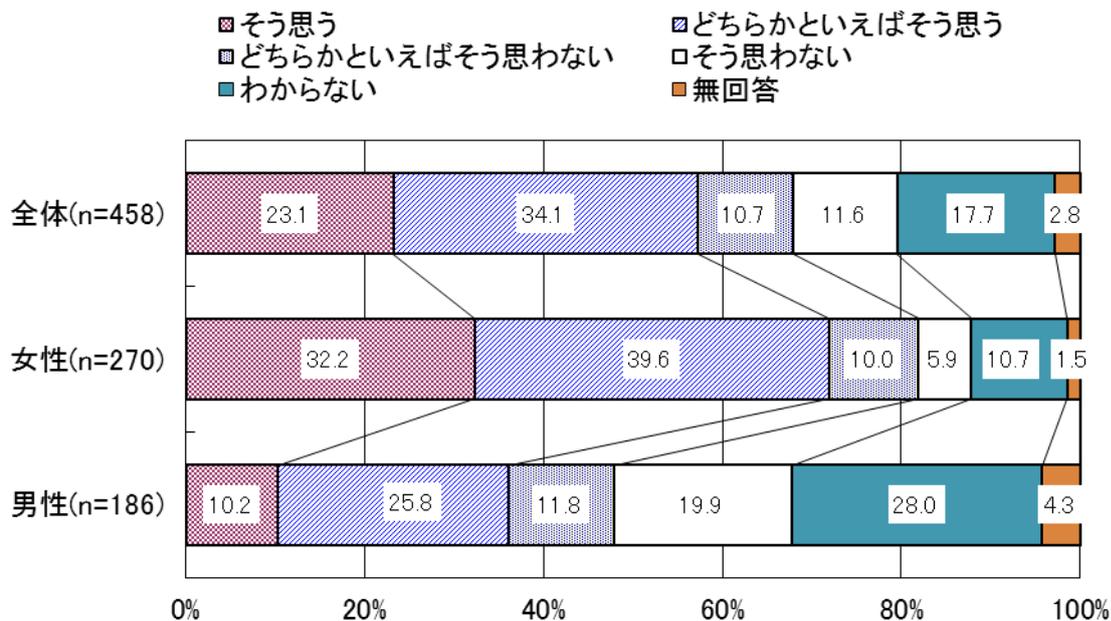


全体では、「知らない」が61.1%となっており、「知っている」の35.6%を上回っている。  
(図5-7)

新規調査

問 23 あなたは、女性の妊娠・出産・中絶・更年期などの健康管理や判断が、自分の意思でできていると思いますか。(〇は1つ)

図5-8



全体では、「どちらかといえばそう思う」が34.1%、次いで「そう思う」が23.1%と高くなっている。

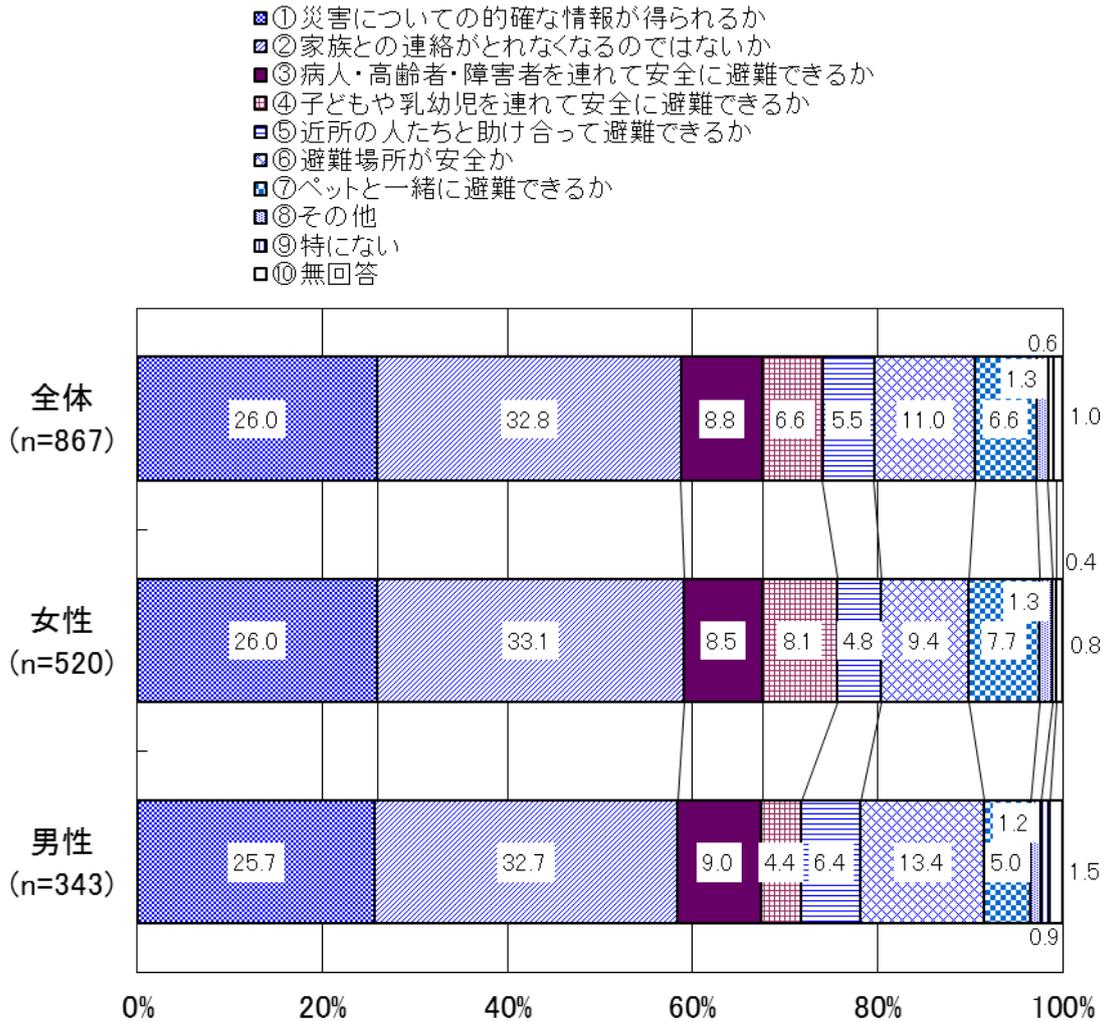
男女別にみると、女性は「どちらかといえばそう思う」が高くなっているが、男性は「わからない」が高くなっている。(図5-8)

Ⅱ 調査結果

(6) 防災について

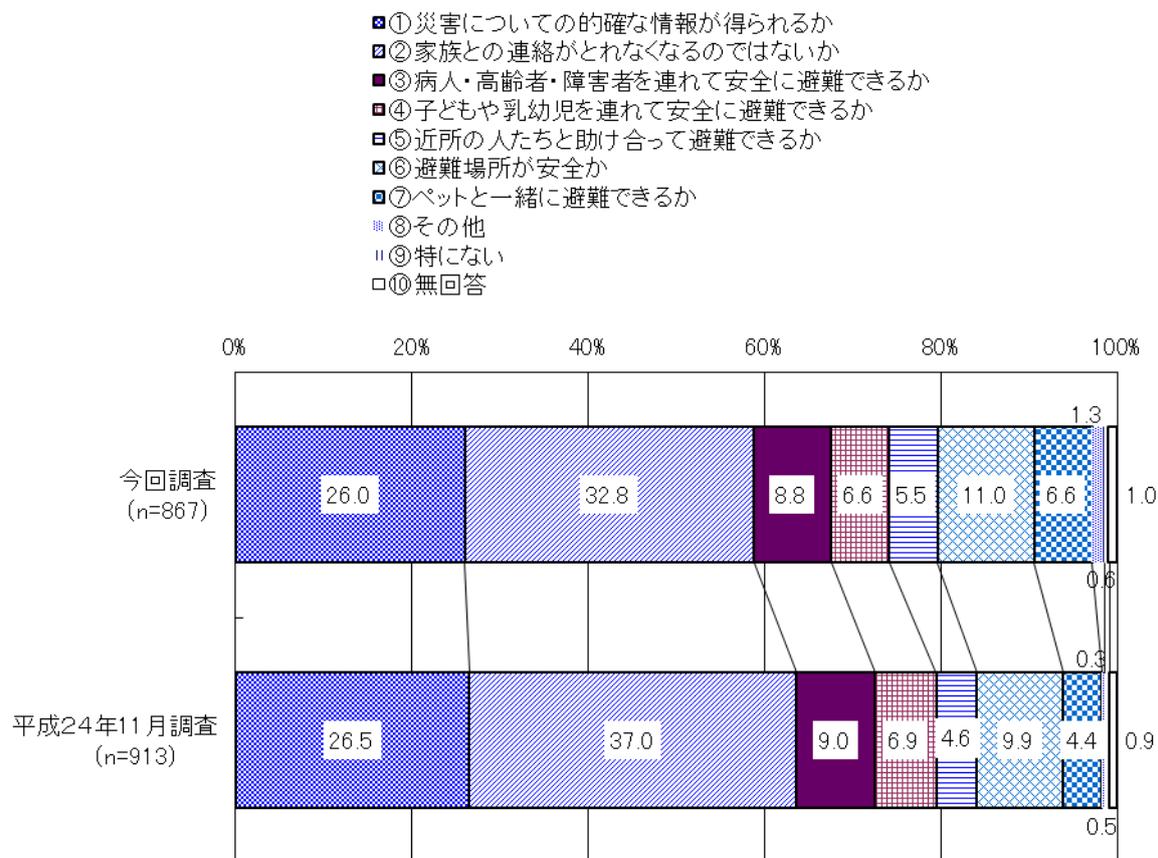
問 24 大災害が発生し避難が必要になったとき、あなたはどのようなことが心配ですか。(〇は2つまで)

図6-1-1



全体では、「家族との連絡がとれなくなるのではないかと」が 32.8%、次いで「災害についての的確な情報が得られるか」が 26.0%で男女とも高くなっている。(図 6-1-1)

図6-1-2 経年変化



<経年変化>

平成24年調査と比較して、「家族との連絡がとれなくなるのではないかと」は減少している。

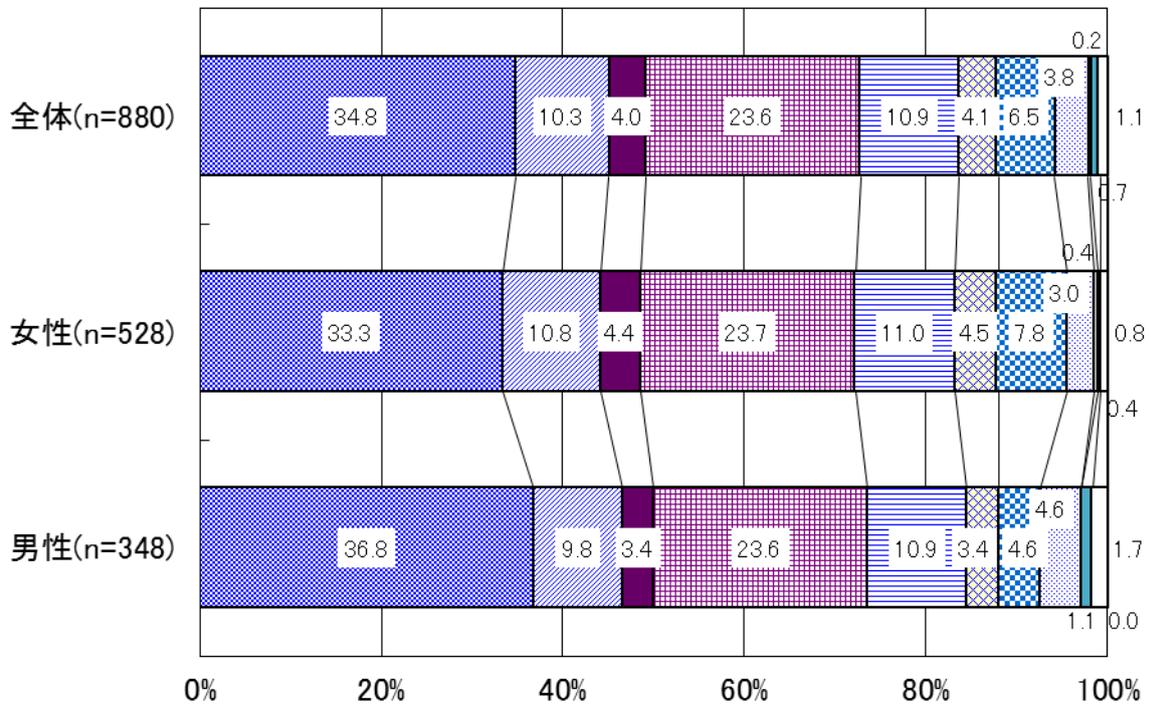
(図 6-1-2)

Ⅱ 調査結果

問 25 防災・災害復興対策で、男女の性別に配慮して取組む必要があると思うことは何ですか。(〇は2つまで)

図6-2-1

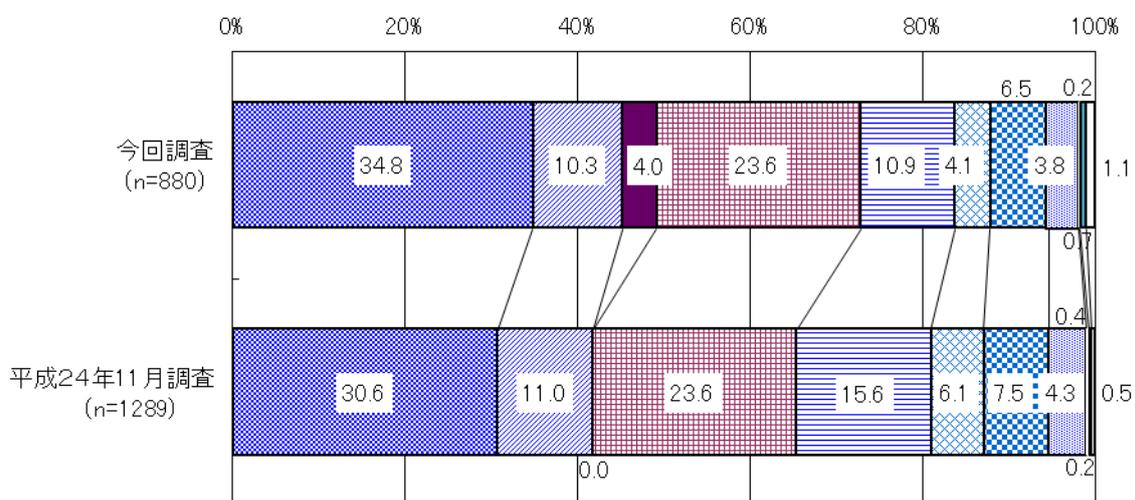
- ①避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)
- ②避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること
- ③避難所等での性犯罪の防止
- ④乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性(女性用品)に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮
- ⑤災害時の救援医療体制(診察・治療体制、妊産婦)
- ⑥被災者に対する相談体制
- ⑦対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること
- ⑧防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること
- ⑨その他
- ⑩特にない
- ⑪無回答



全体では、「避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)」が34.8%、次いで「乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性(女性用品)に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮」が23.6%と高くなっている。(図6-2-1)

図6-2-2 経年変化

- ①避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)
- ②避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること
- ③避難所等での性犯罪の防止
- ④乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性(女性用品)に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮
- ⑤災害時の救援医療体制(診察・治療体制、妊産婦)
- ⑥被災者に対する相談体制
- ⑦対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること
- ⑧防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること
- ⑨その他
- ⑩特にない
- ⑪無回答



\* 「0」表記は調査時に選択肢が無い項目

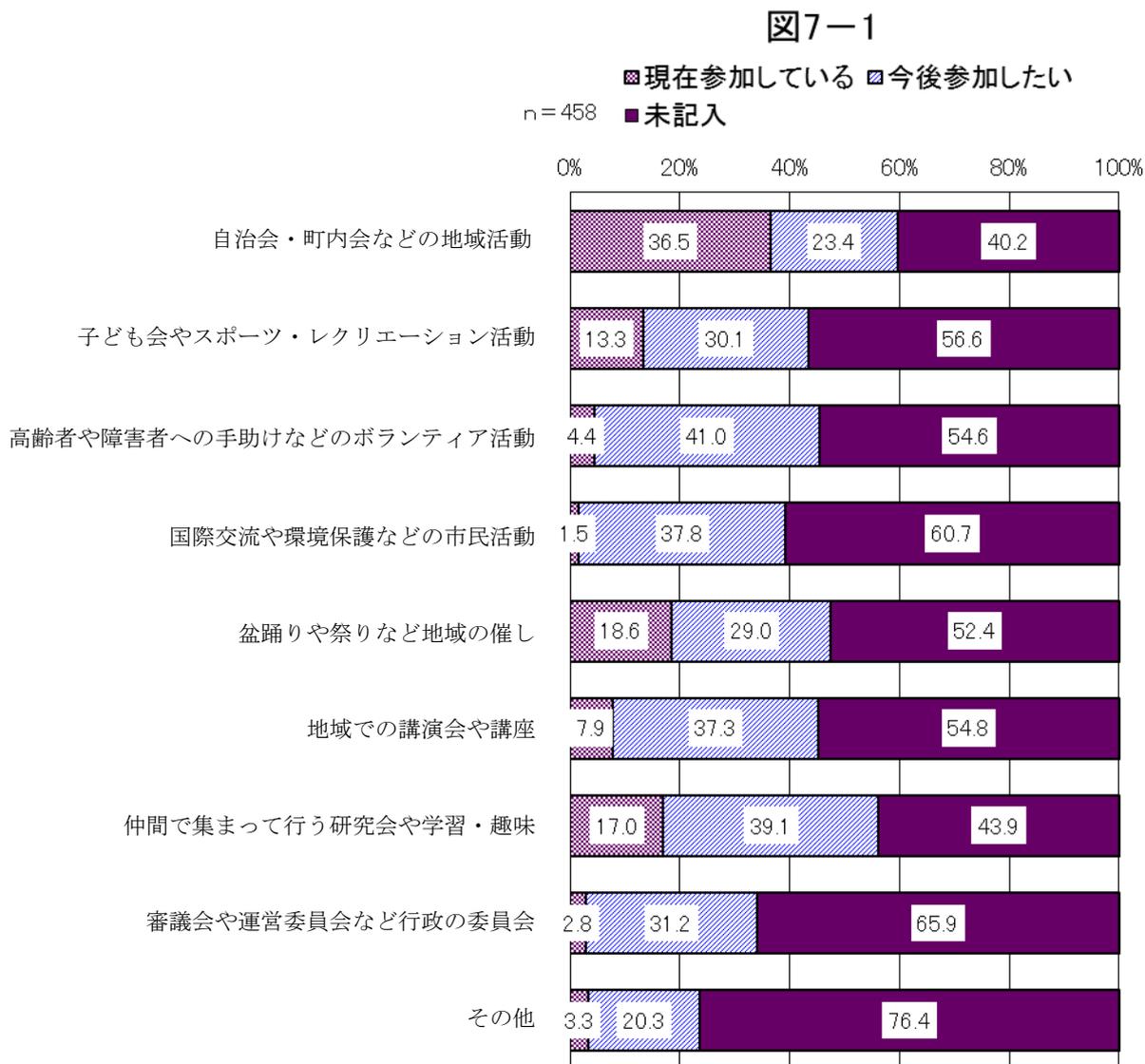
<経年変化>

平成24年調査と比較して、「避難所の設備(男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)」が増加しているが、「災害時の救援医療体制(診察・治療体制、妊産婦)」は減少している。(図6-2-2)

## Ⅱ 調査結果

### (7) 地域参加・社会参画について

問 26 あなたは現在、次にあげるような活動に参加していますか。また、今後参加したい（今後も参加したい）と思われるのはどのような活動ですか。（それぞれあてはまる番号に○）

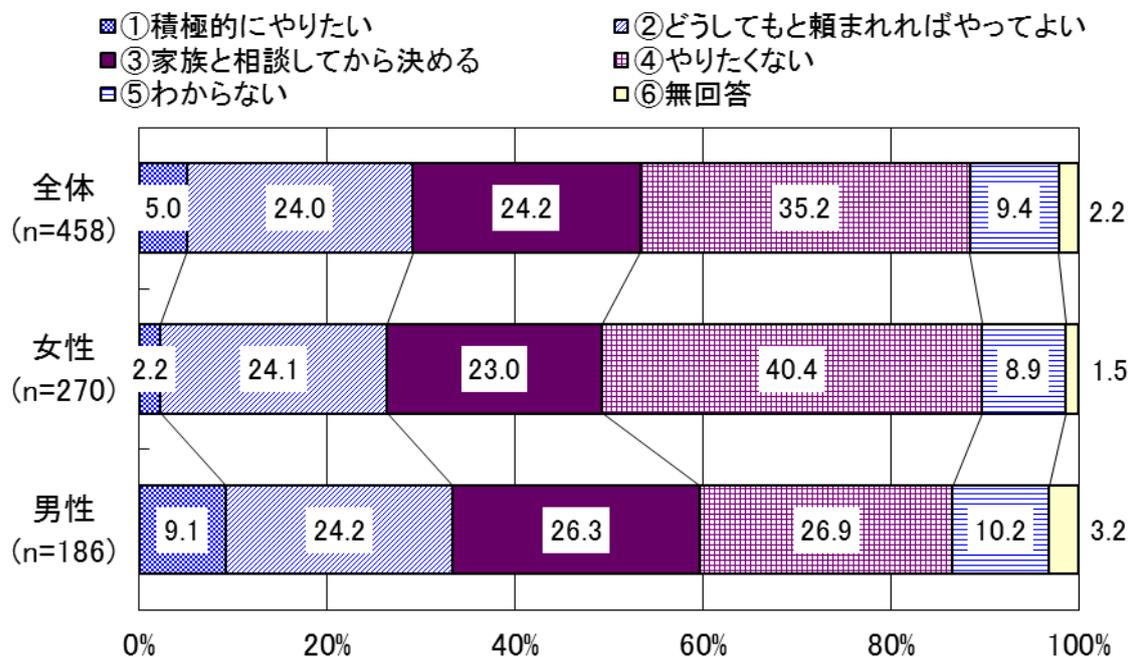


全体では、「現在参加している」は、【自治会・町内会などの地域活動】が 36.5%、次いで【盆踊りや祭りなど地域の催し】が 18.6%と高くなっている。

「今後参加したい」は、【高齢者や障害者への手助けなどのボランティア活動】が 41.0%、次いで【仲間が集まって行う研究会や学習・趣味】が 39.1%と高くなっている。（図 7-1）

問 27 あなたが、自治会・町会やPTA等の代表、または、職場の役職に選ばれる機会があったらどうしますか（○は1つ）

図7-2-1

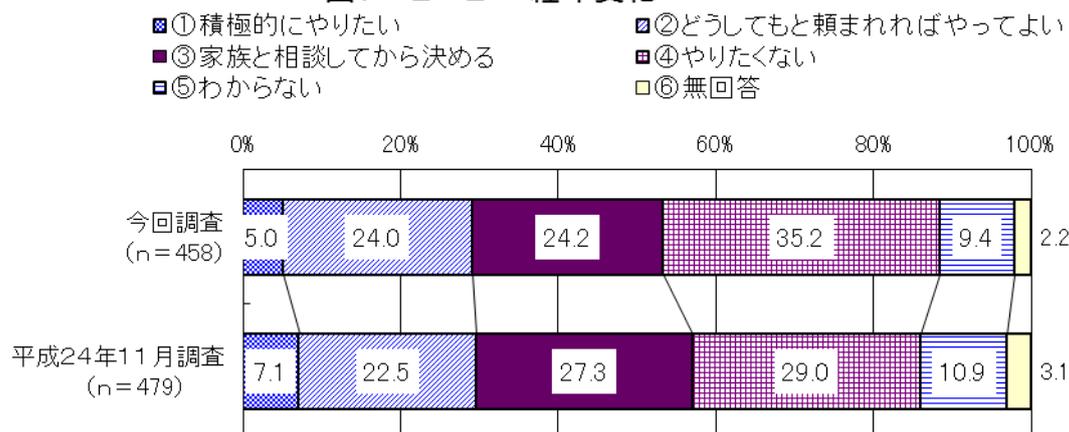


全体では、「やりたくない」が35.2%で高くなっている。

男女別で見ると、「やりたくない」は女性が40.4%、男性が26.9%で女性の方が高くなっており、「積極的にやりたい」は女性が2.2%に対し、男性が9.1%で約4倍になっている。

(図 7-2-1)

図7-2-2 経年変化



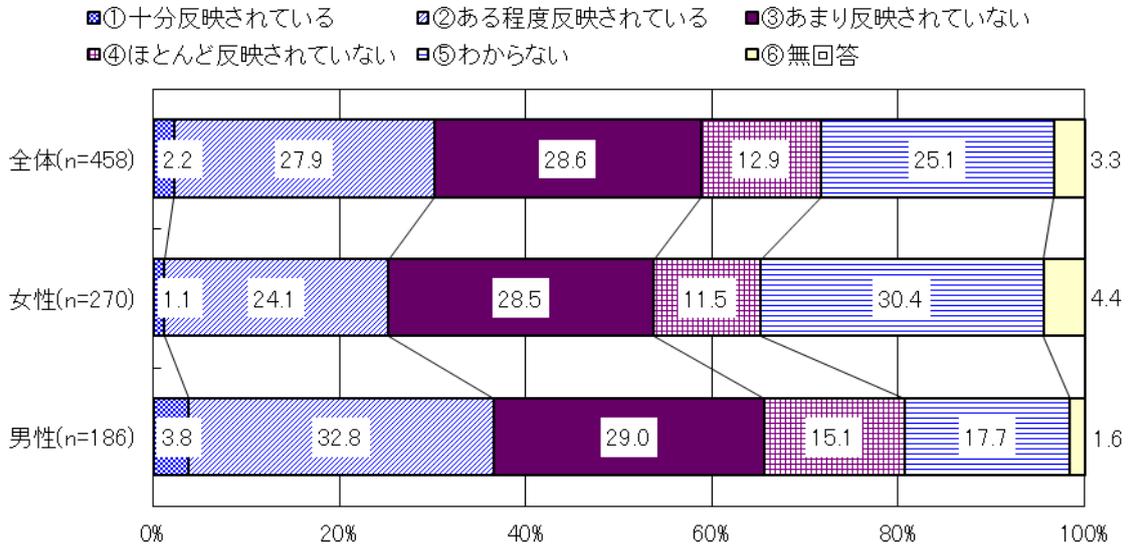
<経年変化>

平成24年調査と比較すると、「やりたくない」は増加しており、「家族と相談してから決める」は減少している。(図 7-2-2)

Ⅱ 調査結果

**問28 あなたは、次のような分野で女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。  
(それぞれあてはまる番号に○)**

図7-3-1-1 国会、県議会、市町村議会などの政治

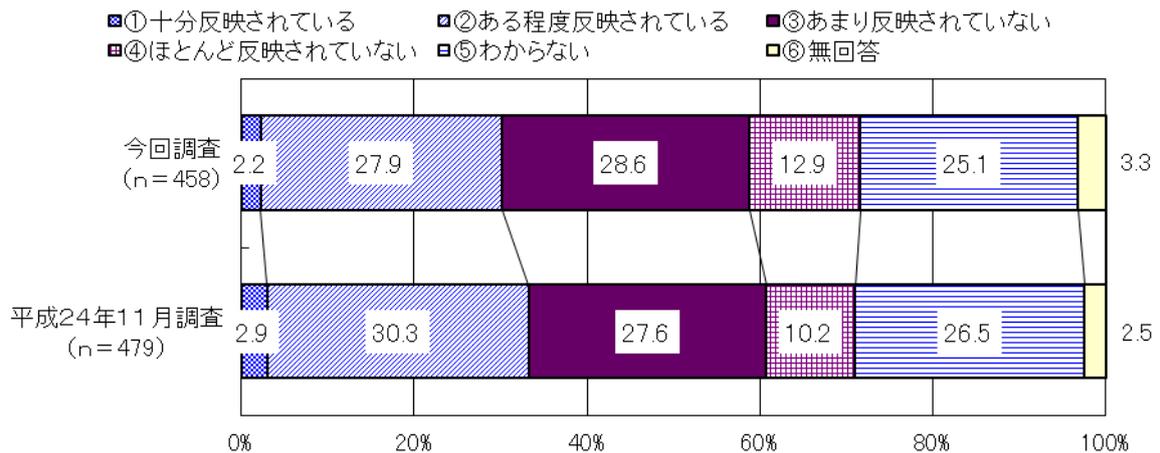


【国会、県議会、市町村議会などの政治】

全体では、「あまり反映されていない」が28.6%と高くなっている。

男女別にみると、女性は「わからない」が30.4%、男性は「ある程度反映されている」が32.8%と高くなっている。(図7-3-1-1)

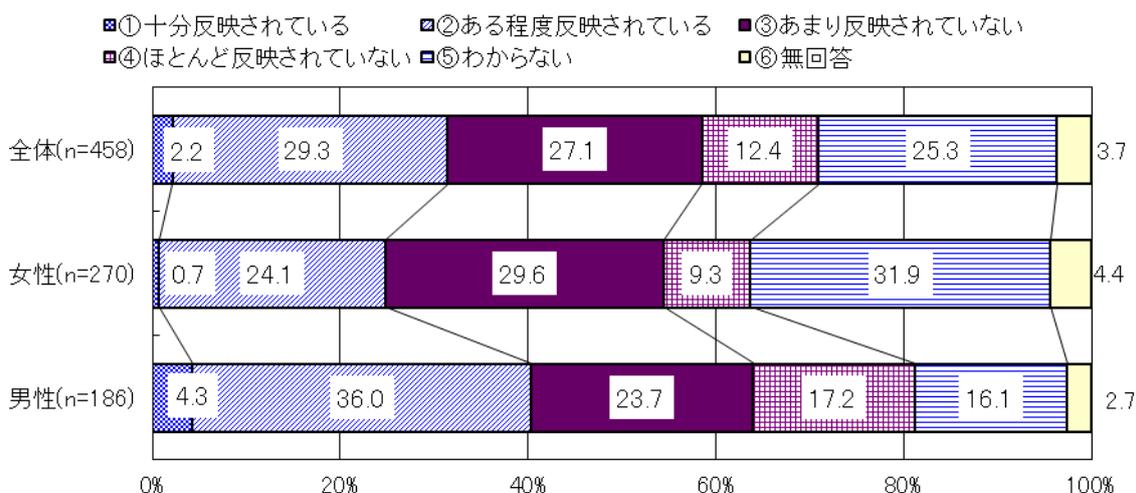
図7-3-1-2 経年変化



<経年変化>

平成24年調査と比較すると、「ある程度反映されている」は減少しており、「あまり反映していない」と「ほとんど反映されていない」は増加している。(図7-3-1-2)

図7-3-2-1 国、県、市町村などの行政

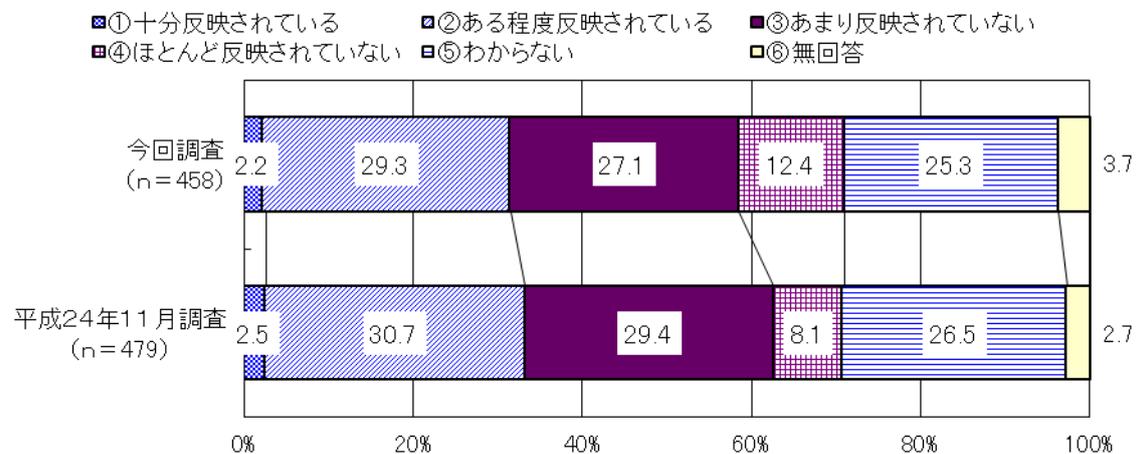


【国・県・市町村などの行政】

全体では、「ある程度反映されている」が29.3%と高くなっている。

男女別でみると、女性は「わからない」が31.9%、男性は「ある程度反映されている」が36.0%と高くなっている。(図7-3-2-1)

図7-3-2-2 経年変化

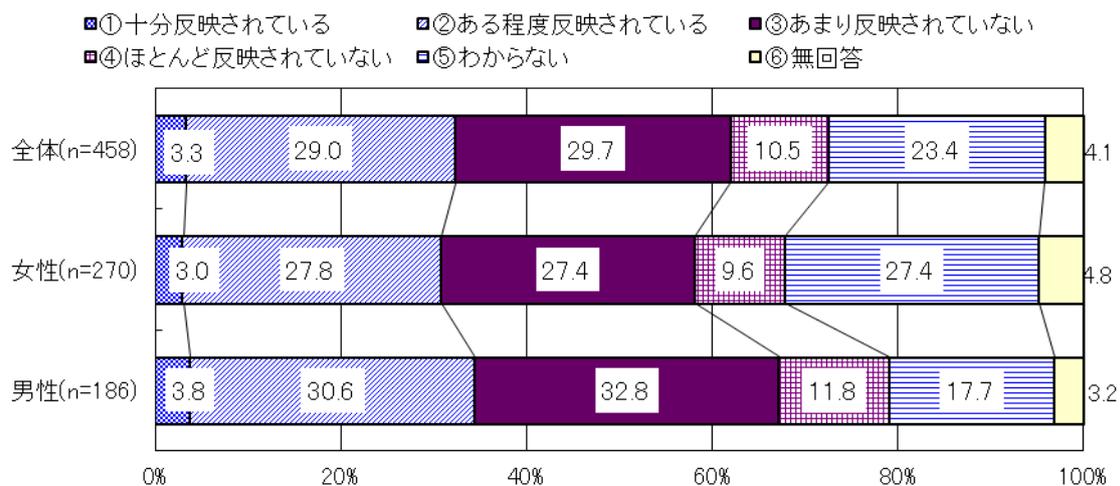


<経年変化>

平成24年調査と比較すると、「ほとんど反映されていない」は増加しているが、他の項目は減少している。(図7-3-2-2)

## Ⅱ 調査結果

図7-3-3-1 企業などの職場

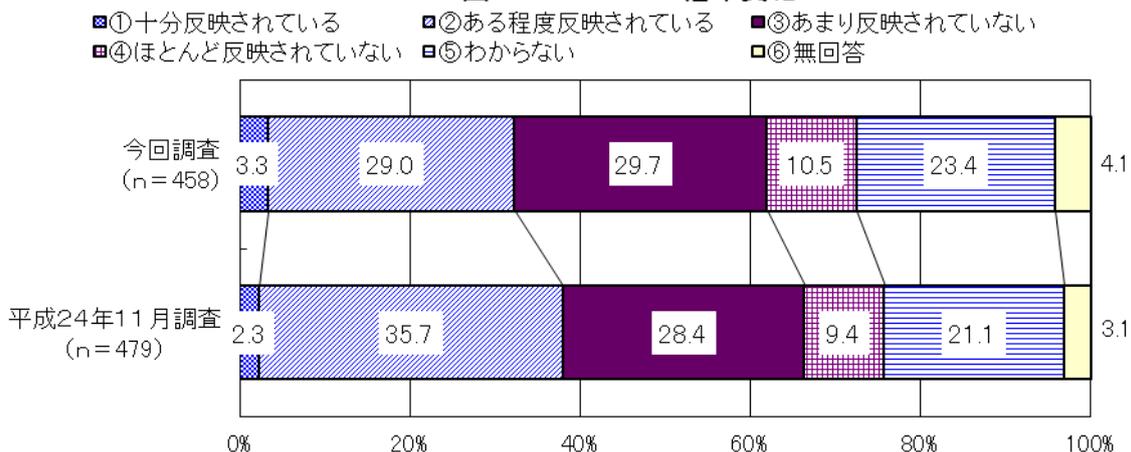


### 【企業などの職場】

全体では、「あまり反映されていない」が29.7%、次いで「ある程度反映されている」が29.0%と高くなっている。

男女別で見ると、女性は「ある程度反映されている」が27.8%、男性は「あまり反映されていない」が32.8%と高くなっている。(図7-3-3-1)

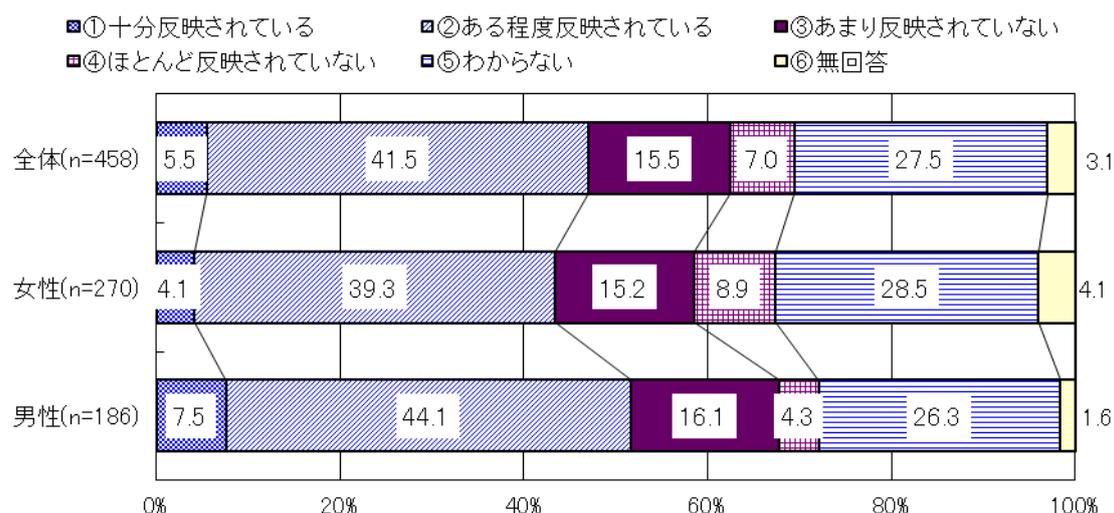
図7-3-3-2 経年変化



### <経年変化>

平成24年調査と比較すると、「ある程度反映されている」は減少しているが、他の項目は増加している。(図7-3-3-2)

図7-3-4-1 自治会・町内会、PTAなどの地域



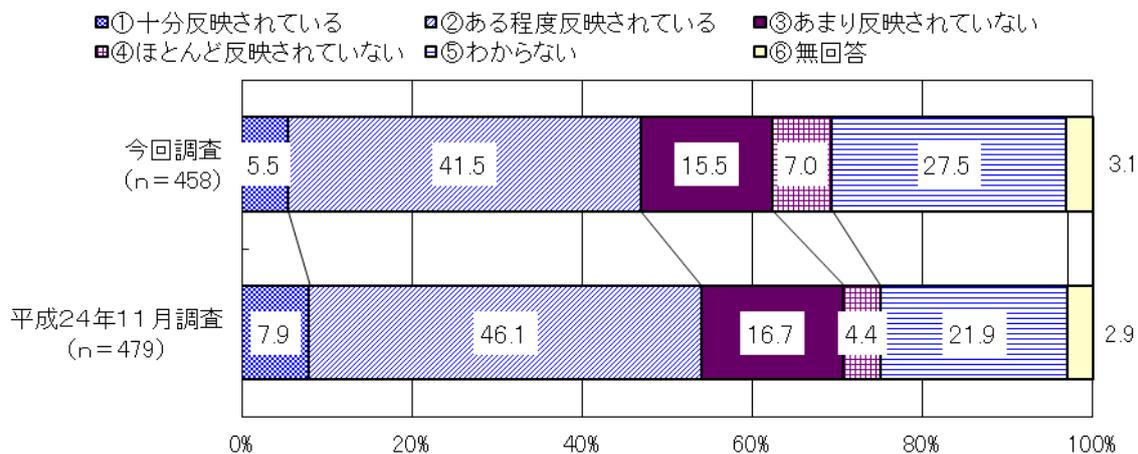
【自治会、町内会、PTAなどの地域】

全体では、「ある程度反映されている」が41.5%と高くなっている。

男女別でみると、「十分反映されている」は女性が4.1%、男性が7.5%で男性が高くなっており、「ほとんど反映されていない」は、女性が8.9%、男性が4.3%で女性が高くなっている。

(図 7-3-4-1)

図7-3-4-2 経年変化



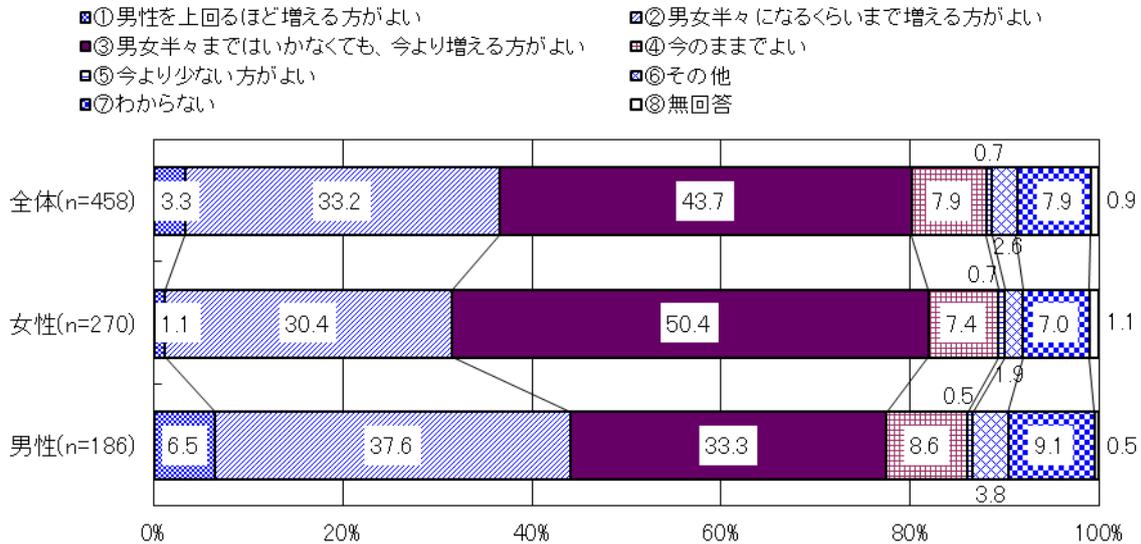
<経年変化>

平成24年調査と比較すると、「ほとんど反映されていない」と「わからない」は増加しているが、他の項目は減少している。(図 7-3-4-2)

Ⅱ 調査結果

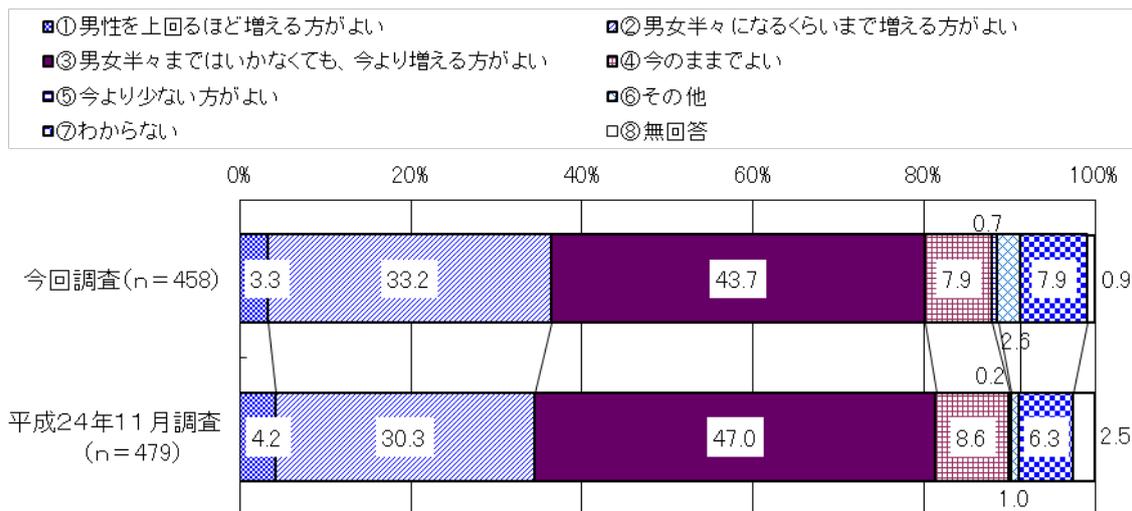
問 29 あなたは、自治会・町会やPTA等の代表や職場の役職、議員や各種委員など、政策・方針決定の場に女性が参画することについてどう思いますか。(〇は1つ)

図7-4-1



全体では、「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」が 43.7%と高くなっている。さらに、「男性を上回るほど増える方がよい」と「男女半々になるくらいまで増える方がよい」とを合わせると、8割を超えて女性の参画に肯定的となっている。(図 7-4-1)

図7-4-2 経年変化



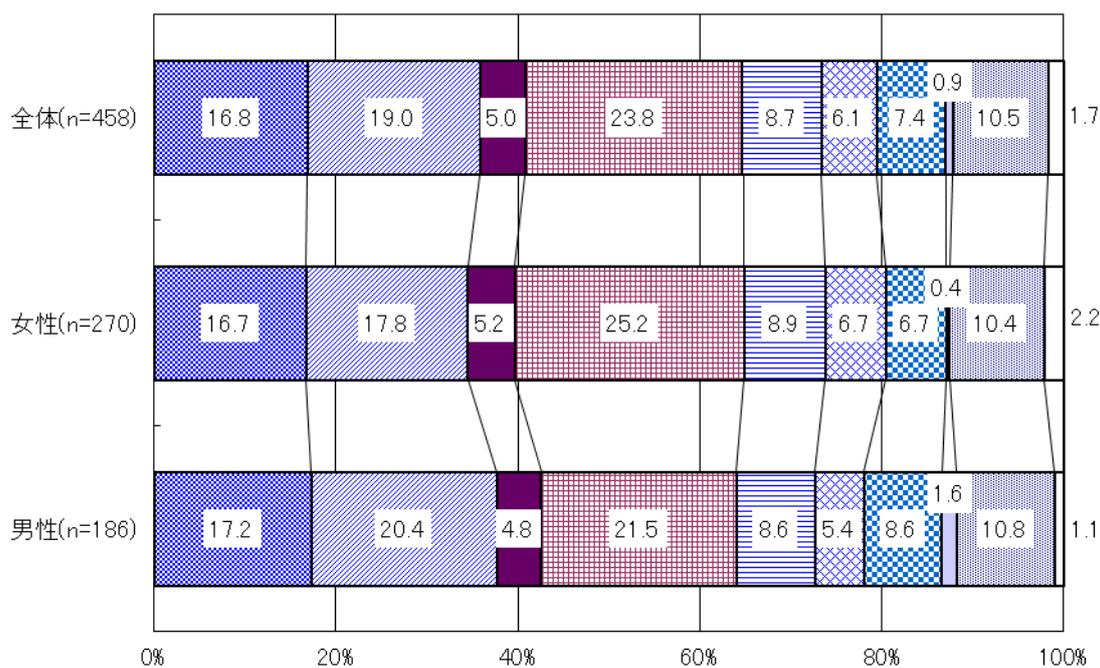
<経年変化>

平成24年調査と比較すると、「男女半々になるくらいまで増える方がよい」は増加しているが、一方で、「男女半々まではいかなくても、今より増える方がよい」は減少している。(図 7-4-2)

問 30 自治会・町会やPTA等の代表や、議員や各種委員など、政策・方針決定の場に女性の参画が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(〇は1つ)

図7-5-1

- ①「役職などは男性がやるもの」という意識をなくすこと
- ②男性優位の組織運営を改善すること
- ③女性の能力開発のため、研修や訓練の機会を充実させる
- ④女性自身が積極的な意識・意欲を持つこと
- ⑤家族からの支援や協力があること
- ⑥女性の活動を支援するネットワークの充実を図ること
- ⑦政策・方針決定の重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度の充実を図ること
- ⑧その他
- ⑨わからない
- ⑩無回答



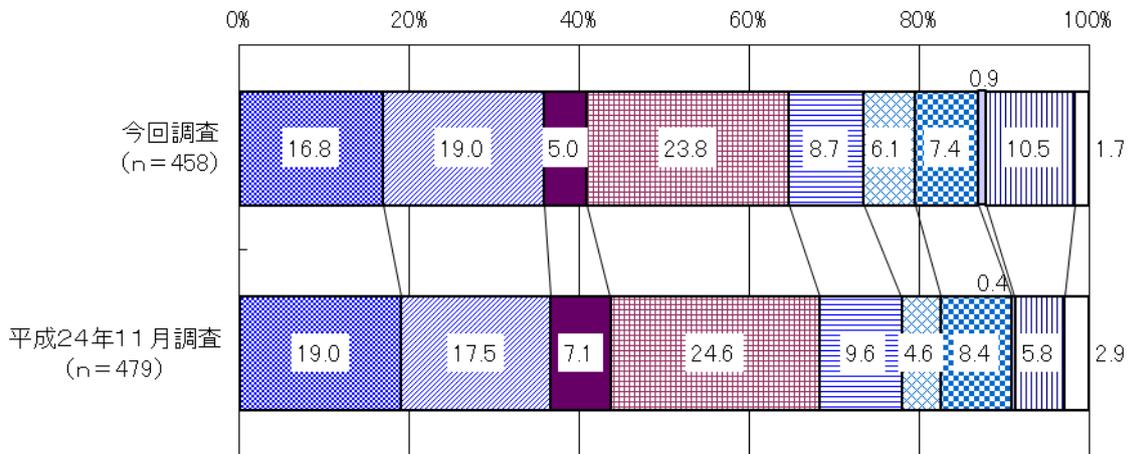
全体では、「女性自身が積極的な意識・意欲を持つこと」が23.8%と高くなっている。

男女別で見ると、「女性自身が積極的な意識・意欲を持つこと」は女性が25.2%、男性が21.5%と高くなっている。(図7-5-1)

## Ⅱ 調査結果

図7-5-2 経年変化

- ①「役職などは男性がやるもの」という意識をなくすこと
- ②男性優位の組織運営を改善すること
- ③女性の能力開発のため、研修や訓練の機会を充実させる
- ④女性自身が積極的な意識・意欲を持つこと
- ⑤家族からの支援や協力があること
- ⑥女性の活動を支援するネットワークの充実を図ること
- ⑦政策・方針決定の重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度の充実を図ること
- ⑧その他
- ⑨わからない
- ⑩無回答



### <経年変化>

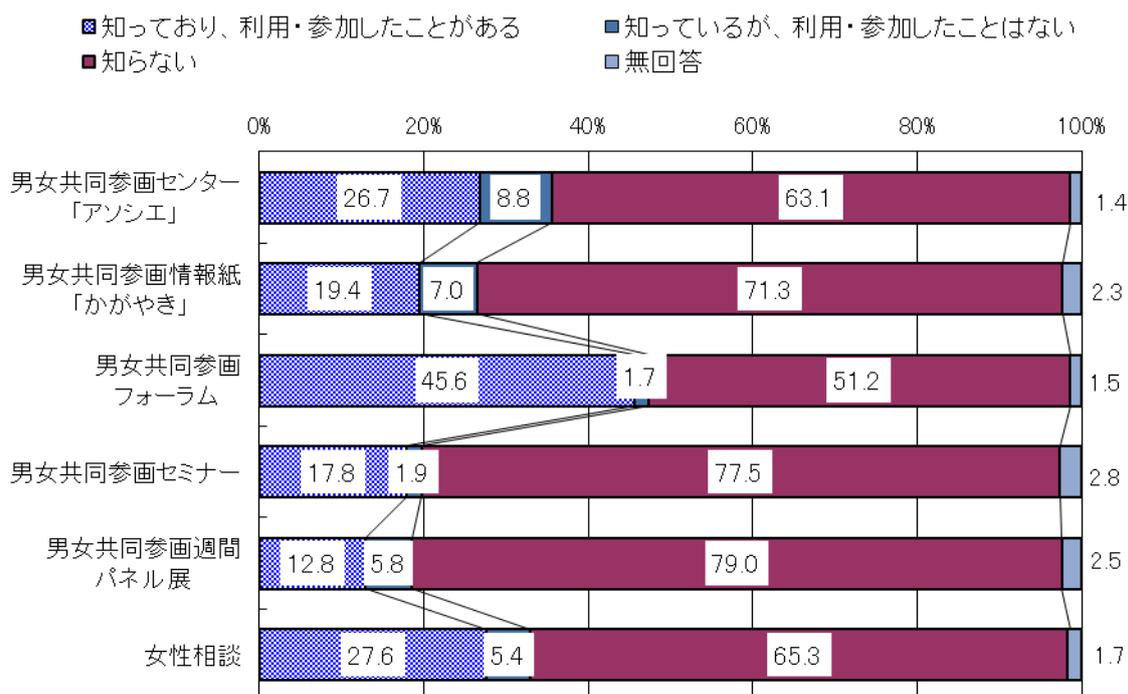
平成24年調査と比較すると、「男性優位の組織運営を改善すること」と「女性の活動を支援するネットワークの充実を図ること」が増加しており、他の項目は減少している。(図7-5-2)

(8) 桶川市の政策（男女共同参画推進施策）について

新規調査

問 31 市で行われている男女共同参画に関する取組や事業について、知っているものはありますか。（それぞれあてはまる番号に○）

図8-1



全体では、どの項目も「知らない」が高くなっている。

「知っている、利用・参加したことがある」は、【男女共同参画フォーラム】が 45.6%、次いで【女性相談】が 27.6%と高くなっている。

「知っているが、利用・参加したことはない」は、【男女共同参画センター「アソシエ」】が 8.8%、【男女共同参画情報紙「かがやき」】が 7.0%と高くなっている。

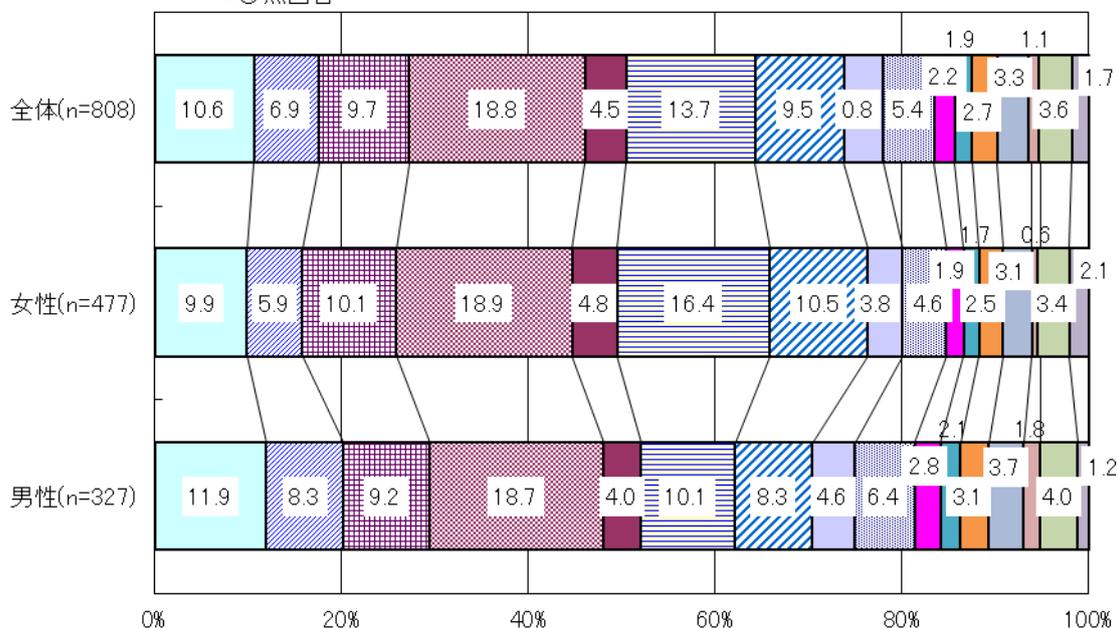
「知らない」は、【男女共同参画週間パネル展】が 79.0%、次いで【男女共同参画セミナー】が 77.5%と高くなっている。(図 8-1)

Ⅱ 調査結果

問 32 市では、男女共同参画社会の実現を目指して、さまざまな施策を実施していますが、今後はどのようなことに力をいれていくのがよいと思いますか。(〇は2つまで)

図8-2-1

- ①男女平等意識を育てる学校教育の充実
- ②男女平等意識を啓発するための講座やシンポジウム等の開催
- ③女性の就労や起業のための支援
- ④子育て支援の充実
- ⑤男性の意識改革のための講座や啓発の実施
- ⑥介護支援の充実
- ⑦ワーク・ライフ・バランスの啓発
- ⑧政策・方針決定過程への女性の参画促進
- ⑨地域活動への男女共同参画の促進
- ⑩防災分野での男女共同参画の促進
- ⑪男女共同参画コーナーなどの拠点施設の充実
- ⑫女性に対する暴力の防止と支援の充実
- ⑬相談事業の充実
- ⑭その他
- ⑮特になし
- ⑯無回答



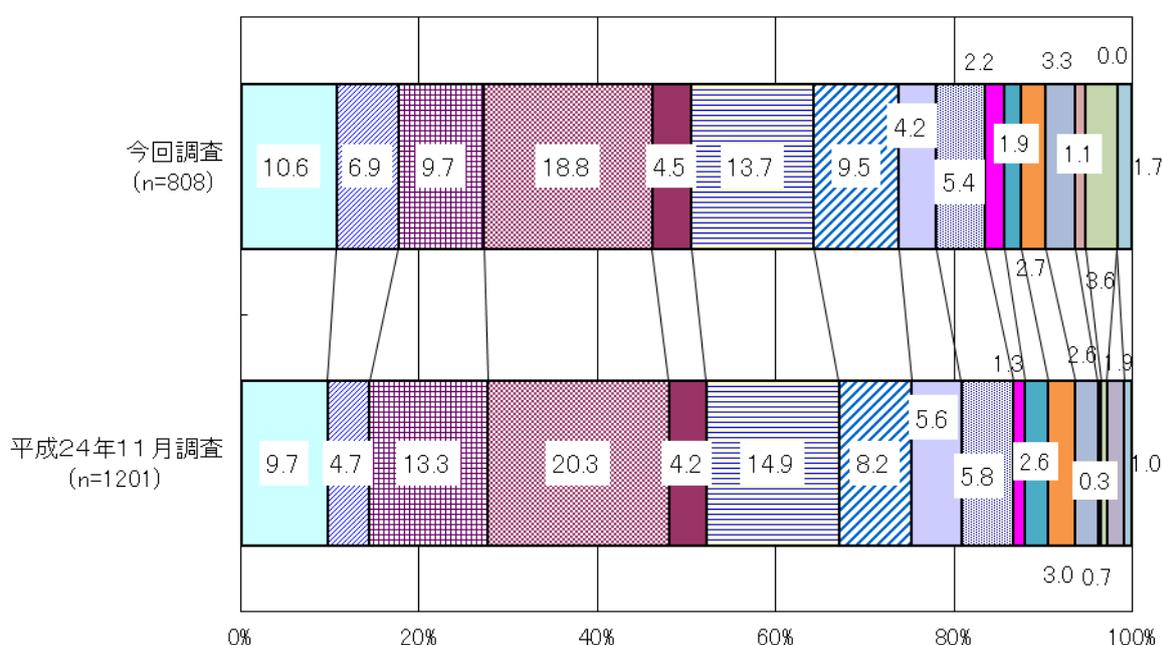
全体では、「子育て支援の充実」が18.8%、次いで「介護支援の充実」が13.7%、「男女平等意識を育てる学校教育の充実」が10.6%と高くなっている。

男女別で見ると、女性は「子育て支援の充実」が18.9%、次いで「介護支援の充実」が16.4%、「ワーク・ライフ・バランスの啓発」が10.5%と高くなっている。

男性は「子育て支援の充実」が18.7%、次いで「男女平等意識を育てる学校教育の充実」が11.9%、「介護支援の充実」が10.1%と高くなっている。(図8-2-1)

図8-2-2 経年変化

- ①男女平等意識を育てる学校教育の充実
- ②男女平等意識を啓発するための講座やシンポジウム等の開催
- ▨③女性の就労や起業のための支援
- ▩④子育て支援の充実
- ⑤男性の意識改革のための講座や啓発の実施
- ▨⑥介護支援の充実
- ▩⑦ワーク・ライフ・バランスの啓発
- ▨⑧政策・方針決定過程への女性の参画促進
- ▩⑨地域活動への男女共同参画の促進
- ⑩防災分野での男女共同参画の促進
- ▨⑪男女共同参画コーナーなどの拠点施設の充実
- ▩⑫女性に対する暴力の防止と支援の充実
- ⑬相談事業の充実
- ⑭その他
- ⑮特になし
- ⑯わからない
- ⑰無回答



<経年変化>

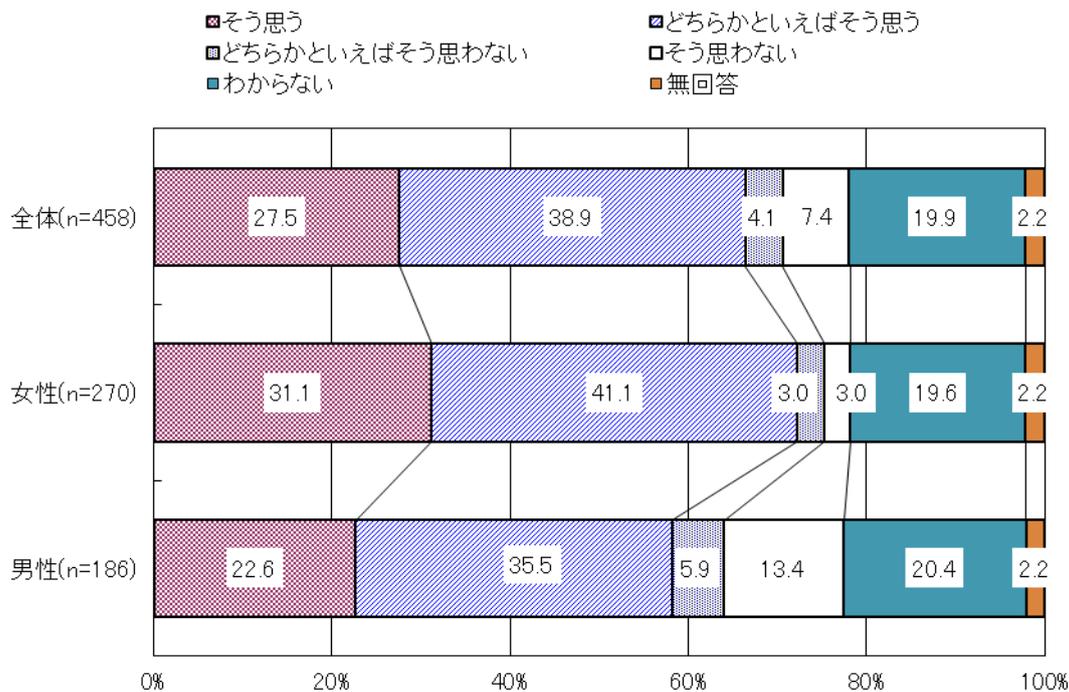
平成24年調査と比較すると、「男女平等意識を育てる学校教育の充実」と「男女平等意識を啓発するための講座やシンポジウム等の開催」と「ワーク・ライフ・バランスの啓発」が増加している。(図8-2-2)

## Ⅱ 調査結果

### 新規調査

問 33 市では、月に2回専門のカウンセラーによる女性相談を実施しています。  
あなたは、男性についても専門のカウンセラーによる男性相談が必要だと思いますか。(〇は1つ)

図8-3



全体では、「どちらかといえばそう思う」が38.9%、次いで「そう思う」が27.5%と高くなっている。

男女別でみると、「どちらかといえばそう思う」は女性が41.1%、男性が35.5%となっており、「そう思う」は女性が31.1%、男性が22.6%でそれぞれ女性の方が高くなっている。一方で、「そう思わない」は女性が3.0%、男性が13.4%となっており、男性の方が約4倍高くなっている。

(図8-3)

### Ⅲ 記述部分と意見、要望等



### Ⅲ 記述部分と意見・要望等

各設問における記述部分及び意見・要望等についての記述については、以下のとおり様々な意見をいただきました。

**問3 今後、社会のあらゆる分野で男女がより平等になるために最も重要と思うことはなんですか。(〇は1つ)**

#### 女性

- ・法律の見直しをしても、女性支援サービスをして、女性登用にしても、古くからの社会通念、しきたりには勝てないと思う。 < 50歳代 >
- ・男性の女性に対する認知度、いくら制度が変わっても、男性が女性を見下ろす態度がなくならなければ何も変わらないと思う。 < 40歳代 >

#### 男性

- ・人権に対する教育、普及を学校教育、地域社会で行うこと。 < 70歳代 >
- ・性別の区分けを行わず、どちらかの性別の優遇措置を取らない事。また、制度上以外の平等は必要ない。 < 30歳代 >
- ・平等にならなくてよい。男性が強い世界がよい。 < 40歳代 >
- ・何をもちて平等と考えるかというところから考える必要がある。 < 50歳代 >
- ・ケースバイケースでよい。 < 30歳代 >
- ・真の平等とは“あらゆる点”で平等である事(性別等を優遇がない状態)。 < 40歳代 >

**問4 家庭における男女の役割分担について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際に結婚している方や、パートナーと同居している方の状況はどうですか。次の中から、あなたの考え方や状況に最も近いものを選んで、それぞれの口の中に番号をご記入ください。(番号は1つ)**

#### 女性

- ・それぞれの家庭によって異なる。 < 50歳代 >
- ・同意があれば何でもよい。 < 60歳代 >

#### 男性

- ・両性の合意のもとに、仕事・家事・その他の分担や協力等はどのような形態でも良い。 < 70歳代 >
- ・女性は仕事をやめて育児に取り組み、ある程度までは育児を行う。その後仕事をする。 < 60歳代 >
- ・家庭に合ったやり方で。 < 30歳代 >
- ・その家庭のもっとも良いバランスで良い。 < 40歳代 >
- ・平日(月～金)は男性が仕事、女性が家事・育児・介護とし、休日(土・日)は、男女とも仕事をし、家事・育児・介護等を分担する。 < 60歳代 >

### Ⅲ 記述部分と意見・要望等

- ・理想は答えられない。実際、家庭の条件は全部それぞれ異なる。いずれにせよ、家庭の経済的安定が絶対必要だと考える。 < 70歳代 >

**問6 今後、男女が家事・育児・介護をともに分担していくためには何が必要だと思いますか。(〇は2つ)**

#### 女性

- ・家庭で教育も重要 < 60歳代 >
- ・大企業だけでなく、中小企業で働く者の為にも育児・介護休業制度が使える環境の整備が必要！！働く者全員平等に使える環境が欲しい。 < 40歳代 >
- ・その時の状況で判断したらよいと思う。 < 70歳代 >

#### 男性

- ・法的整備を進め、啓発活動の充実、企業への環境整備を強化すること。 < 70歳代 >
- ・適材適所で分担すべき。 < 30歳代 >
- ・分担しなくてよい。 < 40歳代 >
- ・社会風潮に流されない。または生まない事。 < 40歳代 >

**問8 育児休業制度や介護休業制度を利用できない、または利用しない理由は何ですか。(〇は1つ)**

#### 女性

- ・子どもがいない、介護が必要な人がいないので利用したことがない。 < 50歳代 >

#### 男性

- ・必要性を感じない。男は仕事、女は家事でよい。 < 40歳代 >

**問12 今後、ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は2つまで)**

#### 女性

- ・子どもの自立。 < 50歳代 >

#### 男性

- ・形だけではない企業改革が必要である。 < 40歳代 >
- ・上記のすべてが必要だと思うが、そういう小手先の2つではなく、基本理念からかんがえるべきだと思う。ヨーロッパ各国の先進的考え方を勉強して、なぜそれが日本でできないかを考え、出来るようにするべきだと思う。 < 70歳代 >
- ・法的に職場環境を義務づけること。 < 70歳代 >
- ・適材適所で役割分担をする。 < 30歳代 >

- ・バランスがとれているから不要。調和の意味が分からない。興味が無い。 <30歳代>
- ・夫婦2人だけの生活で今のところ介護することがないので、2人が健康でいたい。 <70歳代>
- ・安心して働ける環境をつくること。 <60歳代>

**問13 あなたは、女性の働き方について、望ましいと思うのはどれですか。(〇は1つ)**

**女性**

- ・どのような働き方をしたいかは人によって様々だと思う。その人が子どもができて働きたいと望んだ時には“働き続ける”という選択肢を自由に選べる環境があるとよいと思う。働きたいのに辞めざるを得ないのは、つらいと思う。 <30歳代>
- ・子どもの状態など、選びたい状況がどれでもすぐに決められること。 <60歳代>

**男性**

- ・本人の育児観で自己決定すればよいと思う。 <70歳代>
- ・その人の環境による。 <30歳代>
- ・結婚や出産に関わらず、個人により仕事ができる環境づくり。 <60歳代>
- ・それぞれの人が思ったとおりにできる事。 <50歳代>
- ・その人の判断に任せる。実現できるように努力する。 <30歳代>
- ・好きにすればよい。 <30歳代>
- ・女性の自由な意思に任せることが望ましい。 <40歳代>
- ・個人の裁量。 <40歳代>
- ・続けられれば、選択できる体制が必要。 <30歳代>

**問14 女性が仕事をもち続ける上で、障害になるものは何だと思いますか。(〇は2つまで)**

**女性**

- ・自分の子どもの一番かわいい時期を他人に任せたくない。それを働く意欲不足と言われるような社会はおかしい。だったら、子どもは産まない選択をする人が増えると思う。 <30歳代>
- ・子どもがいるならば年齢が低いほど、母親が必要になる。身体的負担が仕事に向ける気力を削ぐ。 <20歳代>

**男性**

- ・出産。 <30歳代>
- ・企業(職場)の協力体制が不十分。 <50歳代>

Ⅲ 記述部分と意見・要望等

問 15 あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思いますか。(〇は2つまで)

※その他欄に記述はありません

問 21 あなたが、誰(どこ)にも相談できなかったのはなぜですか。  
(あてはまる番号すべてに〇)

男性

・自分(たち)で解決すべきと考えたから。

<50歳代>

問 24 大災害が発生し避難が必要になったとき、あなたはどのようなことが心配ですか。  
(〇は2つまで)

女性

・今、病気なので、薬や医療を受けられるか。

<40歳代>

・自分の体が100%健康というわけではないので、迷惑をかけたり、役に立たなかったりするだろうと不安に思う。

<50歳代>

・自身が視覚障害のため、年寄りの両親を連れての避難が心配。

<50歳代>

男性

・避難した人、しなくてもよい人と対等な扱いができるか。

<70歳代>

問 25 防災・災害復興対策で男女の性別に配慮して取組む必要があると思うことは何ですか。  
(〇は2つまで)

※その他欄に記述はありません

問 26 あなたは現在、次にあげるような活動に参加していますか。また、今後参加したい(今後も参加したい)と思われるのはどのような活動ですか。  
(それぞれあてはまる番号に〇)

※その他欄に記述はありません

**問 29 あなたは、自治会・町会やPTA等の代表や職場の役職、議員や各種委員など、政策・方針決定の場に女性が参画することについてどう思いますか。(〇は1つ)**

**女性**

- ・増えても良いと思うが、女性だからという理由はいらないと思う。意欲のある人が性別関係なく参画すればよい。 < 20歳代 >

**男性**

- ・男女比に関係なく、能力等の適性のある人が行えばよい。 < 50歳代 >
- ・数の問題ではない。 < 30歳代 >
- ・男、女というものではないと思う。 < 60歳代 >
- ・性別という括りで、数が適当かどうかを考えること自体が性差別だと思えます。性別によりわけることなく、全ての人が意見を言える環境が望ましいと思えます。 < 30歳代 >

**問 30 自治会・町会やPTA等の代表や、議員や各種委員など、政策・方針決定の場に女性の参画が増えていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は1つ)**

**男性**

- ・女性を増やす意味がわからない。そういう企画は金のムダと感じる。 < 30歳代 >
- ・子どもと共に参加できる等、この時間は子どもを預けられる等、参加ができる仕組みづくりが必要。 < 40歳代 >

**問 32 市では、男女共同参画社会の実現を目指して、さまざまな施策を実施していますが、今後はどのようなことに力をいれていくことがよいと思いますか。(〇は2つまで)**

**女性**

- ・活躍している女性を呼んで講演会など行う。 < 30歳代 >
- ・子育てが終わっているので、これからどのような事が必要なのかわからない。 < 50歳代 >

**男性**

- ・必要ない。男性が世の中の中心でよい。 < 40歳代 >
- ・一般市民への男女共同参画社会活動の積極的なPR。 < 70歳代 >
- ・老若男女、関係なしに参加できる(参加したくなる)イベント。 < 30歳代 >
- ・女性を優遇する施策は一切不要。金のムダだと感じる。そういう話をする事自体ムダと感じる。女性とか男性とか分ける意味が分からない。平等っていう考えは要らない。 < 30歳代 >
- ・男女が気になるのなら、全て男女1名ずつ選んだらよいと思う。 < 60歳代 >

## 《自由回答》

桶川市の男女共同参画に関する施策について、ご意見やご要望等がございましたら、ご自由にご記入ください。

市の男女共同参画に関する施策について意見、要望を自由に記入していただいたところ、60人から延べ65件の回答が寄せられました。意見や要望等について、下記の内容に分類して、掲載いたします。

内 容 分 類	件 数
男女共同参画について	24
意識改革・啓発について	6
子育て・介護について	6
社会制度について	2
行政施策への要望について	11
調査について	9
その他	7
合 計	65

### 【男女共同参画について】24件

- ・ 本当の平等というものは、何が正しいか！？体の仕組みや生理的に違う男・女ですから、正解は1つではないと思います。大切な事は、ただ平等というシステムやしくみではなく、お互いが得意な事や部分を活かし思いやりを大切にすること。いたわりを家庭の中からはじめる事が社会に広がっていくのではないかと思います。目の前にいる人を大切にしていこうと決意しました。  
＜女性/40歳代＞
- ・ 正直、未だ本音で男女平等について話せる世の中にはなっていない。多分、これを担当しているかもしれない男性も家で家事を半分行っているとは思えない。きっと、100年経っても変わらない気がする。  
＜女性/60歳代＞
- ・ 女性の社会的地位や意見が尊重されていくのは望ましいことだと思いますが、一方で近年では、男女平等という言葉が過剰に保護され、間違った方向に独り歩きしているように感じることもある。ただ、単純に女性を優遇するのではなく、男女共に同じフィールドに立つことができる土台作りをしていただけたらと思います。  
＜男性/20歳代＞
- ・ そもそも男、女と区別することに問題がある。能力があれば男でも女でも可。男は権力にしがみつく方が多いから、よくない。そうでなく横のつながりを大切に人なら、区別は必要ない。家でも職場でも男、女ではなし。もっと内的に満たされるよう、思いやりとか、そっちの方が大切だよ！他人なくして自分はないということに気付けばよい  
＜女性/50歳代＞

- ・大きな災害が起きた時は、男子、女子などない。子ども、成人、老人、それぞれ助け合い、できることをする。やれることは各人が必ずあるはずだから。 <女性/70歳代>
- ・女性の権利は必要ない。凶々しい。女性は男性より下でよい。 <男性/40歳代>
- ・女性については、社内など周りを見ると、ずっと仕事を続けたい人、結婚できないのでやむなく仕事を続ける人、専業主婦を望んでいる人など、それぞれに様々である。それはそれでいいのではないか、それぞれの考えを尊重していけばよいのではないかと思う。時間をかけて少しずつ男女共同参画を進めていけばよいのではないのでしょうか。無理に進めても歪みが出てしまう。 <男性/60歳代>
- ・男女平等は当然の事と考えますが、男性が出産できない以上、何もかも同じにはできないと思います。従って、何をもって平等と考えるかという事が大切だと思います。 <男性/50歳代>
- ・知ってもらふ為の活動を更にやるべきでは・・・。やっているだけじゃなく、活用してもらわなければ！！ <女性/50歳代>
- ・男女共同参画という言葉の意味の普及をもっとすべきだと思います。桶川には市民まつりや子どもの日付近に行われるおまつり等、市民参加する機会が多いと思うので、この時に是非アピールしてほしいです。 <女性/40歳代>
- ・実際、平等とは思えない世の中です。桶川市だけではありません。求職についても子どもの成長を共にお金がかかり、収入を増やしたくても女性が働くには、色々な問題が解決されていない。女性もフルタイム、パートの収入で将来の安心を得たくてもなかなか雇用してもらえません。女性の収入が増えない男性の収入が増えてないのが現実です。その中で、少子高齢化になる。なってから、あわてても遅いのです。先に見てきちんと市も県も、国もかんがえなければいけないのです。女性は、身体的なものは男性にはかないませんが、柔軟性があり、実際を守っているのは女性です。色々な場で男女平等値ではないと変化は得られないと思います。 <女性/40歳代>
- ・間違った男女平等により、働きたくない(家庭にいたい)女性まで働くことになっています。そういう人は、仕事に向かない人が殆どであるため、責任の軽い楽な仕事に就きます。そうすると同じ特性をもつ男性の職を奪います。奪ってまで働いても本来やりたいことではないから、幸せではありません。男性の給料が下がって生活のために仕方なく働いているのです。仕事に向かない女性は劣っているだなんて思いません。自分が向いているやりたいことをやれば幸せで、素晴らしい事です。専業主婦で輝くことだってできるのです。 <女性/30歳代>
- ・あらゆることに対して男女の区別なく関わるべきだと思いますが、実際には、そうなっていません。せめて、ヨーロッパや北米のレベルくらいまでになると良いのですが。「男女共同参画」という言葉があること自体がおかしいと思っています。私自身はこの言葉にはネガティブのイメージしか持っていません。 <男性/50歳代>
- ・男女共同参画の内容がよくわからない。 <不明/70歳代>
- ・結婚して、子どもを産み、定年まで働き続けました。子どもを育てる時はやめたいと思いましたが、どうにか大変な時を乗り越えられ、今に至っております。子どもを育てながら男女が思いやりを持って働きながら世の中を良くする事だと思います。女性も視野が広がり毎日が明るくなると思います。 <女性/70歳代>

### Ⅲ 記述部分と意見・要望等

- ・男性が意識改革が早急に必要だと感じている。女性が働いて要職について家事、育児、介護をするのは、もう限界になっているのではないだろうか。夫の言動は、女性は家事、育児をすることを思っていることが伺える。会社では、女性の地位向上や職務内容が増えるようで、平等にすべきという雰囲気があると思われるが、内心は、快くおもっていないと思われる言動もある。男女共に平等な社会を強く望みたい。 <女性/50歳代>
- ・これから若年層の人口が減少するので、働き手となる女性の採用を推し進めてほしい。 <女性/50歳代>
- ・施策について、引越して来たばかりでありあまり知らないなので、どういう施策かという目的でおこなわれているのか知りたい。学校や職場や家庭でもっと自由に社会や政治について議論できるような施策があるといい。男女共同参画というのは、役割の問題や平等意識の問題であるだけでなく、男女が共に社会的、政治的なことに係わることであり、そうした話し合いの中、新しいアイデアや現在の問題が見えてくる。 <男性/50歳代>
- ・自身は生活していて男女の差別を感じることはありませんが、実際に不当に扱われている人の声を汲んでいただければと思います。また“女性が社会に参画する”という活動の影に、男性が“男だから”とあって、不当な扱いを受けている人がいるようであれば、目を向けて、まとめて救っていきたいですね。よろしくお願いします。 <女性/20歳代>
- ・市役所等の自治体が、男女共同参画のよい先行事例をつくっていただけると有り難いです。行政サービスの改善、向上などの効果が現われてくることで。地域や企業も見習う動きにつながり、男女共同参画社会が少しずつ浸透していくのではないかと思います。アンケートありがとうございました。 <男性/40歳代>
- ・男性と女性が対等な立場で働くことは、どのような制度を作っても難しい事だと思う。平等になる様に制度を作ったとしても、家族に何があった場合、例えば、子どもが熱を出して、保育所や学校から連絡が来て迎えに行ったり、病院に連れて行くのは女性である。母親の方がするのであろうと親の介護で身体的に負担がかかるのは女性の方であると思う。そういった事で女性が仕事を早退したり休んだりする事で“女性はたよりにならない”と職場で思われ（特に男性に）、結果的に女性に仕事が回ってこなくなったり、見下されたりするのだと思う。働きたいという女性に優しい社会になって欲しい。ただ、社会のため、納税のために子育てや介護が大変な人に無理に働けというのは、どうかと思う。働きたくても働けない環境にいる人もいるという事の制度を作る人は考えてもらいたいと思う。 <女性/40歳代>
- ・わざわざ男だ、女だと言っていることが理解できない。市役所の体質なのかも知れないので、そこから改めたら良いと思います。 <男性/60歳代>
- ・私は女性です。何でもかんでも男女平等ではないと思っているので、適材適所であれば男女比は気になりません。ここのところニュースで度々上がっている議員を見ても女性、女性と言われて、表舞台に出てはいるが、スキャンダラスなことばかり。女性の方が少ないのにスキャンダルは女性が目立つ。あ～残念な気になります。 <女性/50歳代>
- ・現社会は、多くを女性に求めすぎだと思います。男女平等と言っていますが、そもそも男性に出産はありえません。それぞれの家庭の中で話し合いにより、ベストな生活を選択出来るような社会があればと思います。 <女性/50歳代>

【意識改革・啓発について】 6件

- ・各種施策についての啓発活動をより一層推進していただきたいと思います。  
<男性/70歳代>
- ・男女共同参画を目指すのであれば、市の雇用機会の中で男女比を半々にし、責任者（管理者）の割合も同じ比率にするくらいの覚悟でやってほしい。そこでおこる困った事態（管理者の育児休暇等）には、全力で取り組むべき。自治体、国等が変わらなければ、民間も変わらないと思う。  
<女性/30歳代>
- ・男女共同と言っていることで、差別があると言っている感じがある。もっとよいネーミングがあればよい。  
<男性/30歳代>
- ・企業トップの人達（男性）の考え方が依然として偏見がある場合が多い。そのような人たちへの啓発活動をして欲しい。  
<男性/30歳代>
- ・男女共同参画事業のPRが不足しているように思えます。もう少し、なじみ易いわかり易い名称から考え直してみたいかがでしょうか。  
<男性/70歳代>
- ・市で行われている組織でしかないものが殆どだったのに。もっとアピールなどをして、知ってもらわなければもったいないと感じた。積極的な取組をしているのは素晴らしいと感じるため、さらに発展や宣伝を頑張ってくださいたいです。  
<女性/20歳代>

【子育て・介護について】 6件

- ・待機児童ゼロではなく、働かなくても生活できるのが重要と思う。子育て中は、夫の給料に手当がつくとかが必要と思う。  
<男性/60歳代>
- ・働けるために安全な子どもの居場所をもっと充実していただきたいと思います。小学生が放課後一人で過ごす事のないよう、放課後クラブや放課後こども教室を充実して、安心して働くことができるよう早急に対応願いたい。  
<女性/40歳代>
- ・子どもの医療費も他の市に比べると遅く、子育てには優しくない桶川だと思っていた。子育てや介護に優しい桶川になって欲しいです。市民の高齢化がかなり進んで心配です。近所は、ご老人ばかり・・・30代、40代の子育て世帯が働きやすく、安心して働き暮らせる桶川になって欲しいです。救急病院も少なく、産婦人科もない状況、怖いです。  
<女性/40歳代>
- ・自分が産んだ子どもを自分で育てることに対する否定的な考えがあるなら、それはどうかと思います。それこそ、産んだことのない男性の意見の象徴ではないでしょうか。仕事をするのも大切ですが、家庭を守ることも大切です。専業主婦には給与が発生しません。それでも専業主婦を選ぶ人はたくさんいます。むしろ、専業主婦や子育て主婦を優遇するような制度をつくって欲しいです。仕事をバリバリしていた時より、子育てしている今の方が、よっぽど疲れているし、大変です。  
<女性/30歳代>
- ・保育施設や時間外保育を充実して欲しい。  
<女性/50歳代>
- ・うちには介護の親がいます。私はパートをやっておりますが、もっと働きたくても時間が増やせません。ここ3ヶ月、ケアマネージャーさんや施設にお世話になり、大変助かります。やはり、プロの方をお願いするのが一番いい方法だと思いました。家庭だけでは、なかなかうまくいきません。今後、高齢者が増える一方なので、女性が仕事を永くやるには、介護施

### Ⅲ 記述部分と意見・要望等

設の充実や高齢者が自立して生活できることが必要だと思います。 <女性/40歳代>

#### 【社会制度について】 2件

- ・仕事といっても事務職「デスクワーク」が対象で、作業や接客の職種はどうなるのか。市は県を見習い、県は国を見習う。もっと市独自のものを打ち出さないと。 <男性/60歳代>
- ・男女共同参画のいろいろな計画は良いが……。経営者として、労働人口の減少で、どの企業も無理をしているのでは？また、働く女性も生活をしなければやっていけない状態で、このような計画は、理想ではあるが、介護施設を運営していて、常に人が足りない状況で、職員が長期休業ばかり取られては、高齢者へのサービスの質が下がってしまう。男女共同参画と共に人手不足にも配慮をして欲しい。 <女性/50歳代>

#### 【行政施策への要望について】 11件

- ・先ず、市役所内で点検・改善から始める事で、具体的な問題点が見えてくると思います。『本気』が大切だと思っている。 <男性/70歳代>
- ・市には色々な部所や課がありますが、特に今回の男女共同参画課の仕事の内容はわかりづらい。広報や説明会等でPRをし、もっと市民の皆さんに理解されていかれることを希望します。今回の意識調査でいくつか理解できました。 <男性/70歳代>
- ・施策をもっと市民にアピールし、関心を持ってもらう努力が必要だと思う。 <男性/70歳代>
- ・市の事業への女性の参加には、まだまだ少ないと感じられます。色々な組織編成等の時はあらかじめ女性人数等を決め募集活動を細かく周知することが必要なと思います。広報などで目立つ案内をするなど申し込みしたくなるようなキャッチフレーズで女性の必要性が感じとれる内容がよいと思います。 <女性/60歳代>
- ・男女だけでなく、「温故知新」故きを温ねて新しきを知る。老若男女で参加できる、したくなるイベントなどを開いて、子どもたちに大人とふれあう時間があるとよいと思う。 <男性/30歳代>
- ・市の活動では、毎月の広報でしか知る機会がないと思います。スマートフォンアプリでの紹介や市民ホールでの活用で、若者にはコンサートを利用した活動をするとうよい。 <男性/60歳代>
- ・今一やっている事が分からないので、もっと分かりやすく説明が欲しい。若い私たちにも理解できて、利用しやすいものがよい。 <女性/20歳代>
- ・市が男女参画について行っている事をあまりというか、よく知らなかった。このアンケートを受けて、「アソシエ」や「かがやき」を見直してみた。40代だけど知らない、わからない事がたくさんあった。桶川市に引っ越してきて14年が過ぎ、子どもも高校生と中学生になったが、まだ桶川市民になりきれていないことが多い。実家のある深谷市の広報を見ては「桶川より深谷の方が住みやすい」と思ってしまう。仕事の求人などを見ても私のような40代、主婦でも働ける場所があり、子どもや高齢者にやさしい行政だと思う。桶川も頑張っしてほしいと思う。 <女性/40歳代>

- ・アンケートご苦労様です。きっと、いろんな苦しみをかかえていらっしゃる方がいるのかもしれない。一番苦しんでいる方から順番に援助してあげてください。かつて、どこかで“すぐやる課”なんていうのがあったが精神的サポート版すぐやる課「雨二モ負ケズ、東、西、南、北、」はいかがでしょうか。DVをやる人は、生育歴の中で、親から虐待か無視をされている。 <男性／70歳代>
- ・超高齢化社会にむかって、子育て世代の充実とフォローが必須です。60・70歳代の経験豊のある方の支援が大切かと思えます。特に資格を持っている方が登録していて、応援できる制度があるとよいと思えます。 <女性／60歳代>
- ・男女共同参画事業のことあまりよく知りませんでした。忙しい日々を送る中、それぞれの立場を頂いているものもありますが、片寄っている場合もあり、もう少し広い意味で気楽に勉強する機会があれば参加して参りたいと思えます。 <女性／70歳代>

#### 【調査について】9件

- ・年齢がバラバラな人へのアンケートとのこと。質問があてはまらない年齢の人には？な感じ。「○」は2つまでとかではなく、あてはまるものに「○」の方がよいと思いました。アンケートが無駄にならない様に今後の男女共同参画事業の参考にしていただきますようお願いいたします。 <女性／50歳代>
- ・選択肢の内容が具体的なことと、それを含む大きな目標的な事と一緒に羅列してあって、選択するときには少々迷ったりして疑問に思いましたので、選択肢の文を再考する余地があるように思いました。生意気な事を言ってしまう。今後の行政に役立つよう願っています。 <女性／50歳代>
- ・これからの時代を考えた場合、当然のことであり、今以上に積極的に取り組んでいく必要があると思えます。日常からより多くの活動をし「さすが桶川は進んでいる」と言われる活動をしていくべきであります。 <男性／70歳代>
- ・「女性が～」しかない。「男性が～」の質問がない時点で平等ではない。 <男性／30歳代>
- ・このような意識調査は、反映されれば大変有意義なものです。今回、送って下さりありがとうございました。集計は大変だと思いますが、頑張ってください。 <女性／30歳代>
- ・アンケートが多すぎる。 <女性／50歳代>
- ・「共同参画」がそもそも市内で如何程望まれているかの男女・年代・別のヒアリング及びそのデータ化・可視化・広報などで施設のニーズ把握をして欲しい。 <女性／50歳代>
- ・テーマに絞り込んだアンケート調査をもっと実施すべきだと思います。例えば、介護や育児、障害者、医療サービス等に対して、行政サービスはどこまで介入していけばいいのか等、市民目線でのサービスの在り方を検討すべき。 <女性／50歳代>
- ・女性重視のアンケート？市民にもっと身近な施策をPRしなければ参画できないのではないかな。 <男性／60歳代>

### Ⅲ 記述部分と意見・要望等

#### 【その他】 7件

- ・ボケ防止のため、男女参画スペースで麻雀の場所、設備があったらよいと思います。  
＜男性／70歳代＞
- ・やはり教育こそが最も重視されるべき。そして、教育を行う者の研修が大事だと思う。  
＜男性／20歳代＞
- ・本人（夫）の意見を口頭で聞き書きしながら、男のあまりの無理解、無関心に怒りを覚えた。本人（夫）は、今までに平等でむしろ男の方がしいたげられている。男女共同参画なんて不要と考えているが、現実があまりに近すぎていて怒りを覚える。夫の仕事の都合で転勤→妻が退職、出産の為パートしか勤められず、家事・育児も100%妻が行っているのに、本人（夫）は平等という。「平等」の意味が分かっていない。分けられるパイの総数が、全体像が全くかかっていないのに。こんなアンケート無意味だと思う。夫は「既に平等」「むしろ男が色々我慢している」「政治もゆりちゃん（女性である小池都知事）が一番強い！」と全体をもって不勉強きわまりない。おろかしい認識なので、一市民である妻としては、男女共同参画の前提として、こんなアホな男を作らん教育ってものを、本当に実現して欲しいと思う。アホな男がいる限り、共同参画のコーナーやらフォーラムやら情報誌やら、もう全て金の無駄だ。アホはそんなもんで変わらない。保育園や幼稚園、むしろ赤ん坊からこんなアホな男を作らん教育をして欲しい。できれば、こんなアンケート意味がない。金のムダだ。「男女平等なんか要らん、そんなもんそもそも興味ないと本音で思っている。男が多数決で国や県や市の意見を決めていく。だから、いつまで経っても保育園は足りないし、子どもを産みたくない、結婚したくない女ばかりになる。」  
＜男性（妻：代筆）／30歳代＞
- ・特に小学校のPTA活動って、はっきり言ってムダな事が多かった気がします。PTAの役員は、かならず何回かはひきうけることになり、何か行事がある毎に仕事を休んで、参加せざるを得ず、しかも「これ、本当に必要なの？」と思う仕事（特に講演会、フラワーアレンジメント、料理講習会等々）や話し合いには、首を傾げています。友人や知人はできますが、仕事をしている身は、かなり困りました。だから、本当にやりたくなかったです。私よりも忙しい人は夫に頼むことも、もちろんできませんしね・・・。行事に参加しているPTA役員のほとんどが女性（つまり生徒の母）というのも、よく考えてみれば、変でしょ？（「父兄会」ってなつかしい言葉）ムダを除いて仕事を持っている母ちゃんには仕事をさせて下さい。お願いします。  
＜女性／50歳代＞
- ・今は、病気治療中で殆ど家に居まして、共同参画については殆ど考えたことがありません。ただ、「男だから、女だから」と気にする『女性』の方が「レディースday」をととても喜んで利用することが私にはよくわからないのですが・・・。  
＜女性／50歳代＞
- ・今は、技術革新に伴い、人間関係、仕事など将来設計の各々深く考える時代が到来していると思います。それには、他者への思いやり精神が大切だと思います。忍耐、慰め、希望の有る社会こそ、平和への道なり！  
＜女性／70歳代＞
- ・暴力は肉体的なもの、精神的なものを問わず、すべての人がその被害から守られるべきものであると考えますが、桶川市の暴力防止の資料には、女性への暴力のみを問題としているように読み取れるものが多くありました。より多くの方が賛同し、暴力をなくそうとする為には、特定の性別への暴力のみを問題としない方がよろしいのではないのでしょうか。  
＜男性／30歳代＞

## 参考資料 依頼文及び調査票



## 桶川市 男女共同参画に関する市民意識調査

### ご協力をお願い

平素から市民の皆様には、市政にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

桶川市では、男女共同参画社会の実現に向け、「第三次男女共同参画基本計画」を策定し、男女が性別にかかわることなく、社会のあらゆる場に参画し、その個性と能力を十分に発揮できる社会を目指して、さまざまな取り組みを進めています。

このたび、この計画の改定にあたり、市民の皆様の男女共同参画に関する意識や実態を把握し、今後の計画や施策に反映させることを目的として調査を実施することといたしました。

この調査票は、平成29年9月1日を基準日として、桶川市に住民登録をされている18歳以上の市民1,000名を無作為に抽出し、お送りしています。

なお、この調査票は統計的に処理し、目的以外には利用いたしません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解の上、ご協力をお願い申し上げます。

平成29年10月

桶川市長 小野 克典

#### 【調査票のご記入にあたって】

- ◆ あて名のご本人がご自分の考えでお答えください。なお、ご本人がご記入できない場合は、ご家族などがご本人の考えを聞きながらご記入ください。
- ◆ お答えは、あてはまる番号を○で囲んでください。質問によって、○をつける数を指定しておりますので、その範囲内でご記入ください。また、番号で答える問いは、の中にあてはまる番号をご記入ください。
- ◆ 「その他」をお選びになった場合は、( )内に具体的な内容をご記入ください。
- ◆ ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて、

**平成29年10月31日（火）**までに郵便ポストへ投函してください。

#### 【お問合せ先】

桶川市 企画財政部 人権・男女共同参画課 男女共同参画担当

TEL：048-786-3211（内線1293）

FAX：048-786-9866

E-mail：danjo@city.okegawa.lg.jp

## あなたご自身のことについて

F 1 あなたの性別を、お聞かせください。(○は1つ)

1. 女性                      2. 男性

F 2 あなたの年齢は、おいくつですか。(○は1つ)

1. 10代            2. 20代            3. 30代            4. 40代  
5. 50代            6. 60代            7. 70代            8. 80代以上

F 3 あなたの職業を教えてください。(○は1つ)

1. 会社員・団体職員            2. 自由業・自営業            3. パート・アルバイト  
4. 公務員・教員            5. 家事専業            6. 学生  
7. 無職            8. その他 (                      )

F 4 あなたは現在結婚していますか。(○は1つ)

1. 結婚している(事実婚含む)            2. 死別または離別している            3. 結婚していない

「1. 結婚している」とお答えした方はF 5へ。

それ以外の方はF 6へ。

F 5 あなたのご家庭の現在の勤労形態はどれですか。(○は1つ)

1. 共働き            2. 夫(パートナー)のみ働いている            3. 妻(パートナー)のみ働いている  
4. とともに無職            5. その他 (                      )

F 6 あなたの現在の家族構成はどれですか。(○は1つ)

1. 単身世帯(一人住まい)            2. 1世代世帯(夫婦・パートナーのみ)  
3. 2世代世帯(親と子ども)            4. 3世代世帯(親と子どもと孫)  
5. その他 (                      )

**男女平等意識について**

問1 あなたは、「男は仕事、女は家庭」という考え方に同感しますか。(○は1つ)

1. 同感する
2. 同感しない
3. どちらともいえない
4. わからない

問2 次のような分野で、男女のあり方はどのようになっていると思いますか。(それぞれあてはまる番号に○)

	1 平等になっている	2 女性の方が優遇されている	3 男性の方が優遇されている	4 わからない
1. 家庭	1	2	3	4
2. 職場	1	2	3	4
3. 教育	1	2	3	4
4. 政治	1	2	3	4
5. 社会通念や習慣	1	2	3	4
6. 法律や制度	1	2	3	4
7. 地域	1	2	3	4

問3 今後、社会のあらゆる分野で男女がより平等になるために、最も重要と思うことはなんですか。(○は1つ)

1. 法律や制度上での見直しを行い、差別につながるものを改めること
2. 古くからの社会通念、習慣、しきたりを改めること
3. 女性自身の経済力、知識や技術の習得などの向上を図ること
4. 女性の就業、社会のあらゆる分野で活躍する女性を支援する施設やサービスの充実を図ること
5. 政府や企業、地域社会などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を取り入れること
6. その他 ( )
7. わからない

**家庭生活について**

問 4 家庭における男女の役割分担について、理想はどうあるべきだと思いますか。また、実際に結婚している方や、パートナーと同居している方の状況はどうですか。

次の中から、あなたの考え方や状況に最も近いものを選んで、それぞれの  の中に番号をご記入ください。(番号は1つ)

- 1. 男性は仕事、女性は家事・育児・介護を分担する
- 2. 男性は仕事、女性は家事・育児・介護に差し支えない範囲で仕事をする
- 3. 男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に女性が分担する
- 4. 男女とも仕事をし、家事・育児・介護は主に男性が分担する
- 5. 男女とも仕事をし、家事・育児・介護は男女とも分担する
- 6. 男女とも仕事をし、家事・育児・介護は家族や民間サービスを活用する
- 7. 女性は仕事、男性は家事・育児・介護を分担する
- 8. 女性は仕事、男性は家事・育児・介護に差し支えない範囲で仕事をする
- 9. その他(  )

理想は

現在結婚している方、パートナーと同居している方にお聞きします

実際は

問 5 あなたの家庭での男女の役割分担について、あなたは満足していますか。(○は1つ)

- 1. 満足している
- 2. どちらかといえば満足している
- 3. どちらかといえば不満である
- 4. 不満である
- 5. わからない
- 6. 該当しない(単身世帯、結婚していない、パートナーと同居していない など)

問6 今後、男女が家事・育児・介護をともに分担していくためには何が必要だと思いますか。(〇は2つ)

1. 学校における男女平等の意識を育てる教育
2. 男だから、女だからこうあるべきだという固定的な考えを改めるための啓発活動
3. 育児・介護休業制度の一層の普及
4. 男性の働き方の見直しや、男性は仕事、女性は家事・育児・介護が仕事という意識を改めること
5. 女性の働き方の見直しや、女性は家事・育児・介護が仕事、男性は仕事という意識を改めること
6. 企業における男女とも仕事と家庭生活を両立できるための職場環境の整備
7. 保育所や学童保育の整備、介護施設や介護サービス等の充実
8. その他 ( )
9. わからない

問7 育児や介護を行うために、法律に基づき男女とも育児休業や介護休業を取得できる制度があります。あなたは、その必要性が生じたとき「育児休業制度」や「介護休業制度」を利用することについてどう思いますか。(〇は1つ)

1. 利用したい
2. どちらかといえば利用したい
3. 利用したいが、利用できない
4. どちらかといえば利用したくない
5. 利用したくない
6. わからない

「3. 利用したいが、利用できない」「4. どちらかといえば利用したくない」「5. 利用したくない」とお答えした方は問8へ。

それ以外の方は問9へ。

問8 育児休業制度や介護休業制度を利用できない、または利用しない理由は何ですか。(〇は1つ)

1. 経済的に生活が成り立たなくなるから
2. 会社や上司、同僚に理解を得られないから
3. 勤務評価に影響するから
4. 職場に自分の代わりがないから
5. 育児は女性の方が向いているから
6. その他 ( )
7. わからない

### ワーク・ライフ・バランス※について

(※)ワーク・ライフ・バランス・・・仕事と生活の調和。仕事をしながらも家事・育児、趣味、地域生活等を充実させること。

問9 あなたは、ワーク・ライフ・バランスという言葉を見聞きしたことがありますか。(○は1つ)

1. 知っている
2. 言葉は知っていますが、内容はわからない
3. 知らない

問10 あなたの生活の中で、仕事、家庭生活、個人の生活（地域活動、趣味等）の何を1番に優先にしますか。(○は1つ)

1. 「仕事」を優先
2. 「家庭生活」を優先
3. 「個人の生活」を優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「個人の生活」をともに優先
8. わからない

問11 あなたのワーク・ライフ・バランスはどの程度実現されていますか。(○は1つ)

1. 十分に仕事と生活の調和がとれている
2. どちらかといえば仕事と生活の調和がとれている
3. どちらかといえば仕事と生活の調和がとれていない
4. 仕事と生活の調和はとれていない
5. わからない

問12 今後、ワーク・ライフ・バランスを実現するためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(○は2つまで)

1. 給与などの男女間格差をなくすこと
2. 年間労働時間を短縮すること
3. 育児休業・介護休業制度を利用できる職場環境をつくること
4. 育児や介護のために退職した職員を再雇用する制度を導入すること
5. 育児休業・介護休業中の賃金などを充実すること
6. 保育施設や介護施設等のサービスや支援の内容を充実させること
7. 在宅勤務など柔軟な勤務体制を導入すること
8. 職業上、必要な知識・技術などの職業訓練を充実すること
9. 女性が働くことに対し、家庭や周囲の理解と協力があること
10. 男性が家事や育児を行うことに対し、職場や周囲の理解と協力があること
11. 男性が家事や育児・介護を行う能力を高めること
12. その他 ( )
13. わからない

就労について

問13 あなたは、女性の働き方について、望ましいと思うのはどれですか。(○は1つ)

1. 結婚や出産にかかわらず、ずっと仕事を続ける
2. 結婚するまでは仕事を続け、結婚したら辞める
3. 子どもができるまでは仕事を続け、子どもができたら仕事を辞める
4. 子どもができたら仕事を辞め、子どもに手がかからなくなったら再び仕事をする
5. 仕事は持たない
6. その他 ( )
7. わからない

問14 女性が仕事をもち続ける上で、障害になるものは何だと思えますか。(○は2つまで)

1. 家族の協力や理解が得られないこと
2. 保育施設や保育時間などの制度が整っていないこと
3. 介護や病人の世話を主に分担していること
4. 採用・昇進・給与等の男女不平等
5. 勤務体制・転勤
6. 夫(パートナー)の転勤
7. 女性自身の仕事に対する意欲不足
8. 障害になるものはない
9. その他 ( )
10. わからない

問15 あなたは、女性が結婚後、出産後も退職せずに働き続けるためには、どのようなことが重要だと思えますか。(○は2つまで)

1. 夫(パートナー)の理解や家事・育児などへの参加
2. 夫(パートナー)以外の家族の理解や家事・育児などへの参加
3. 保育施設や保育時間などの充実
4. 福祉施設やホームヘルパーの充実
5. 労働時間の短縮、フレックスタイム制度の導入
6. 企業経営者や職場の理解
7. 育児・介護休業などの休暇制度の充実
8. 昇進・昇給などの職場での男女平等の確保
9. その他 ( )

## 配偶者等からの暴力について

問16 次のようなことが配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人同士の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（それぞれあてはまる番号に○）

	1 どんな場合でも暴力に当たる	2 暴力の場合とそうでない場合がある	3 暴力にあたるとは思わない
1. 骨折させる	1	2	3
2. 打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3
3. 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
4. 身体を傷つける可能性のある物で、なぐる	1	2	3
5. 突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする	1	2	3
6. 手でぶつ、足でける	1	2	3
7. 物を投げつける	1	2	3
8. なぐるふりをして、おどす	1	2	3
9. ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす	1	2	3
10. いやがるのに、性的な行為を強要する	1	2	3
11. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌をみせる	1	2	3
12. 何を言っても、長時間無視し続ける	1	2	3
13. 交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する	1	2	3
14. 「誰のおかげで生活できるのか」などと言う	1	2	3
15. 大声で、どなる	1	2	3

問17 あなたは、配偶者等からの暴力について相談できる窓口を知っていますか。（○は1つ）

1. 知っている                      2. 知らない

問 18 あなたは、これまでに配偶者や恋人など親密な関係にある方から、次のようなことをされたことがありますか。(それぞれあてはまる番号に○)

	1 何度もあった	2 1、2度あった	3 まったくない
1. 骨折させる	1	2	3
2. 打ち身や切り傷などのケガをさせる	1	2	3
3. 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
4. 身体を傷つける可能性のある物で、なぐる	1	2	3
5. 突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする	1	2	3
6. 手でぶつ、足でける	1	2	3
7. 物を投げつける	1	2	3
8. なぐるふりをして、おどす	1	2	3
9. ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす	1	2	3
10. いやがるのに、性的な行為を強要する	1	2	3
11. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌をみせる	1	2	3
12. 何を言っても、長時間無視し続ける	1	2	3
13. 交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する	1	2	3
14. 「誰のおかげで生活できるのか」などと言う	1	2	3
15. 大声で、どなる	1	2	3

すべて「3 まったくない」とお答えの方は問 22 へ。

それ以外の方は問 19 へ。

問 19 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(○は1つ)

1. 相談した	2. 相談できなかった	3. 相談しようとは思わなかった
---------	-------------	------------------

「1. 相談した」とお答えの方は問 20 へ。

「2. 相談できなかった」「3. 相談しようとは思わなかった」とお答えした方は問 21 へ。

問 20 あなたが、相談した人(場所)を教えてください。(あてはまる番号すべてに○)

- |                           |             |
|---------------------------|-------------|
| 1. 家族・親せき                 | 7. その他公的機関  |
| 2. 友人・知人                  | 8. 弁護士      |
| 3. 警察                     | 9. 医師       |
| 4. 人権擁護委員                 | 10. 民間の相談機関 |
| 5. 役所の相談窓口・電話相談など         | 11. その他 ( ) |
| 6. 配偶者暴力相談支援センター・婦人相談センター |             |

**問 22 へ。**

問 21 あなたが、誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（あてはまる番号すべてに○）

1. 誰（どこ）に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 相談窓口の担当者の言動により、不快な思いをすと思ったから
6. 自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから
7. 世間体が悪いから
8. 自分以外の周囲の人を巻き込みたくないから
9. 思い出したくないから
10. 自分に悪いところがあると思ったから
11. 相談するほどのことではないと思ったから
12. その他 ( )

問 22 「デートDV」とは、恋人間でさまざまな暴力により相手を思いどおりにすることです。  
あなたは、デートDVについて知っていますか。（○は1つ）

- |          |         |
|----------|---------|
| 1. 知っている | 2. 知らない |
|----------|---------|

問 23 あなたは、女性の妊娠・出産・中絶・更年期などの健康管理や判断が、自分の意思でできていると思いますか。（○は1つ）

- |                   |                 |          |
|-------------------|-----------------|----------|
| 1. そう思う           | 2. どちらかといえばそう思う |          |
| 3. どちらかといえばそう思わない | 4. そう思わない       | 5. わからない |

問 24 大災害が発生し避難が必要になったとき、あなたはどのようなことが心配ですか。(○は2つまで)

1. 災害についての的確な情報が得られるか
2. 家族との連絡がとれなくなるのではないか
3. 病人・高齢者・障害者を連れて安全に避難できるか
4. 子どもや乳幼児を連れて安全に避難できるか
5. 近所の人たちと助け合って避難できるか
6. 避難場所が安全か
7. ペットと一緒に避難できるか
8. その他 ( )
9. 特にない

問 25 防災・災害復興対策で、男女の性別に配慮して取り組む必要があると思うことは何ですか。

(○は2つまで)

1. 避難所の設備 (男女別トイレ・更衣室、防犯対策等)
2. 避難所運営の責任者に女性が配置され、被災者対応に女性の視点が入ること
3. 避難所等での性犯罪の防止
4. 乳幼児、高齢者、障害者、病人、女性 (女性用品) に対する備えやニーズの把握、支給する際の配慮
5. 災害時の救援医療体制 (診察・治療体制、妊産婦)
6. 被災者に対する相談体制
7. 対策本部に女性が配置され、対策に女性の視点が入ること
8. 防災計画・復興計画策定過程、防災会議に女性が参画すること
9. その他 ( )
10. 特にない

## 地域参加・社会参画について

問 26 あなたは現在、次にあげるような活動に参加していますか。また、今後参加したい（今後も参加したい）と思われるのはどのような活動ですか。（それぞれあてはまる番号に○）

	1 現在、参加している	2 今後、参加したい
1. 自治会・町内会などの地域活動	1	2
2. 子ども会やスポーツ・レクリエーション活動	1	2
3. 高齢者や障害者への手助けなどのボランティア活動	1	2
4. 国際交流や環境保護などの市民活動	1	2
5. 盆踊りや祭りなど地域の催し	1	2
6. 地域での講演会や講座	1	2
7. 仲間が集まって行う研究会や学習・趣味	1	2
8. 審議会や運営委員会など行政の委員会	1	2
9. その他	1	2

問 27 あなたが、自治会・町会やPTA等の代表、または、職場の役職に選ばれる機会があったらどうしますか（○は1つ）

1. 積極的にやりたい
2. どうしてもと頼まれればやってよい
3. 家族と相談してから決める
4. やりたくない
5. わからない

問 28 あなたは、次のような分野で女性の意見がどの程度反映されていると思いますか。

(それぞれあてはまる番号に○)

	1 十分反映されている	2 ある程度反映されている	3 あまり反映されていない	4 ほとんど反映されていない	5 わからない
1. 国会、県議会、市町村議会などの政治	1	2	3	4	5
2. 国、県、市町村などの行政	1	2	3	4	5
3. 企業などの職場	1	2	3	4	5
4. 自治会・町内会、PTAなどの地域	1	2	3	4	5

問 29 あなたは、自治会・町会やPTA等の代表や職場の役職、議員や各種委員など、政策・方針決定の場に女性が参画することについてどう思いますか。(○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 男性を上回るほど増える方がよい</li> <li>2. 男女半々になるくらいまで増える方がよい</li> <li>3. 男女半々まではいなくても、今より増える方がよい</li> <li>4. 今のままでよい</li> <li>5. 今より少ない方がよい</li> <li>6. その他 ( )</li> <li>7. わからない</li> </ol>
---

問 30 自治会・町会やPTA等の代表や、議員や各種委員など、政策・方針決定の場に女性の参画が増えていくためには、どのようなことが必要だと思えますか。(○は1つ)

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「役職などは男性がやるもの」という意識をなくすこと</li> <li>2. 男性優位の組織運営を改善すること</li> <li>3. 女性の能力開発のため、研修や訓練の機会を充実させる</li> <li>4. 女性自身が積極的な意識・意欲を持つこと</li> <li>5. 家族からの支援や協力があること</li> <li>6. 女性の活動を支援するネットワークの充実を図ること</li> <li>7. 政策・方針決定の重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度の充実を図ること</li> <li>8. その他 ( )</li> <li>9. わからない</li> </ol>
--

桶川市の政策について

問31 市で行われている男女共同参画に関する取組や事業について、知っているものはありますか。

(それぞれあてはまる番号に○)

	1 知っており、利用・参加したことがある	2 知っているが、利用・参加したことはない	3 知らない
1. 男女共同参画コーナー「アソシエ」	1	2	3
2. 男女共同参画情報紙「かがやき」 (最新号は広報おけがわ平成29年2月号に掲載)	1	2	3
3. 男女共同参画フォーラム	1	2	3
4. 男女共同参画セミナー	1	2	3
5. 男女共同参画週間パネル展	1	2	3
6. 女性相談	1	2	3

問32 市では、男女共同参画社会の実現を目指して、さまざまな施策を実施していますが、今後はどのようなことに力をいれていくのがよいと思いますか。(○は2つまで)

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 男女平等意識を育てる学校教育の充実</li> <li>2. 男女平等意識を啓発するための講座やシンポジウム等の開催</li> <li>3. 女性の就労や起業のための支援</li> <li>4. 子育て支援の充実</li> <li>5. 男性の意識改革のための講座や啓発の実施</li> <li>6. 介護支援の充実</li> <li>7. ワーク・ライフ・バランスの啓発</li> <li>8. 政策・方針決定過程への女性の参画促進</li> <li>9. 地域活動への男女共同参画の促進</li> <li>10. 防災分野での男女共同参画の促進</li> <li>11. 男女共同参画コーナーなどの拠点施設の充実</li> <li>12. 女性に対する暴力の防止と支援の充実</li> <li>13. 相談事業の充実</li> <li>14. その他 ( )</li> <li>15. 特になし</li> </ol>
---

問33 市では、月に2回専門のカウンセラーによる女性相談を実施しています。

あなたは、男性についても専門のカウンセラーによる男性相談が必要だと思いますか。(〇は1つ)

1. そう思う      2. どちらかといえばそう思う  
3. どちらかといえばそう思わない      4. そう思わない      5. わからない

桶川市の男女共同参画に関する施策について、ご意見やご要望等がございましたら、ご自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

お手数ですが、同封の返信用封筒に入れ  
10月31日(火)までにポストへご投函ください。  
(切手、記名は不要です。)



桶川市マスコットキャラクター  
「オケちゃん」



平成 29 年度 男女共同参画に関する市民意識調査報告書

平成30 年3月

調査主体 桶川市企画財政部人権・男女共同参画課

〒363-8501 桶川市泉1丁目3番28号

電話 048(786)3211 FAX 048(786)9866



桶川市マスコットキャラクター「オケちゃん」